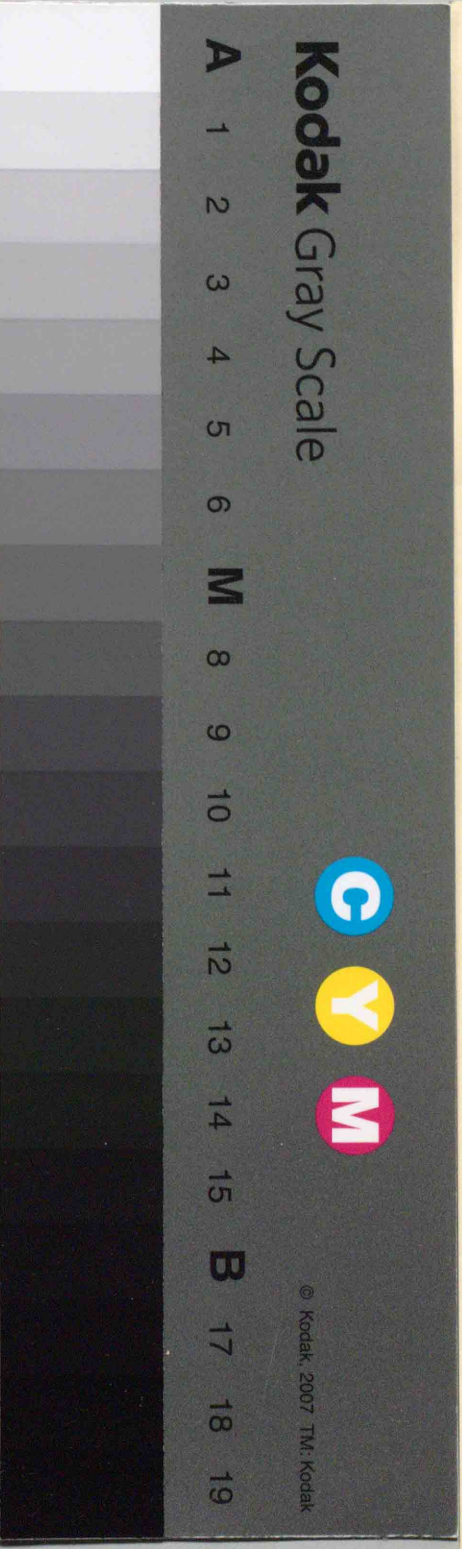
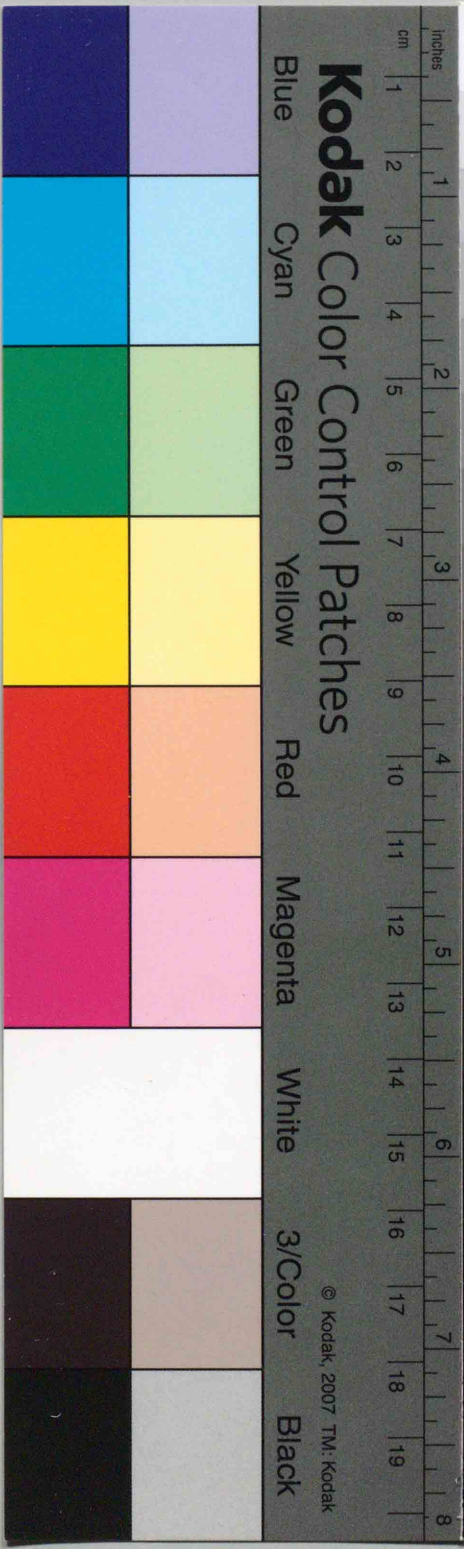




教科書文庫
4
291
51-1918
2000054763



42915

教科書文庫

4
291
51-1918
20000 54763





三保松原より見た富士



華嚴瀧



修正第六版凡例

本書第一版發行以來、産業交通經濟等に就きては變遷少なからず、特に歐洲戰亂の影響により、著しき變動を生じたるものあり。因て是等の材料に就きては、記事挿圖共に根本的の修正を加へたり。

大正六年十月

編者識

凡例

- 一、本書は中學校師範學校及び之と同程度の學校の地理教科書に充てんが爲に、文部省所定の教授要目に準據して編纂したるものなり。
- 一、本書は弊社發行の新定中等外國地理新定中等地理通論と相踈つて、首尾一貫するものなり。
- 一、本書の編纂に就きては、國定小學地理との聯絡に注意し、又大正三年八月開催の中等學校地理歴史教員協議會の決議を參酌せり。
- 一、産業に關する常識を促進することは、現今特に其の必要を感ずるを以て、本書は此の點に深く留意して編纂し、勉めて具體的圖表を多くし、以て生徒の理解を容易ならしめんことを期せり。
- 一、産業に關する統計中、年々其の異動の著しきものは最近三箇年乃至五箇年の平均數に依り、否らざるものは最近の統計に據れり。

一、處誌記述の順序は生徒學習上の混亂を避け、且つ興味喚起を促す爲め、之を府縣別とし、概ね交通路に従ひたり。

一、本書中所載の人口は大正三年十一月廿六日の官報及び總督府の統計等に據り、大正二年十二月三十一日現在を採り、都邑等の人口は一萬以上を有するものを擧げて、地名の左傍に記し、千人を單位とせり。

一、本文所載以外の事項にして稍重要なるものは之を鼈頭に記載せり。

一、從來日本地理の分量は一般に過多に失する嫌あるを以て、本書は成るべく此の弊に陥らざらんことに勉めたり。

一、本書を學習するに當りては、常に弊社發行の日本新地圖と對照せらるべし。

大正四年十月

編者識

新中等日本地理

目次

帝國の位置	位置成立	境界面積	一頁
第一篇 地方誌			五
第一章 關東地方	位置區劃	勢	五
	交通	住	六
		民	一二
		處	一三
		誌	一三
第二章 奥羽地方	位置區劃	勢	二一
	交通	住	二二
		民	二九
		處	二九
		誌	二九
第三章 中部地方	位置區劃	勢	三四
	交通	住	三四
		民	三四
		處	三四
		誌	三四
		候	三八
		生	三九
		業	三九

交通……四二 住民……四三 處誌……四四

第四章 近畿地方……

位置區劃……五一 地勢……五二 氣候……五四 生業……五五

交通……五八 住民……五九 處誌……五九

第五章 中國地方……

位置區劃……六八 地勢……六八 氣候……七〇 生業……七〇

交通……七二 住民……七三 處誌……七三

第六章 四國地方……

位置區劃……七八 地勢……七九 氣候……八〇 生業……八〇

交通……八二 住民……八三 處誌……八三

第七章 九州地方……

位置區劃……八六 地勢……八七 氣候……九〇 生業……九〇

交通……九四 住民……九五 處誌……九六

第八章 臺灣地方……

位置……一〇五 地勢……一〇五 氣候……一〇六 生業……一〇七

交通……一一 住民……一二 政治……一三 處誌……一三

第九章 北海道地方……

位置……一一五 地勢……一六 氣候……一七 生業……一八

交通……一一 住民……一二 政治……一三 處誌……一三

第十章 樺太地方……

位置……一二五 地勢……一六 氣候……一七 生業……一七

交通……一二八 住民……一八 政治……一九 處誌……一九

第十一章 朝鮮地方……

位置……一二九 地勢……一三〇 氣候……一三二 生業……一三三

交通……一三五 住民……一三六 政治……一三七 處誌……一三八

第二篇 總括……

甲 地文地理……

第一章 地勢……

山岳……一四二 平原……一四三 河川……一四四 湖沼……一四五

海岸……一四五

第二章 近海……………一四六

深 度……………一四六 潮 汐……………一四七 海 流……………一四七

第三章 氣候及び天產物……………一四八

一 氣 候……………一四八

溫 度……………一四八 風 雨……………一四九

二 天產物……………一五〇

植 物……………一五〇 動 物……………一五一 礦 物……………一五一

乙 人文地理……………一五二

第一章 生業及び産物……………一五二

農 業……………一五一 林 業……………一五四 水産業……………一五四 礦 業……………一五五

工 業……………一五六 商 業……………一五九

第二章 交 通……………一六一

道 路……………一六一 鐵 道……………一六一 航 路……………一六三 郵便・電信・電話……………一六四

第三章 住 民……………一六五

種 族……………一六五 人 口……………一六五 部 會……………一六六

第四章 教育神社宗教……………一六七

教 育……………一六八 神 社……………一七〇 宗 教……………一七〇

第五章 政 治……………一七一

立 法……………一七一 行 政……………一七一 司 法……………一七三 兵 備……………一七四

外 交……………一七六 財 政……………一七七

結 論……………一七九

目次終

新中等日本地理

圖畫目錄

一	日露國境設定事業と境界標	二	頁
二	本邦面積百分比	三	
三	本邦領土の増加	三	
四	面積地方別百分比	五	
五	榛名湖と榛名富士	七	
六	犬吠崎	八	
七	バナナ林・鳳梨・甘蔗畑	九	
八	麥産額比較	九	
九	繭産額比較	九	
一〇	銅産額比較	一〇	
一一	煙草産額比較	一〇	
一二	織物産額比較	一一	
一三	關東地方交通圖	一二	
一四	横濱港繫船岸	一四	
一五	鶴岡八幡宮	一五	
一六	横濱港重要貿易品價額比較	一五	
一七	野田の醬油貯藏所	一六	
一八	漁獲物比較	一六	
一九	所澤陸軍飛行場	一七	
二〇	妙義山の景	一八	
二一	アプト式鐵道	一八	
二二	日光東照宮御石の間	一九	
二三	足尾銅山	一九	
二四	常磐公園より仙波沼を望む	二〇	
二五	霞ヶ浦より筑波山を望む	二〇	
二六	破裂當時の磐梯山	二二	
二七	最上川口より鳥海山を望む	二三	
二八	松島全景	二四	
二九	苹果産額比較	二五	
三〇	馬鈴薯産額比較	二五	
三一	馬頭數比較	二六	
三二	國有林面積比較	二六	

三三	羅漢柏林	二六
三四	銀産額比較	二七
三五	鐵産額比較	二七
三六	金産額比較	二七
三七	奥羽地方交通圖	二八
三八	秋田市の雪景	二八
三九	仙臺舊城正門	三〇
四〇	金色堂・金色堂内部	三〇
四一	岩木山遠望	三一
四二	盛岡市の馬市	三一
四三	能代港木材の集積	三二
四四	重要銅山銅産額比較	三二
四五	小坂鑛山の全景	三二
四六	中部地方地勢圖	三五
四七	東方より飛騨山脈を望む	三六
四八	輕井澤より淺間山を望む	三六
四九	諏訪湖上の氷滑り	三七
五〇	親不知	三八
五一	富山市雪景	三九
五二	中部地方雨量比較	三九
五三	米産額比較	三九
五四	石油産額比較	四〇
五五	西山の長嶺油田	四〇
五六	蠶産額比較	四一
五七	絹布産額比較	四一
五八	蠶絲産額比較	四一
五九	陶磁器産額比較	四二
六〇	漆器産額比較	四二
六一	茶産額比較	四二
六二	中部地方交通圖	四三
六三	洋紙産額比較	四四
六四	勝沼附近葡萄園	四四
六五	岩淵より富士川を隔てて富士山を望む	四五
六六	陶磁器窯の圖	四六
六七	長良川の鵜飼	四七
六八	岡谷製絲場と諏訪湖流出口	四七
六九	善光寺本堂	四八
七〇	スキー	四八
七一	油槽列車	四九
七二	山代温泉場と産物	五〇

七三	羽二重製造場	五一
七四	近畿地方地勢圖	五二
七五	天の橋立	五四
七六	密柑産額比較	五五
七七	綿絲産額比較	五六
七八	綿布産額比較	五六
七九	清酒産額比較	五七
八〇	マッチ産額比較	五七
八一	近畿地方交通圖	五八
八二	三井寺より琵琶湖を望む	五九
八三	麻布産額比較	五九
八四	桃山御陵	六〇
八五	縮緬産額比較	六一
八六	伊勢内宮・外宮・二見ヶ浦	六二
八七	有田新堂町附近の蜜柑畑	六三
八八	綿ネル比較	六三
八九	和歌の浦	六四
九〇	綿絲紡績工場	六五
九一	三菱造船所浮船渠	六五
九二	湊川神社	六六
九三	神戸貿易比較	六六
九四	支武洞	六七
九五	尾道水道	六九
九六	中國地方雨量比較	七〇
九七	牛頭敷比較	七一
九八	食鹽産額比較	七一
九九	蠶表花筵産額比較	七二
一〇〇	中國地方交通圖	七二
一〇一	花筵製造	七三
一〇二	夢祥眞田製造	七三
一〇三	眞田類産額比較	七四
一〇四	嚴島の一部	七五
一〇五	錦帯橋	七六
一〇六	關門海峡鐵道貨車の連絡輸送	七六
一〇七	松江市と宍道湖	七七
一〇八	夏燈産額比較	七七
一〇九	境港を隔てて大山を望む	七八
一一〇	四國地方雨量比較	八〇
一一一	藍産額比較	八一
一二二	蠶産額比較	八一

一一三	和紙産額比較	八二	一一三	陶磁器産額比較	九四
一一四	耕産額比較	八二	一一四	九州地方交通圖	九五
一一五	四國地方交通圖	八二	一一五	八幡製鐵所	九六
一一六	祖谷蔓橋	八三	一一六	大牟田市附近	九七
一一七	鳴門海峡	八三	一一七	唐津港の景	九八
一一八	高松より屋島を望む	八四	一一八	三菱造船所(模型)	九九
一一九	坂出鹽田	八四	一一九	ループ線	一〇〇
一二〇	高濱港と興居富士	八五	一二〇	耶馬溪樋田之洞門	一〇一
一二一	鯉魚釣船・鱒節製造所	八六	一二一	別府海岸砂湯	一〇一
一二二	阿蘇山の遠景とその噴火口	八八	一二二	霧島山の噴火	一〇二
一二三	蒲葵	九〇	一二三	宮崎神宮	一〇二
一二四	米産額比較	九〇	一二四	鹿兒島市街と櫻島の噴火	一〇三
一二五	甘藷産額比較	九一	一二五	那覇港	一〇四
一二六	煙草産額比較	九一	一二六	沖繩風俗	一〇四
一二七	粟産額比較	九一	一二七	新高山	一〇五
一二八	馬頭數比較	九二	一二八	臺灣各月温度比較	一〇七
一二九	牛頭數比較	九二	一二九	臺灣米收穫季節別比較	一〇八
一三〇	三池炭坑石炭搬出の景	九三	一三〇	豚頭數比較	一〇八
一三一	漁獲物比較	九三	一三一	林投と水牛車	一〇八
一三二	セメント産額比較	九四	一三二	臺灣製茶季節別比較	一〇九

一五三	臺灣砂糖産額比較	一〇九	一七三	ツンドラ	一二六
一五四	臺灣重要移出入品價額	一一〇	一七四	海豹島に臘腸獸の群集	一二七
一五五	臺灣重要輸出入品價額	一一〇	一七五	樺大主要水産物價額比較	一二八
一五六	樟腦の製造	一一〇	一七六	馴鹿	一二八
一五七	臺灣の區劃と交通	一一一	一七七	ギリヤーク人・オロチョン人	一二九
一五八	蕃人の機織	一一二	一七八	朝鮮地勢圖	一三〇
一五九	戎克と竹筏	一一二	一七九	仁川港の景	一三一
一六〇	生蕃	一一三	一八〇	朝鮮各月氣温比較	一三二
一六一	基隆繫船岸	一一三	一八一	人蔘	一三三
一六二	大沼公園より駒ヶ岳を望む	一一六	一八二	朝鮮主要農産物比較	一三三
一六三	北海道各月氣温比較	一一八	一八三	明太魚	一三四
一六四	俱知安原野	一一八	一八四	石首魚	一三四
一六五	北海道重要農産物價額比較	一一九	一八五	朝鮮主要輸移出入品價額比較	一三五
一六六	椴松林	一一九	一八六	朝鮮地方區劃交通圖	一三六
一六七	硫黄産額比較	一二九	一八七	朝鮮の風俗	一三七
一六八	北海道水産物分布圖	一二〇	一八八	大邸に於ける市場の景	一三八
一六九	北海道重要水産物價額比較	一二〇	一八九	木浦に於ける綿の集積	一三九
一七〇	北海道交通圖	一二一	一九〇	鴨綠江開閉橋	一四一
一七一	アイヌの男女と住宅	一二二	一九一	桂川水力發電所	一四四
一七二	五稜廓氷切り	一二三	一九二	箱根山中の蘆湖	一四五

一九三	各地溫度比較	一四八
一九四	颱風進路圖	一四九
一九五	各地雨量比較	一五〇
一九六	米累年産額比較	一五二
一九七	米(内地)輸出入比較	一五三
一九八	内地牛頭數比較	一五三
一九九	内地馬頭數比較	一五三
二〇〇	豚頭數比較	一五三
二〇一	内地森林所有別比較	一五四
二〇二	内地水産物比較	一五五
二〇三	内地鑛産累年比較	一五六
二〇四	金産額地方別	一五六
二〇五	内地織物主要品種比較	一五七
二〇六	蠶絲累年産額比較	一五八
二〇七	内地貿易高累年比較	一五八
二〇八	内地重要貿易品價額	一五九
二〇九	内地貿易高重要國別比較	一六〇
二一〇	内地重要開港貿易高比較	一六〇
二一一	東京停車場	一六二
二一二	鐵道發達比較	一六二
二二三	西洋型船舶發達比較	一六三
二二四	巡洋戰艦金剛	一七五
別刷圖畫目錄		
	三保松原より富士山を望む	口繪
	東京市内雜景	一三
	京都市内雜景	一〇
	奈良市及び附近雜景	一〇
	大阪市内雜景	六
	日本近海海深圖	四
	日本近海最大水深比較圖	四
	日本植物區系圖	四

新中等日本地理

帝國の位置

位置成立 我が大日本帝國は、亞細亞洲の東部に在りて、殆ど全部北溫帯に位し、島嶼部と大陸部とより成る。

島嶼部は日本列島にして、中部なる本州・四國・九州の三大島、西南部なる琉球列島・臺灣島、北部に位せる北海道・本島・樺太(南部)及び千島列島等多くの島嶼を含み、大體西南より東北に並び、三つの弓狀をなして東方に彎曲し、長さ約一千二百里に亘る。

大陸部は朝鮮半島及び之に屬する島嶼にして、朝鮮半島

帝國の四極
 極北 阿頼度島
 (北緯五〇度五
 六分)
 極南 七星岩
 (北緯二二度四
 五分)
 極西 花嶼
 (東經一一九度
 一八分)
 極東 占守島
 (東經一五六度
 三二分)

獨逸の領有せし諸島は今回の大戦に依り我が國及び英國にて占領中なり

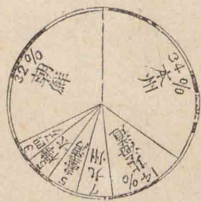
は北より南に突出し、長さ凡そ二百里あり。
境界面積 我が國は四周殆ど海を以て限らる。日本列島の東より南には、極めて廣き太平洋、並にバシ海峽を隔て、加奈陀・亞米利加合衆國及び其の領土たる布哇・フリピン、獨逸領のマーシャル・カロリナ・マリアナの諸島あり。列島の西より北には、支那露西亞の二國ありて、支那とは臺灣海峽、東支那海及び黃海を以て、露西亞と



日露國境設置定案と境界標

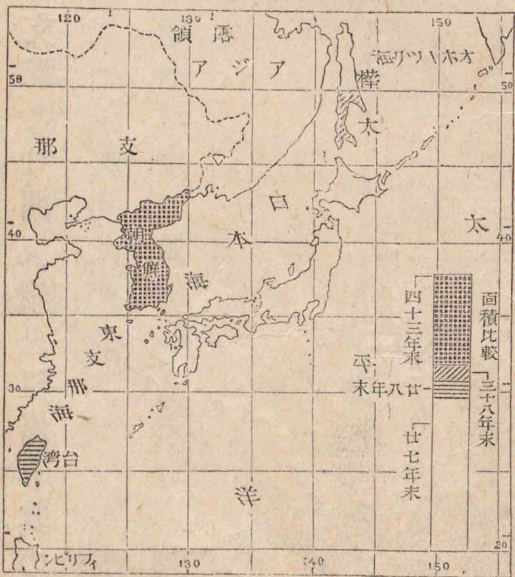
我が國の面積を歐米の強國に比するに露西亞・亞米利加合衆國よりは遙に小なれども、地地利、牙利とは略々等しく、獨逸・佛蘭西・英吉利・伊太利の四國よりは、大なり

面積百百分比



は日本海・オホーツク海及び千島海峽を以て、相隔つる所多く、陸続きの處は朝鮮・樺太にあるのみ。列島中、面積の最も大なるは本州にして、北海道・本島・九州・臺灣・四國等順次之に次ぎ、樺太は略、九州に等しく、朝鮮は本州より稍狭し。

我が國の領土は近年大に變化せり。臺灣・樺太・朝鮮は我が新領土にして、之を我が國の首腦部たる從來の領土即ち内地に加算すれば、全國の面積は約四萬三千方里に達し、國土著しく膨



本邦領土の増加

脹せり。此の外、我が國は支那より關東州を租借し、其の面積二百餘方里あり。

第一篇 地方誌

本州を關東・奧羽・中部・近畿・中國の五地方に分ち、之に四國・九州・臺灣・北海道・樺太・朝鮮の六地方を加へて、全國を十一地方となす。

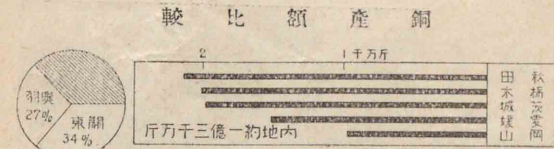
5	關東
10	奧羽
10	中部
5	近畿
5	中國
3	四國
7	九州
5	臺灣
14	北海道
5	樺太
32	朝鮮

第一章 關東地方

位置區劃 關東地方は本州の東南部に於て、伊豆七島カサハラ・笠原島を含み、面積凡そ二千一百方里あり。行政上、一府六縣に分たれ、其の三縣は海に沿はずして、内部にあり。

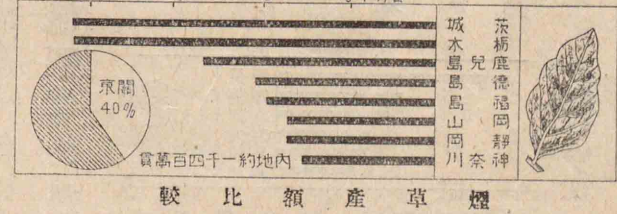
養蠶は千葉・茨城・埼玉の三縣に榮ゆ

額の首位を競ひ、大豆は茨城・埼玉・千葉の三縣より多く出で、甘藷は千葉・埼玉二縣、煙草は栃木・茨城・神奈川の三縣を主産地とす。養蠶は群馬・埼玉の二縣殊に盛にして、繭の收穫夥し。



(鑛業) 鑛産は茨城・栃木の二縣を主とし、茨城縣の日立、栃木縣の足尾は名高き鑛山にして、銅・金・銀を産し、又茨城縣の北部には、石炭を産する處あり。

(水産業) 近海には黒潮流れて、暖海性の水産物に富み、東岸一帯水産業盛にして、鰻・鱈・鮪・秋刀魚等の漁獲豊富に、九十九里濱は鰻の漁場として古來其の名著はる。東京灣に於ける海苔の生産も亦少なからず。

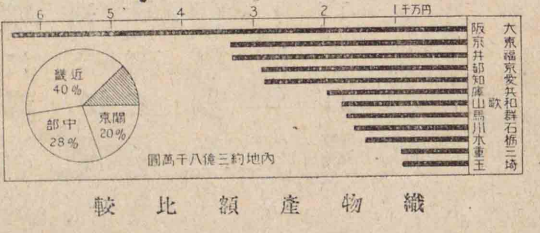


東京市に
日本銀行
興業銀行
東京瓦斯會社
東京電燈會社
日本郵船會社
等あり
横濱市に
横濱正金銀行
東洋汽船會社
等あり

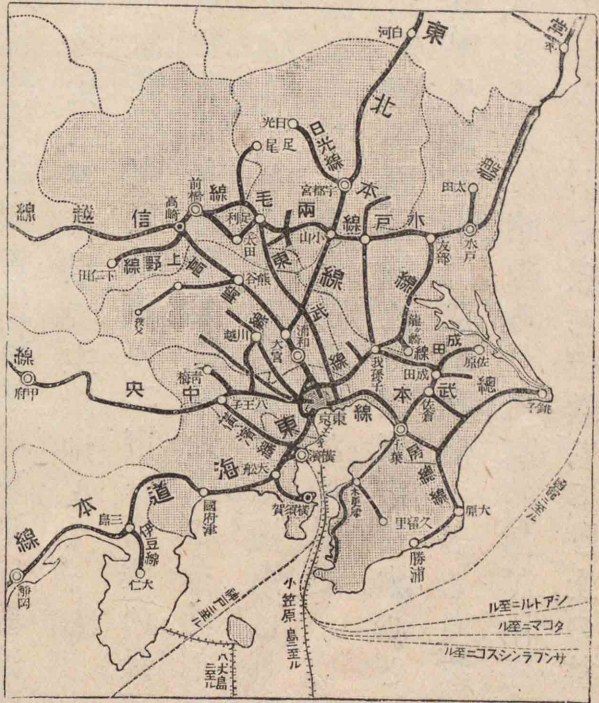
(工業) 製絲業は養蠶の盛なる群馬・埼玉の二縣を主とし、織物業は東京・埼玉・群馬・栃木の諸府縣に榮え、絹布・綿布・絹綿交織・毛織等の産額夥しく、綿絲・洋紙・圖書機械類は東京府、醬油・清酒は千葉・茨城二縣を以て主産地とす。

(商業) 東京横濱の二市は商業の最要地にして、東京は内國商業の一大中心をなし、銀行・會社・商店の大なるもの甚だ多く、横濱は外國貿易の盛なること我が國第一なり。

交通 國道・鐵道は東京市を中心として起り、國道に東海道・甲州街道・中山道・奥羽街道等あり、鐵道に東海道・中央・東北常磐・總武の諸線ありて、高崎・信越・兩毛・東武・水戸等の諸線並に幾多の小支線と相俟ちて、陸上の往來を助く。利根川・江



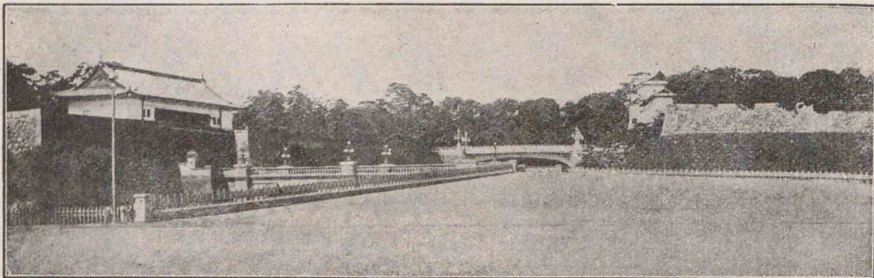
關東地方交通圖



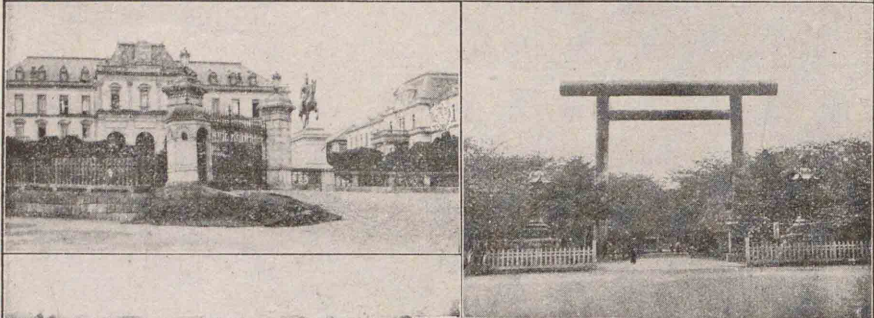
て、遠く小笠原島に達し、亞米利加合衆國より來る米國線と連絡するものあり。
 住民 關東地方は廣大なる沃野を有し、産業交通の發達

戸川荒川霞浦北浦等の河湖亦水運の便多く、横濱・東京は何れも海運の要樞に當り、殊に横濱は内外諸港との間に、汽船の往來繁し。郵便・電信電話亦よく發達し、海底電線には東京より起り

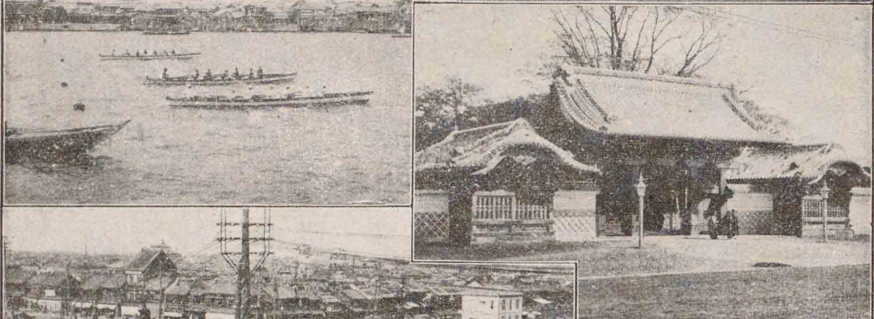
宮城二重橋



靖國神社



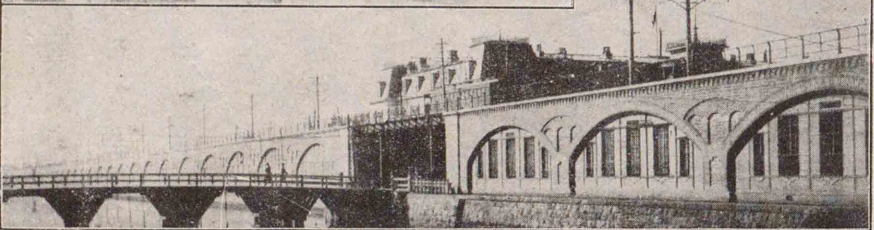
東京帝國大學赤門



日本銀行



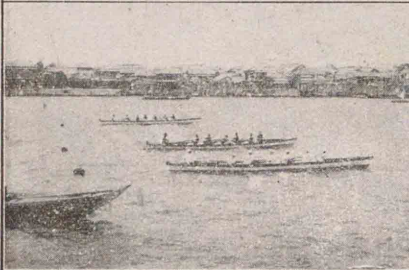
高架鐵道



參謀本部



隅田川(レイト)



日本橋



(有樂町附近)

人口一萬以上の
都邑七十四あり
其の中市は七
あり

*印は府縣廳所
在地

東京市の十五區
麴町・神田・日本
橋・京橋・芝・麻
布・赤坂・四谷・
牛込・小石川・本
郷・下谷・淺草
本所・深川
宮城の内に内閣
周圍に諸省・國
會議事堂・參謀
本部・近衛及び
第一師團の司令
部・海軍軍令部・
外國大使館・第
一帝國大學・第一
高等學校・其他
の學校等あり、
著名の公園に上
野・淺草・日比谷

せる等に因りて、人口は一千萬を超え、一方里に就き約五千
人を算し、東京府にては二萬人以上に及ぶ。此の如くにし
て當地方は大小の都會多く、人口三萬を超ゆるもの十箇に
餘れり。

處誌

(東京府)

*東京市は東京灣に臨み、荒川の下流なる

隅田川に跨りて、面積五方に近く、地勢上山、手と下町とに、
行政上、十五區に分る。市はもと江戸と稱し、徳川幕府のあ
りし處なるが、現今帝國の首府、宮城の所在地にして、政治學
術、商工業、軍事、交通等の大中心をなし、人口二百萬を超え、
近年市區益改正せられて、市街の面目日に新しく、遊覽娛樂
の機關もよく備はれり。

東京市の附近には、人口一萬以上の都會多く、特に品川及

八王子 芝・九段等あり、市外の向島・飛鳥山・小金井も亦市民の遊覽地なり、著名の社寺に靖國神社・日枝神社・淺草寺・増上寺・泉岳寺等あり

相模 足利

八王子

矢野

藤原

新田神社

新田

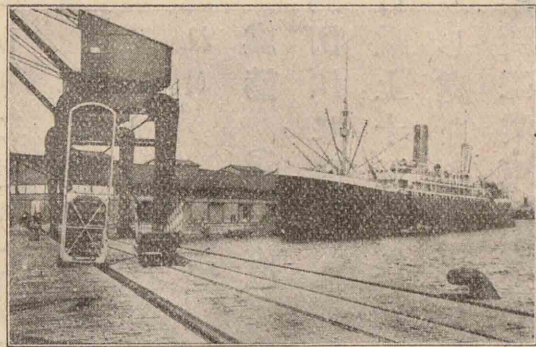
足利

三浦半島の南端なる三崎に東京帝國大學の臨海實驗所あり

芝・九段等あり、市外の向島・飛鳥山・小金井も亦市民の遊覽地なり、著名の社寺に靖國神社・日枝神社・淺草寺・増上寺・泉岳寺等あり

二見港は横濱より約五百三十哩

横濱港船岸



び王子は工業の盛なるに因りて著はる。八王子市は中央線に沿ひ、絹布の産地として知らる。伊豆七島は大島八丈島等の總稱にして、富士火山脈通じ、大島には三原山と名づくる活火山聳え、波浮の良港あり。小笠原島は伊豆七島より遙に南方に位し、父島母島聳島の三群より成れる諸島にして、亦富士火山脈を通じ、住民には歸化人の子孫少なからず。父島には二見の良港ありて、太平洋横斷電線の仲繼地たり。

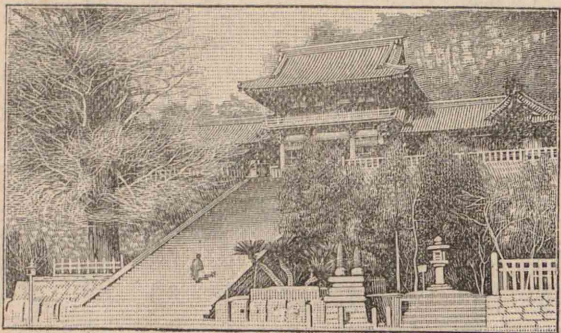
(神奈川縣) 横濱市は東京灣に臨み、東京の門戸に當る。もと一漁村たりしが、外國との互市場と成りしより、急

横濱には輸出向絹手巾の製造行はる

三浦半島の南端なる三崎に東京帝國大學の臨海實驗所あり

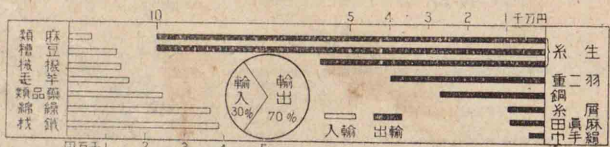
縣の東北部なる鶴見に曹洞宗の本山總持寺あり、又淺野造船所、硝子工場あり

鶴岡八幡宮



地方誌 第一章 關東地方

速に發達して、人口今や四十萬の大都會となり、本邦開港場中第一位を占め、防波堤棧橋繫船岸等の設備完成し、内外の大船巨舶盛に出入し、貿易高は全國の約四割を占め、生絲羽二重等を多く輸出す。三浦半島の横須賀市は軍港と成りしより、俄に發達して、第一海軍區鎮守府東京灣要塞司令部海軍機關學校等を置かれ、壯大なる造船所を有し、附近の追濱に海軍の飛行場あり。賀はヘルリの來航を以て名高く、亦造船業行はる。相模灣沿岸の鎌倉は源



鎌倉の内外に鎌倉宮・頼朝の墓・鶴ヶ岡八幡宮・建長寺・圓覺寺・大佛・稻村ヶ崎等あり

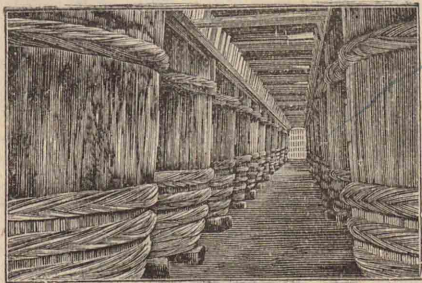
箱根山中に湯本塔・澤・宮ノ下・堂・島・底倉・木賀・蘆ノ湯等の温泉あり

船橋の附近に船橋無線電信局あり布哇との通信を行ふ

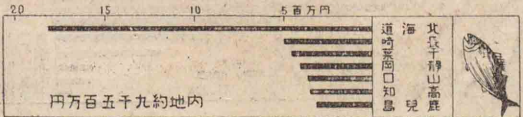
佐原は伊能忠敬の出身地にして附近に香取神宮あり

頼朝が幕府を開きしより、北條氏を経て足利氏に至るまで、政治の中心たりし處にて、史蹟に富み、遊覽保養の客多く來集す。小田原は後北條氏の據りし處にて、亦史上に著はる。西境の箱根山は東海道の要害とせられし地にて、今尙古關の址を蘆湖の畔に存し、温泉處々に湧出す。

(千葉縣) 千葉は總武線に沿へる要地にして、醫學専門學校あり。佐倉は佐倉炭を集散し、成田は不動堂を以て知らる。利根川沿岸の佐原は清酒を、河口の銚子は醬油を産し、銚子に近く無線電信局あり。江戸川に沿へる野田は醬油の醸造殊に盛にして、流山



野田の醬油貯蔵所



流獲物比較

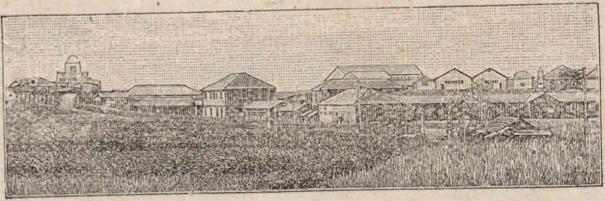
西栗橋ニシツ
カゴセン
ノール

熊谷の西南なる吉見に太古の遺跡吉見百穴あり

は味淋に名あり。房總半島の西岸には木更津・北條・館山・東岸には勝浦等あり、何れも盛なる漁港たり。

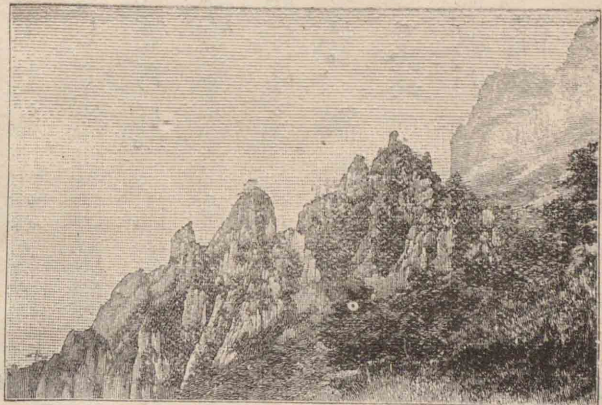
(埼玉縣) 東北線上の浦和は其の南なる蕨と共に、絹木綿を産し、大宮は高崎線の分岐點にして、鐵道院所屬の大工場・永川神社等あり。大宮の西方なる川越は穀物・織物の賣買盛にして、附近に甘藷の産多く、其の南方の所澤に陸軍の飛行場あり。高崎線に沿へる熊谷は生絲の市場にして、其の西方なる秩父盆地の秩父は秩父銘仙取引の中心なり。

(群馬縣) 高崎市は高崎・信越・兩毛等諸線の相會する所に、交通の要衝に當り、西方の富岡は製絲、妙義山は奇景、碓



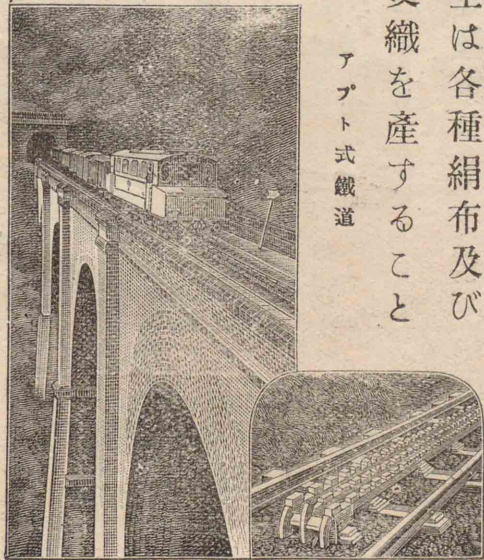
所澤陸軍飛行場

妙義山の景



屈指の機業地たり。
(栃木縣) 兩毛線に沿へる
足利は名高き機業地にして、

水峠はアプト式鐵道と紅葉とを以て知らる。山間の伊香保草津は本縣の温泉地中、最も名高し。兩毛線に沿へる前橋市は繭生絲の市場にして、伊勢崎は銘仙の産を以て著はれ、桐生は各種絹布及び絹綿交織を産すること



アプト式鐵道

宇都宮

宇都宮ヨリ
サ洋生君平出

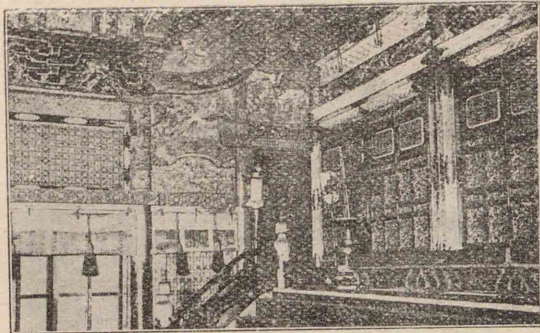
日光

徳川家康
徳川家光

別格官幣社
静園に死す
昔の駿府

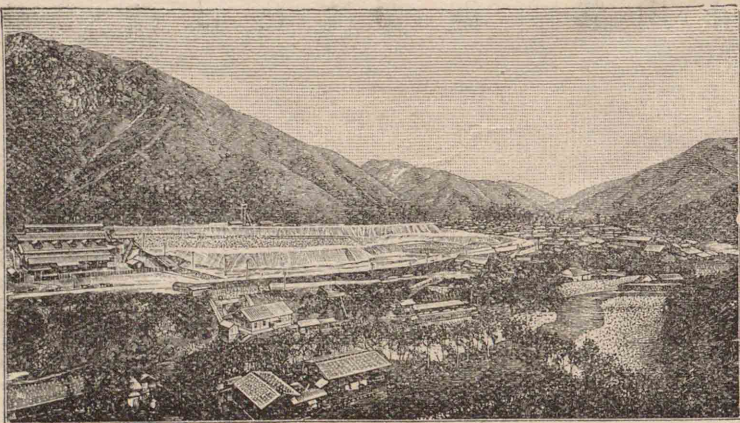
鹿沼・日光に製
麻工場あり
日光には徳川家
光の廟あり建築
亦美なり
日光山中には瀑
布・温泉多し

日光東照宮御石の間



絹綿交織及び絹布を盛に製造し、佐野は縮木綿の産我が國第一たり、栃木は大麻干瓢等の市場をなし、小山は兩毛水戸二線の東北線と會する所なり。

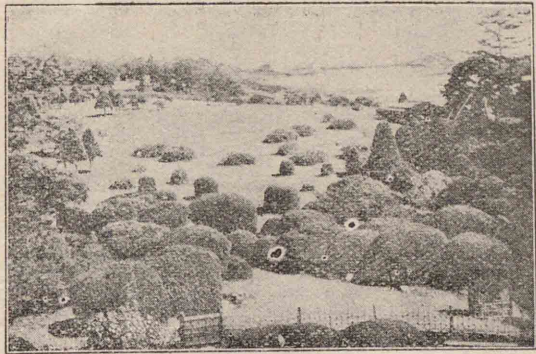
東北線上の宇都宮市は附近に第十四師團司令部を置かれ、日光線之より分る。日光は善美を盡せる東照宮のある處にして、華嚴瀧中禪寺湖



足野尾銅山

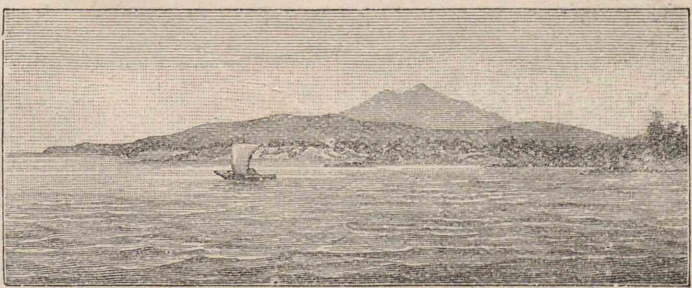
日光の北なる鬼怒川の沿岸に鬼怒川水力発電所あり
足尾山
月形一山

常磐公園の仙波を望む



等自然美も亦絶佳なれば、其の名内外に轟く。此處に壮大なる精銅所あり。其の西南なる足尾は帝國屈指の大鑛業地なり。東部の烏山茂木地方には

煙草の栽培盛にして、那珂川上流地方の鹽原那須は本縣主要の温泉場なり。
(茨城縣) 常磐線に沿ひ那珂川に臨める水戸市は水戸侯の舊城下に



霞ヶ浦の築波山を望む

北浦の東に鹿島神宮あり

縣の東北境に源義家の詠歌を以て名高き勿來關の址あり

て名高き常磐公園(借樂園)あり。河口の湊は其の南なる磯濱と共に、縣下屈指の漁業地なり。那珂久慈二川の流域には煙草の栽培盛に行はれ、太田は之が集散の中心たり。日立鑛山は常磐線を距ること遠からず、近年長足の進歩をなし、我が國有数の鑛業地となれり。霞浦の西北なる石岡には酒醬油の醸造行はれ、其の南なる土浦は霞浦の湖港なり。筑波山上には近年高層氣象觀測所を設けられ、其の北麓より花崗石を産す。

第二章 奥羽地方

位置區劃 奥羽地方は本州の東北部にして、南は關東地方に連なり、東は太平洋に臨み、北は津輕海峽を隔て、北海道本島に對し、西は日本海に沿ひ、土地南北に長く、東西に短

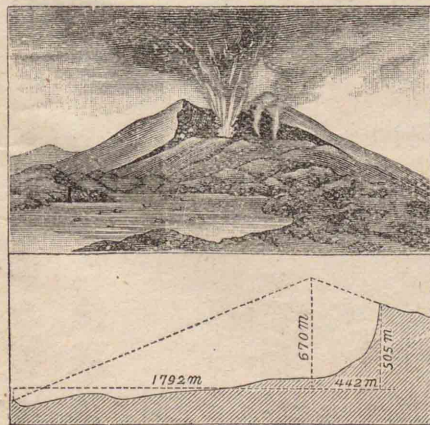
く、面積關東地方の二倍より稍大なり。行政上、六縣に分かれて、皆海に沿ひ、一般に廣袤著し。

奥羽七國
(東山道)
磐城 岩代 陸前
陸中 陸奥 羽前
羽後

縣	管	轄	縣所在地	縣	管	轄	縣所在地
福島縣	磐城一部	岩代	福島市	青森縣	陸奥一部		青森市
宮城縣	磐城一部	陸前一部	仙台市	秋田縣	陸中一部	羽後一部	秋田市
岩手縣	陸前一部	陸中一部	盛岡市	山形縣	羽後一部	羽前	山形市

地勢 (山野) 東中西三條の高

地は南北に走りて、其の間に平野を挟む。東部高地は南北に分かれ、南部は阿武隈山脈より成り、幅廣けれども高からず、北部は北上山脈より成りて廣き地域を占む。中部高地は奥羽山脈及び那須火



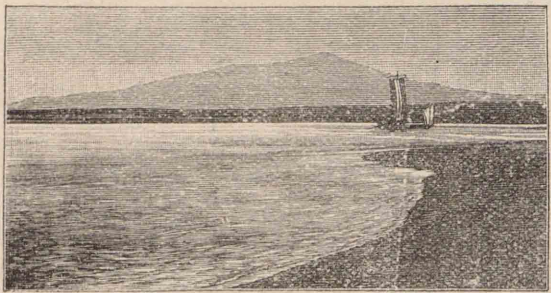
山梯磐の時常裂破

山脈より成りて、磐梯山・岩手山・八甲田山等の火山を噴起し、磐梯山は明治二十一年の大破裂に依りて名高し。西部高地は越後山脈と、鳥海火山脈を伴へる出羽山脈とにて、月山

鳥海山・岩木山等の火山此の中に聳ゆ。平野の最も廣きは東部の仙臺平野にして、西部には庄内平野・津輕平野等あり。

(河湖) 河川は中央高地以東に阿武隈川・北上川・馬淵川等、以西に阿賀川・最上川・御物川・能代川・岩木川等あり。北上川は奥羽地方第一の長流にして、仙臺平野の東北部を潤し、最上川は庄内平野を、岩木川は津輕平野を過ぐ。

湖沼は東部の海岸に小河原沼、中部の山間に猪苗代湖、十



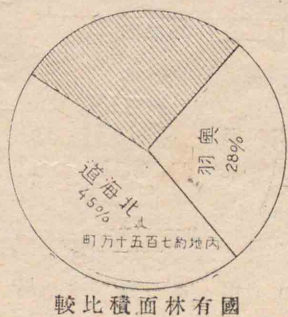
最上川河口より鳥海山を望む

猪苗代湖尻に近く猪苗代水力發電所あり

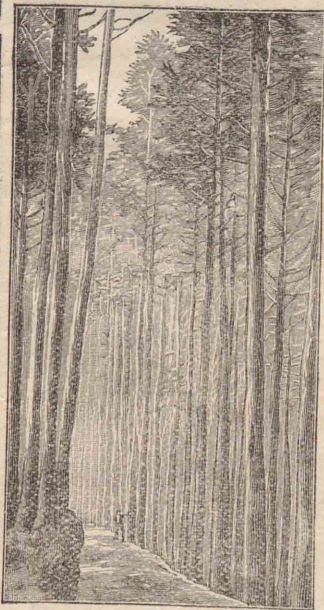
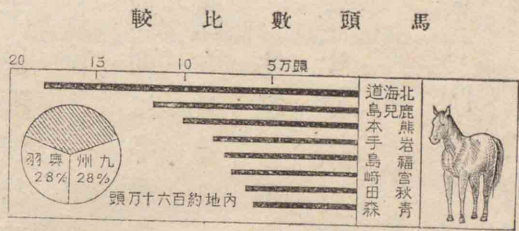
半を占む。

當地方は好牧場處々に存するを以て、馬の飼養は廣く行はれて良質のものを出し、本邦有数の産馬地たり、就中岩手縣は頭數最も多し。養蠶は南部に行はれ、福島縣特に著名なり。

(林業) 到る處廣大なる森林あり、特に優良なる國有林に富めること本邦第一にして、秋田縣の杉、青森縣の羅漢柏最も著る。



縣の羅漢柏最も著る。
(鑛業) 鑛産物中、銅は最要なるものにして、銀

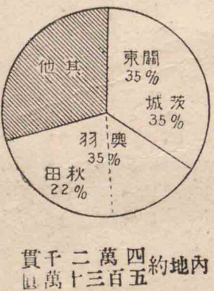


羅漢柏林

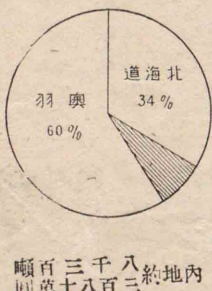
鐵・金・石炭等之に次ぎ、石炭は福島縣、鐵は岩手縣に産し、其の

他は主に秋田縣より出で、同縣は鑛産物豊富にして、小坂・阿仁・尾去澤等鑛山多し。銀産額比較

(水産業) 本業の行はるは主に東海岸にして、鯉の産多く、金華山沖は海獸の漁獵地として名高し。



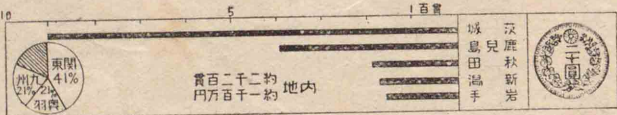
鐵産額比較



製鐵所の分を含まず

(工業) 工業は福島・山形二縣の絹布・生絲を主要なるものとし、福島縣の漆器・陶磁器も亦其の産額少なからず。

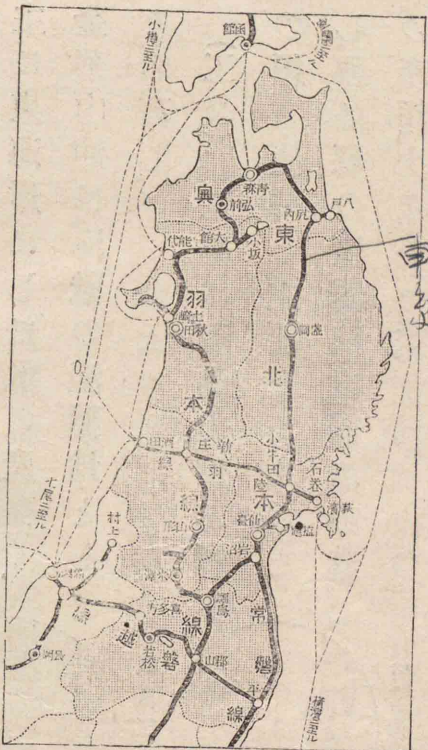
(商業) 商業は著名なる中心地なく、外國との通商港は唯一、青森あるのみにして、其の貿易高も極めて少額なり。



金産額比較

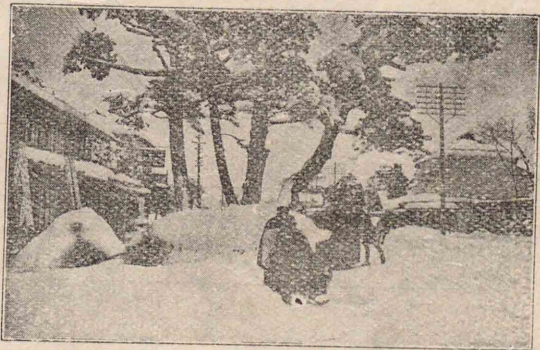
交通 鐵道は東中兩高地の間を縦走する東北線を幹線

奥羽地方交通圖



雪中の往來運搬に橋を使用す

とし、磐越・奥羽常磐陸羽等の諸線之に會すれども、發達の度大ならず、磐越線奥羽線にありては、汽車の積雪に妨げらるること屢あり。海路は東西兩岸共に定期汽船の航行あれども、西岸は冬季風浪



秋田市の雪景(廣小路と橋)

手書きの地理的注記

人口一萬以上の都邑三十二其の中市は九あり

白河の附近に古關の址あり

内郷・入山は重要なる炭坑なり大堀に亦相馬焼を出だす

荒く、航行困難なり。北岸の青森と北海道本島なる函館との間には、鐵道連絡の汽船ありて、其の往來稍頻繁なり。

住民 住民は關東地方に比すれば、甚だ稀薄にして、人口は其の約二分の一、密度は其の四分の一に近く、岩手縣の如きは密度最も小なり。されば當地方は利源の未だ開發せられざるもの多く、人口十萬を超ゆる都會なし。

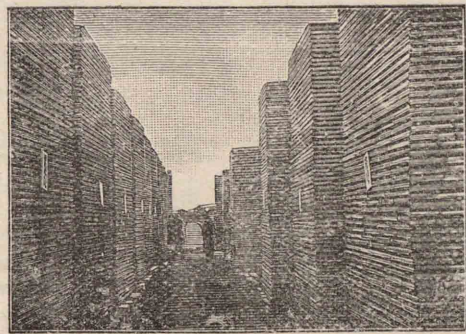
處誌 (福島縣) 阿武隈川流域の白河は史上に名高く、又須賀川・三春等と共に馬の市場として知られ、郡山は鐵道の分岐點にして、二本松と並びて製絲業榮ゆ。福島市は商業交通の中心に當り、川俣には羽二重の産出多し。會津盆地の若松市は、喜多方と共に會津塗を製し、歴史上著名の地にして、本郷は會津燒の産地なり。東海岸の平は石炭産地の都會にして、中村には相馬燒の製造行はる。

弘前より木通細工を産す
陸奥灣の北岸に近く安部城銅山あり

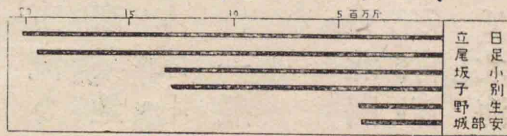
岩木川流域の弘前市は第八師團司令部を置かれ、津輕塗を産し、又附近苹果を産すること頗る多し。

(秋田縣) 能代川の上流

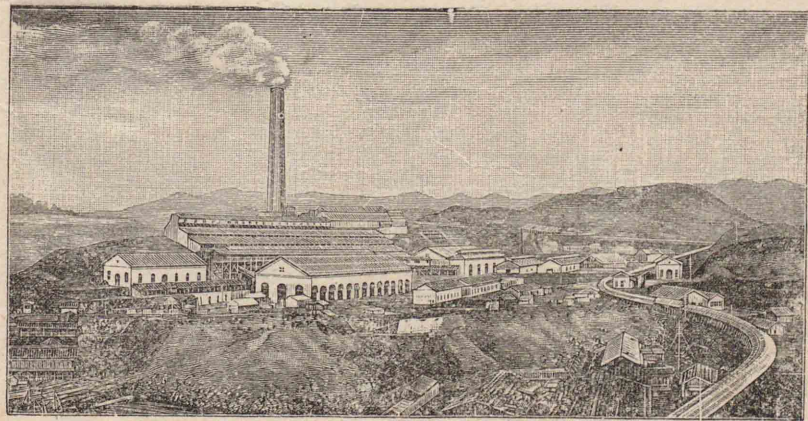
能代港木材の集積



なる小坂尾去澤は鑛業盛にて、河口の能代港は木材の製造集散盛なり。能代の北方な



重要銅山銅産額比較



小坂鑛山の全景

横手の北方に金澤橋の址あり

る八盛鑛山は銀を産す。御物川の河口なる土崎港は小港にして、男鹿半島の船川を其の避難港とし、東南なる秋田市は鑛山専門學校の所在地なり。秋田の北方なる黒川は近時石油の大噴出を以て知らる。御物川流域には尙ほ荒川日三市の二銅山横手の商業地あり。

(山形縣) 酒田は最上川の河口にありて、古來米の集散に名高く、南方の鶴岡は機業地にして、羽二重を産す。上流地方に山形米澤あり、山形市は綿布を産し、附近に櫻桃栽培せられ、米澤市は上杉氏の舊城下、鷹山公遺業の地にして、養蠶機業行はれ、絲織を産し、高等工業學校の設あり。

第三章 中部地方

中部地方の十六國
 (東海道) 尾張 三河 遠江
 駿河 甲斐 伊豆
 (七島を)
 (東山道) 美濃 飛騨 信濃
 (北陸道) 若狹 越前 加賀
 能登 越中 越後
 佐渡

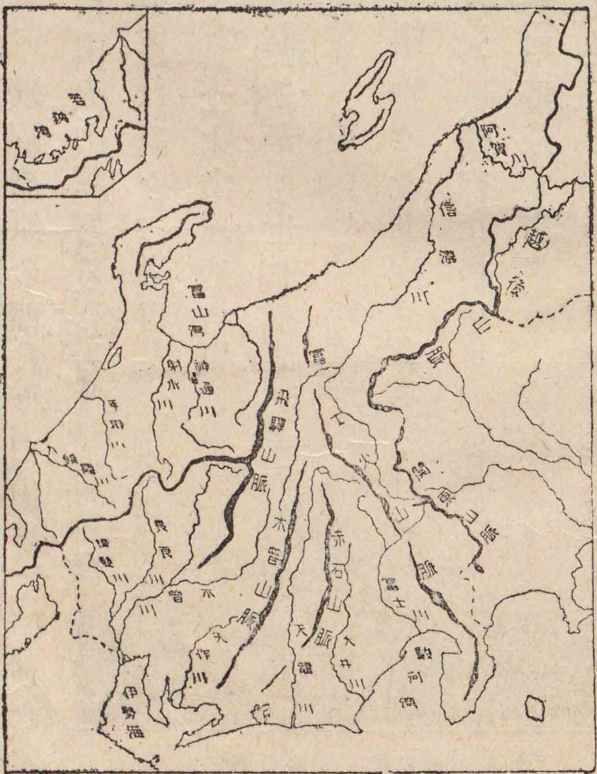
位置區劃 中部地方は本州の中央部に於て、幅最も廣く、北は日本海に、南は太平洋に面し、東は關東・奥羽の二地方に連なり、西は近畿地方に接し、面積奥羽地方と略等し。行政上九縣に分たれ、其の中の三縣は海に沿はず。

縣	管	轄	縣所在地	縣	管	轄	縣所在地
山梨縣	甲斐		甲府市	新潟縣	越後	佐渡	新潟市
静岡縣	遠江 (駿河 伊豆(七島を除く))		静岡市	富山縣	越中		富山市
愛知縣	尾張 三河		名古屋市	石川縣	加賀 能登		金澤市
岐阜縣	美濃 飛騨		岐阜市	福井縣	若狹 越前		福井市
長野縣	信濃		長野市				

地勢 (山野) 中部地方は山脈火山脈幅濶し、山岳には海抜一萬尺を超ゆるもの少なからずして、地勢高峻を極め、主要なる平野は南北の沿海地方に存せり。

富士火山脈は當地方を南北に貫きて、天城山・富士山・八岳

立科山・戸隠山及び妙高山等を戴き、富士山は高さ一萬二千尺に餘り、山容秀麗、我が國第一の名山なり。富士火山脈の西には、赤石・木曾・飛騨等亦南北に走れる山脈あり、東には關東山脈・那須火山脈・越後山脈等あり。赤石山脈は赤石山・白根山・駒岳を有し、飛騨山脈は乘鞍火山脈を伴な

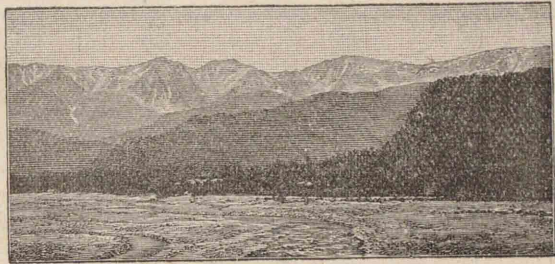


中部地方地勢地圖

飛騨山脈は日本アルプスとも稱せらる

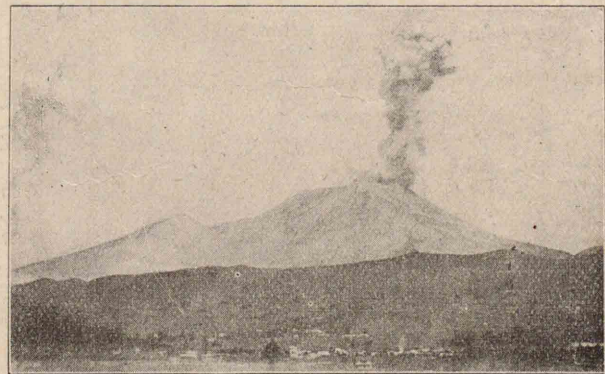
那須火山脈中には
猛烈なる噴
火をなす淺間山
あり

東方より飛驒山脈を望む



ひて、飛驒高原の東を限り、御岳、乗鞍岳、槍岳、立山等此等の中に在りて、山勢殊に雄大なり。飛驒高原の西には、白山を主峰とせり。白山火山脈あり。温泉は處々に湧出し、富士火山脈地方の熱海最も世に知らる。

平野は北部に越後平野あり、就中越後平野最も廣く、濃尾平野は地味甚だ肥沃なり。内部の山間に在るものは、山梨縣の甲府

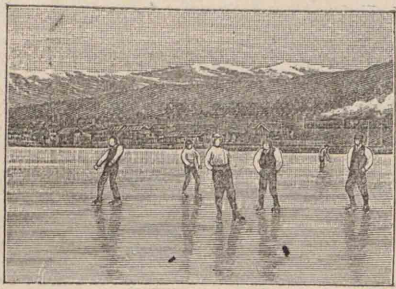


輕井澤より山間を望む

平原、長野縣の松本平、善光寺平等を主なるものとす。

(河湖) 河川は内部の高地に發し、概ね急流にして、屢洪水を起し、舟運の便を與ふること少なく、南流するものに富士

諏訪湖の上の水滑り



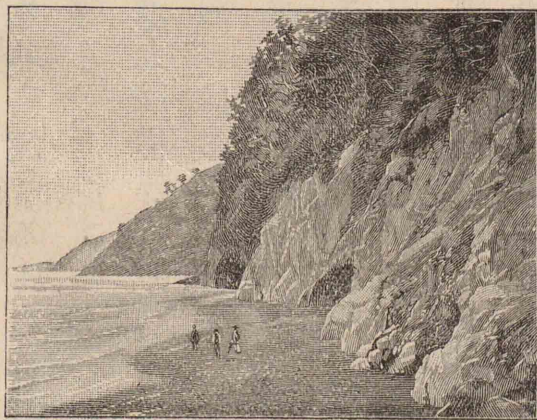
大井、天龍、木曾等あり、北流するものに信濃、神通、射水、手取、丸頭、龍等あり。木曾川は濃尾平野を過ぎ、信濃川は上流を千曲川といひ、長さ九十里に餘り、内地第一の長流にして、阿賀川と共に越後平野を流れ、神通川、射水川は越中平野を潤す。

湖沼は南部海岸の濱名湖最も廣く、之に次げるは諏訪湖にして、天龍川の水源をなし、冬季氷滑り行はる。北部海岸には、瀉と名づくる湖沼處々にあり。

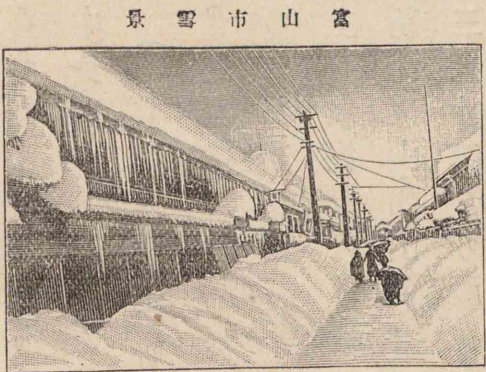
(海岸) 此の地方は本州中、出入に富める處にして、太平洋

方面には、東部に伊豆半島出で、其の西に水深大にして、風色絶佳なる駿河灣の入込めるあり、西部に渥美・知多の二半島ありて、三河灣を抱き、其の西に伊勢海深く彎入せり。日本海方面には、西部に若狹灣ありて、内に敦賀・小濱等の小灣を造り、中部には能登半島突出して、其の東に七尾灣と水深き富山灣あり。飛驒山脈の海に逼る處に、親不知の險あり。島嶼は至つて少なく、能登半島の東北なる佐渡島最も大なり。

氣候 面積廣大にして、地勢複雑なれば、氣候一様ならず。太平洋方面は夏季に雨量多きも、冬季は晴天打ち續き、氣候



親不知



富山山雪景

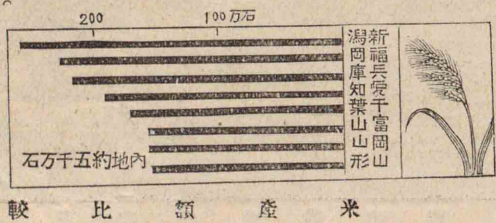


一般に溫和にして、海濱は駿河灣の沿岸を始

め、保養に適せる地多し。中部の高地は寒暑の差烈しく、雨量概して少なし。日本海方面は南部沿海地方よりも温度稍低く、降雨

全年に互りて多けれども、特に冬季雨雪切りに至り、本邦多雨地の一に數へらる。

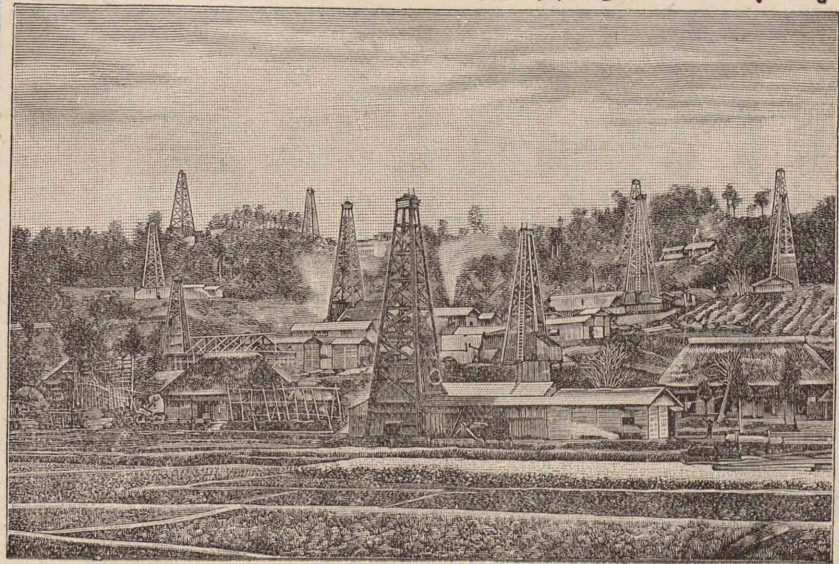
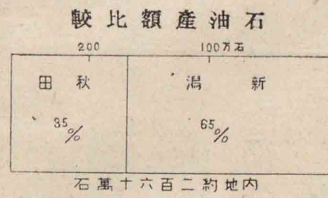
生業 生業は種々行はれ、一般に頗る盛なり。
(農業) 農業は最も廣く行はれ、越後・越中・濃尾の三平野は米産地として著はれ、越後平野を有



繭の産額は九頁
關東の部を見よ

する新潟縣は産額最も多し。
愛知縣の麥、静岡縣の柑橘類、
山梨縣の葡萄も産額少なか
らず。養蠶は中部南部に多
く行はれて、繭の産額は本邦
全産額の半に達せんとし、就
中長野縣最も隆盛なり。

(鑛業) 鑛産中、
最も重要なものは石油にして、
主に新潟縣なる
新津・東山・西山の
三大油田より産



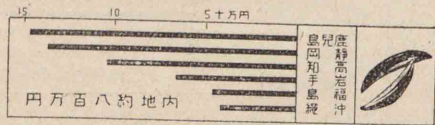
山西の長嶺油田

鉛の産額本邦第一なり

し、同縣の金、石川縣の銅、岐阜縣の鉛、亞鉛も亦著し。

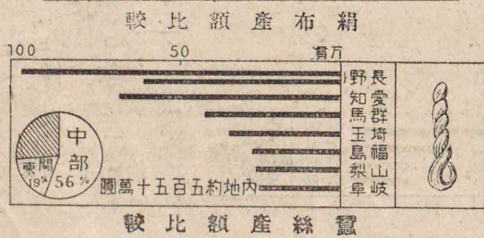
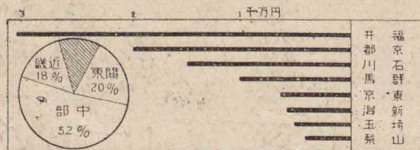
(林業) 長野縣の木曾、静岡縣の天龍川地方及び天城山には美林ありて、中にも木曾の御料林は檜、榎等の良材を出だす。

鑛産額比較表



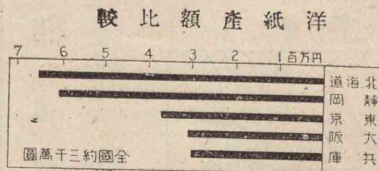
(水産業) 本業は太平洋方面に其の利多く、暖流に乗ずる鱈、鯉等漁獲せられ、静岡縣は鱈節の産多し。日本海方面にては、石川縣を最要漁業地とす。

(工業) 工業は一般に盛大にして、製絲は養蠶の發達せる地方にて營まれ、長野縣の産額は遙に諸府縣の上に出で、綿絲紡績は愛知・靜

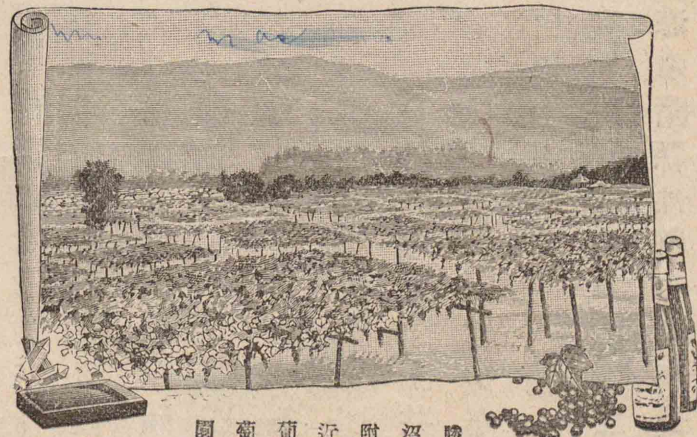


郡内地方の猿橋は奇橋を以て知られ附近に桂川水力発電所あり
笹子隧道の長さ約一里六町あり
甲府の北に御岳の勝地あり

諏澤の西南なる身延山に日蓮宗の本山久遠寺あり



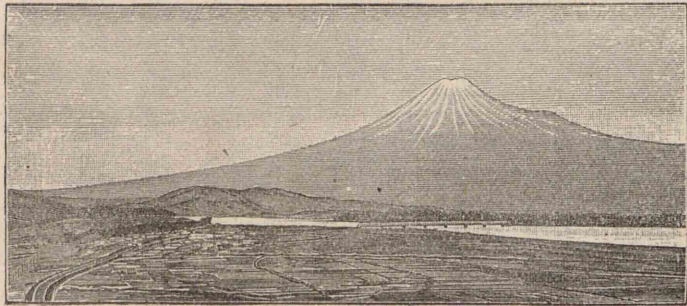
なれども、内部の諸縣には小なり。
 處誌 (山梨縣) 郡内地方の中心都會に谷村あり、海氣の市場たり。
 笹子峠には隧道を通じ、其の長さ全國第一と稱せらる。甲府平原の勝沼地方には葡萄の栽培行はれ、甲府市よりは生絲、水晶細工を産す。
 澤は富士川を上下する舟の發著する處なれども、中央線の開通以來衰微せり。
 (静岡縣) 富士の裾野なる大宮地方は洋紙製造の盛なる處なり。田子浦は駿河灣勝地の一にして、沼津は保養地たり。伊



勝沼附近葡萄園

静岡の東に久能山あり又西南の焼津は日本武尊の遭難地と傳ふ
富士山は岩淵附近より眺むるを最も雄大なりとす
濱松の北方に三方原の古戰場あり

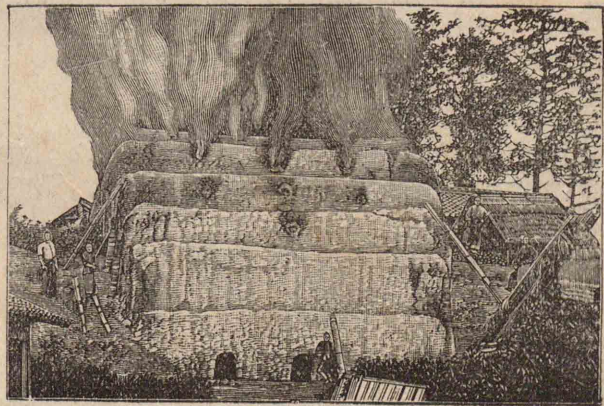
東海岩淵より富士山を望む



豆半島の熱海は間歇温泉を以て著はれ、南部の下田は開港史に名あり。清水は翠滴る三保松原を控へ、茶の輸出盛なり。静岡市は昔の駿府にして、安倍川に沿ひ、茶の集散活潑なるのみならず、漆器竹器の製造行はる。
 大井川の畔なる島田も亦茶木材の市場なり。天龍川沿岸の久根、鑛山は銅を産す。濱松市は西部の商工業地にして、鐵道院の工場及び織物、樂器等の工場あり。
 (愛知縣) 豊川沿岸の豊橋市は蠶絲の製造行はれ、附近に第十五師團司令部を置かれ、矢作川に沿へる岡崎市は徳川氏知多半島東岸の龜崎半田は清酒を産し、武

名古屋の東南なる有松・鳴海は絞を産す
東京・名古屋間二百三十五哩

豊は開港場にして、西岸の常滑は陶器に名あり。濃尾平野の名古屋市は伊勢海に瀕し、徳川氏親藩の居城たりし處にして、市の内外に熱田神宮第三師團司令部控訴院第八高等學校高等工業學校等あり、綿絲蠶絲織物陶磁器車輛時計漆器等の工産物を出だし、商業交通の要衝に當り、近年開港場と成れり。人口四十五萬帝國第四の都會なり。東北の瀬戸は古來陶磁器製造の中心、西北の一宮は機業地なり。

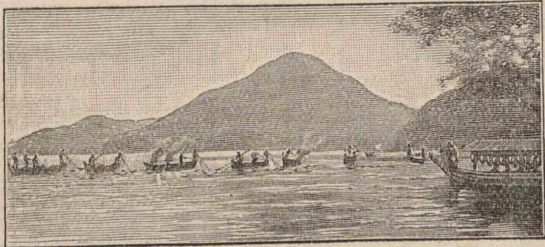


(町戸瀬)圖の器器陶

(岐阜縣) 岐阜市は鶺鴒を以て名高き長良川に沿ひ、縮緬提灯團扇等を産し、東北の美濃は製紙業盛なり。揖斐川に

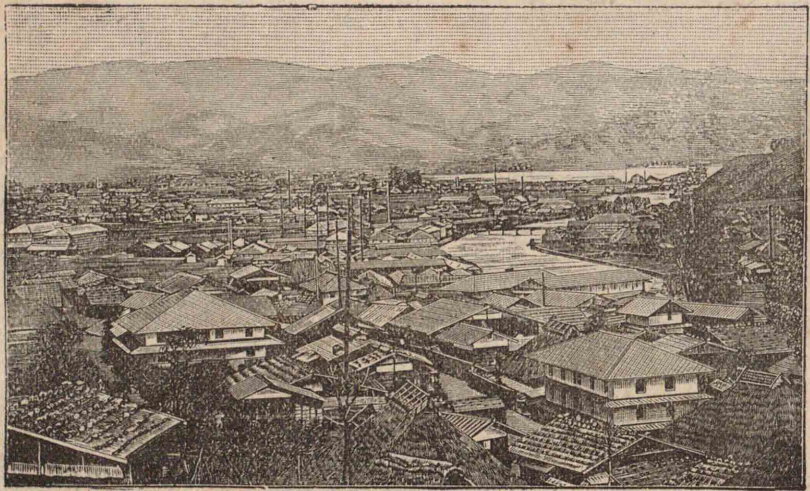
大垣附近の赤坂に大理石を産す
大垣の西方に關ヶ原の古戰場あり其の南に有名なる養老瀧あり

長良川の鶺鴒



近き大垣は美濃米を取引し、東南部の多治見地方は美濃焼の産地、中津は製絲業の中心たり。飛驒高原の

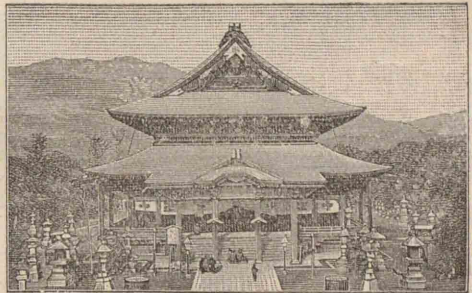
高山は生絲漆器を出だし、神岡鑛山は亞鉛鉛銀を産す。
(長野縣) 木曾川の流域は森林に名高く、福島の名邑あり



圖谷製絲場と諏訪湖出口

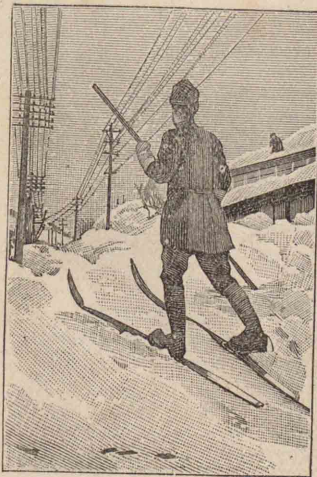
長野の南方犀川と千曲川との間に川中島の古戦場あり
千曲川の沿岸の城捨山は観月の勝地なり

善光寺本堂



り。諏訪湖沿岸の岡谷は本邦第一の製絲業地にして、上諏訪は温泉地、天龍川沿岸の飯田は地方商業の一中心なり。犀川流域の松本市は繭蠶種の集散盛に行はれ、長野市は善光寺あるを以て、賽客常に來集す。千曲川流域の上田は亦繭蠶種の大市場にて、蠶絲専門學校あり。輕井澤は避暑地にして、内外人の別荘多し。

(新潟縣) 高田市は西部の要市、第十三師團司令部の所在地にして、近年スキーの滑走盛に行はれ、直江津は水陸交通の要地に當り、近年次第に繁盛に赴



スキ

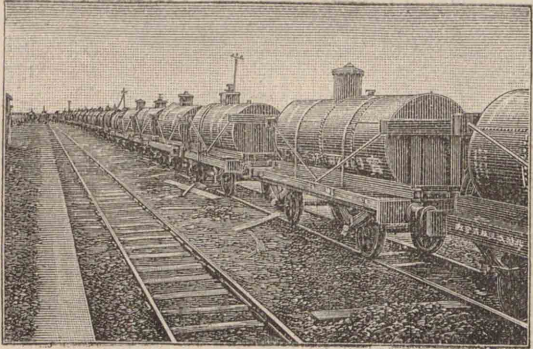
長岡の南方なる小千谷・十日町に越後縮・透綾を産す
東北なる栃尾・五泉も機業地なり

夷港は今、兩津港と稱す

新潟市に鐵器・漆器を産す

相川の東南に順徳上皇御火葬所の址あり

油槽列車 (長岡停車場構内)



かんとす。柏崎は大製油地にして、又交通の要地たり。信濃川に沿へる長岡市は縣内第一の商業地にして、亦製油業盛なり。新津は

新津油田の中心たると交通の要樞に當れるとによりて、近年俄に發達せり。新潟市は信濃川の口に位し、有名なる開港場なれども、港口淺くして、船舶の碇泊に便ならず、波浪險惡なる時は、船舶遠く佐渡の夷港に避難す、當市に醫學専門學校あり。佐渡の西部なる相

川は金山の爲に賑ふ。

(富山縣) 海岸の魚津は漁業と蜃氣樓の出現とにて知られ、滑川は近時螢烏賊を以て著はる。神通川に臨める富山

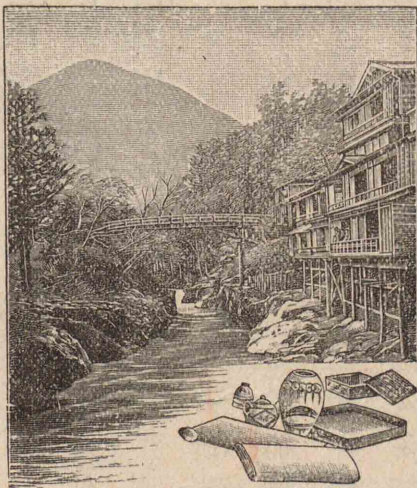
修善寺

七尾の附近に和倉温泉あり

手取川の西に遊泉寺・尾小屋の二銅山あり

市は古來賣藥製造の中心たり。射水川沿岸の高岡市は交通の要地にして、商業繁昌し、織物銅器等の製造行はれ、城端は機業の一中心をなす。河口に近き伏木は開港場なり。

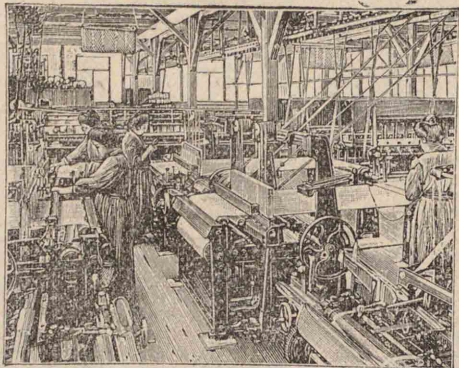
(石川縣) 能登半島の七尾は開港場にして、北岸なる輪島は堅牢なる漆器を産す。手取川の東なる金澤市は前田氏の舊城下にして、第九師團司令部第四高等學校、醫學專門學校を置かれ、兼六園あり、羽二重、九谷焼、漆器等を出だし、北陸の最大都會なり。西南の小松にも羽二重の製造行はる。西境に近き大聖寺、山代に九谷焼、山中に漆器を産し、山代山中は又共に有名なる温泉場なり。



山代温泉場と産物

福井市に藤島神社あり、新田義貞を祀る。東方の志比谷村に曹洞宗の本山永平寺あり。東南なる大野勝山も機業盛なり。敦賀に氣比神宮、金崎宮あり。敦賀・浦鹽新徳間四百九十四里、四十餘時間にして達す。

羽二重製造場



(福井縣) 九頭龍川流域の福井市は越前侯の舊城下にして、羽二重製造の最大中心をなし、西南の武生は刃物蚊帳等の産地にして、附近より奉書鳥子等の紙類を出だす。敦賀は日本海岸第一の開港場にして、歐亞交通の一大門戸たり。小濱灣に臨める小濱には、若狹塗の名産あり。

第四章 近畿地方

位置區劃 近畿地方は中部地方と中國地方とに接續し、南と北とは海に面し、面積略關東地方に等しく、行政上、二府五縣に分たれ、二縣を除きて皆海に臨めり。

近畿地方の十五國
 (畿内)
 山城 大和 河内 和泉 攝津
 (東海道)
 伊賀 伊勢 志摩
 (東山道)
 近江
 (山陰道)
 丹波 丹後 但馬
 (山陽道)
 播磨
 (南海道)
 紀伊 淡路

紀伊山脈は赤石山脈の續きなり
 中國山脈の東部は丹波高原をなす

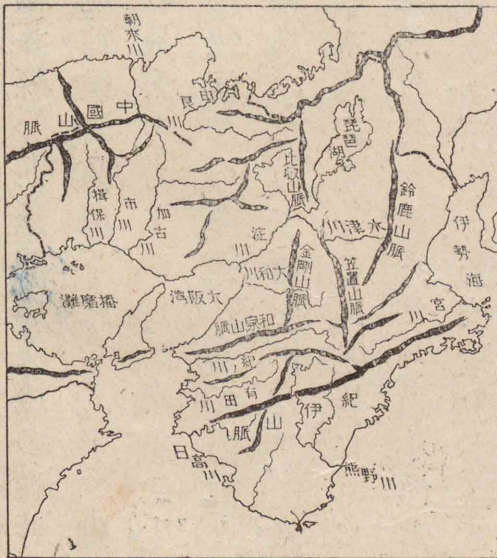
府	滋賀縣	京都府	奈良縣	三重縣	府縣廳所在地	大津市	京都市	奈良市	津市
管轄	近江	山城 丹波 一部	大和	伊賀 伊勢 一部	府縣廳所在地	和歌山縣	大阪府	兵庫縣	兵庫縣
府縣廳所在地	大津市	京都市	奈良市	津市	府縣廳所在地	和歌山縣	大阪府	兵庫縣	兵庫縣
管轄	紀伊 一部	河内 和泉	攝津 一部	攝津 一部 丹波 一部	府縣廳所在地	和歌山市	大阪市	神戸市	神戸市
府縣廳所在地	和歌山市	大阪市	神戸市	神戸市	府縣廳所在地	和歌山市	大阪市	神戸市	神戸市

地勢 (山野) 南部に紀伊和泉の二山脈、北部に中國山脈ありて、各東西に走り、紀伊山脈は彌山・大臺原山等を戴きて、近畿地方中最も高峻なる部分なり。

南北兩高地の間には、鈴鹿笠置、比叡、金剛等の山脈あり、縦走せり。平野は東部の伊勢、中部の近江及び畿内、西部の播磨著しく、就中畿内平野は大阪、京都、奈良の三平野に分かれて、廣袤最も大なり。

(河湖) 地勢上長流なく、日本海に注ぐものに由良川、朝來川、播磨平野に加古川、市川等、畿内平野に淀川、大和川等あり、和泉、紀伊二山脈の間に紀川流れ、熊野川は紀伊山脈を横斷し、宮川は伊勢平野を過ぐ。是等諸川の中、最も重要なものは淀川にして、上流を勢多川、宇治川と云ひ、下流は三角洲を抱きて大阪灣に入る。琵琶湖は面積凡そ四十四方里、本邦第一の大湖にして、湖畔の風色世に名高く、其の疏水運河は効益多し。

(海岸) 南部太平洋方面には、伊勢海、大阪灣東西相對して、深く北方に彎入し、小なる志摩半島、大なる紀伊半島突出し、



近畿地方地勢圖

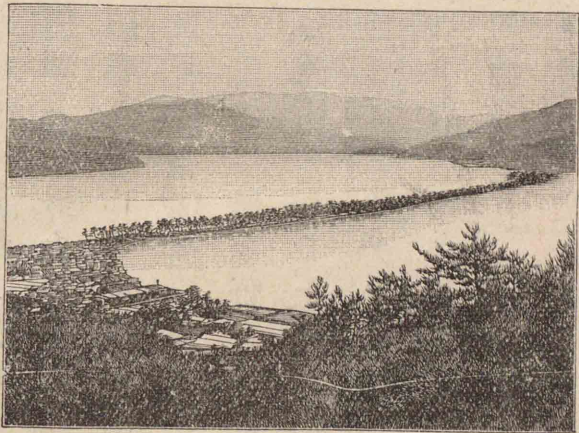
近江八景
 三井晚鐘
 石山秋月
 堅田落雁
 粟津晴嵐
 矢橋歸帆
 比良暮雪
 唐崎夜雨
 勢多夕照

伊勢海の沿岸は平低なる砂濱なれども、志摩半島より紀伊

半島の東部にかけては、峻崖多く、小屈曲に富む。

大阪灣は神戸・大阪の良港を備へ、淡路島に依りて其の西を限られ、紀淡海峽を以て南方紀伊水道に、明石海峽を以て西方播磨灘に通じ、其の沿岸は播磨灘の沿岸と共に概ね砂濱をなし、明石海峽附近は白砂青松、特に風光明媚なる處多し。北部日本海方面には、與

天橋立の山相望み。右は瀧岩、左は津宮灣なり



謝半島・宮津灣・舞鶴灣等出入し、天橋立の勝地、舞鶴軍港あり。
氣候 南部は最も溫暖にして、雨量殊に多く、内部は寒暑

の差稍強く、雨量多からず、北部は冬季降雪頻繁なるを特色とし、瀬戸内海沿岸は氣候最も良好にして、須磨・舞子等名高き保養地連なれり。

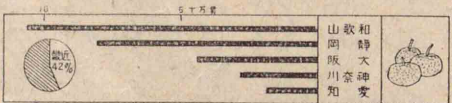
生業 近畿地方は生業夙に發達し、今日に於て

も我が國の經濟上、甚だ重要な位置にあり。

(農業) 米は其の收穫頗る多く、兵庫縣は米・麥共に當地方第一の産地たり。其の他、三重・滋賀二縣の菜種、和歌山縣及び大阪府の蜜柑、京都府の養蠶、兵庫縣の牧牛亦見るべし。

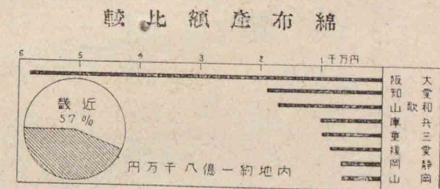
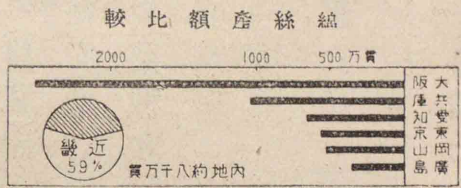
(林業) 林業は紀伊山脈の通ずる奈良・和歌山二縣に發達し、奈良縣の吉野地方、和歌山縣の高野山・熊野地方には美林ありて、杉の良材に富む。

(鑛業) 鑛業の稍盛なるは獨り兵庫縣のみにして、生野よ



蜜柑産額比較

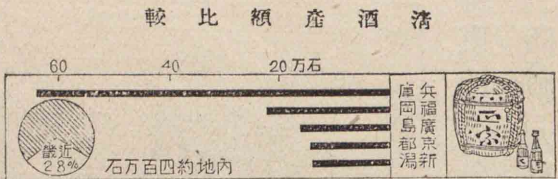
兵庫縣の御影石の名も廣く聞ゆ



じ、京都府は美術的に秀で、共に帝國工業の大中心たり。各種工業中、綿絲紡績は我が綿絲總産額の約六割を占め、大阪府・兵庫縣特に盛なり。機業亦甚だ盛況を呈して、全國産額の三分の一に達し、絹布・絹綿交織は京都府に盛にして精巧なる縮緬類・絲織類・女帶地等を主とし、綿布は大阪府・三重縣

り銅・銀・錫を産す。
 (水産業) 沿海の地に盛にして、太平洋に鯨・鯨・瀬戸内海に鯛・食鹽を産し、志摩半島の近海には眞珠の養殖行はれ、三重・兵庫の二縣は漁利殊に多く、琵琶湖の漁業も亦稍著はる。
 (工業) 工業は其の盛大なること本邦に冠絶し、大阪府は實用的に長

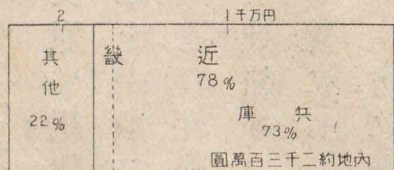
近年大阪に安質母尼の製鍊・染料の製造行はれ、又兵庫及び大阪に亞鉛製鍊業發達せり



も産額大なり。

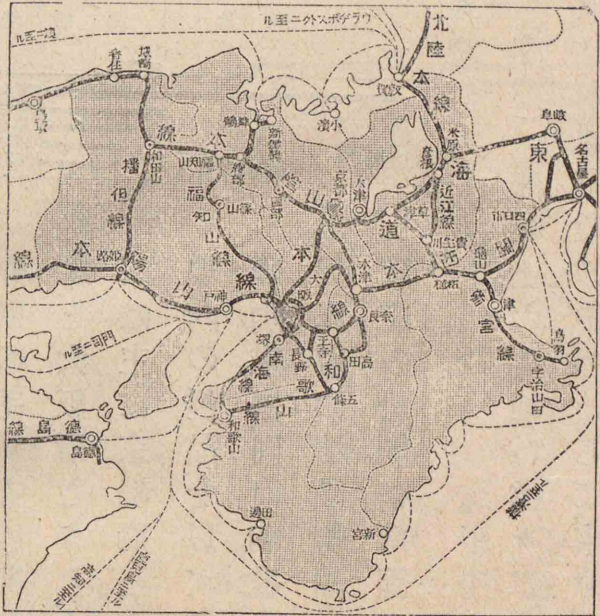
(商業) 商業上の要地は處々にあり、就中大阪は内國商業の中心として、東京と其の盛を競ひ、神戸・四日市等と並びて開港場たるが、貿

の白木綿、和歌山縣の綿ネル、奈良縣の緋、大阪府のタオル等著しく、滋賀縣の麻布、大阪府・兵庫縣の毛織亦産額多し。マッチの如きは兵庫縣と大阪府とより、本邦産額の八割を出だす。茶は主に京都府・三重縣より出で、京都産は内地向の優品を以て知らる。以上の外、京都府の陶磁器、同府和歌山縣の漆器、兵庫縣の清酒、醬油、洋紙、船舶、大阪府の船舶、精糖等ありて、何れ



南海鐵道は電車
鐵道に變更せり

近畿地方交通圖



易高は神戸最も多く、神戸は輸入に於ては横濱の上にあり。

交通 交通は紀伊半島地方を除き、一般に便利なり。鐵道の幹線は神戸に於て連絡する東海道線・山陽線にして、北方に山陰線・南方に關西線あり、其の他に參宮・南海・福知山・播但等大小の支線ありて、幾多の電車軌道と共に、縦横に走り、關東地方の如く鐵道網をなし、大阪を中樞とせり。航路は大阪・神戸の二港より内外の諸港に向ひて多く開け、淀川・琵琶湖は内陸交通の便を助く。

人口一萬以上の
都邑四十九に
して其の内市十二
あり

長濱の北方に姉
川・賤ヶ岳の古
戰場、八幡の東
北に安土城址あり

三井寺より琵琶湖を望む



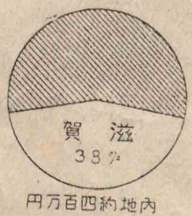
琵琶湖は内陸交通の便を助く。

住民 人口密度共に關東地方に次ぎて、大阪・京都・神戸等大なる都會を有し、人煙最も稠密なる大阪府にては、一方里の住民二萬人を超ゆること東京府の如し。

處誌 (滋賀縣) 湖東の長濱は縮緬を以て知られ、米原は鐵道の分岐點、彦根は井伊氏の舊城下にして、八幡は麻布の

産地なり。湖南の**大津市**も麻布を産し、交通の便多く、疏水の起點たり、市内の**三井寺**(**園城**)は比叡山上の延曆寺と共に、天台宗の巨刹なり。

麻布産額比較

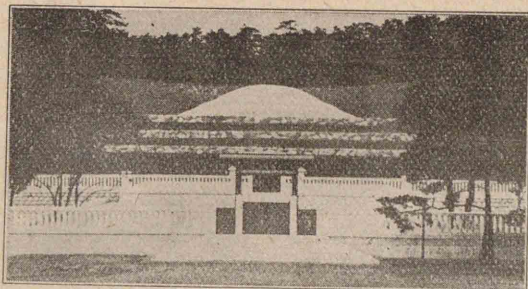


東京・京都間三
百三十三哩

皇
室
繪
書
友
禪
光
琳

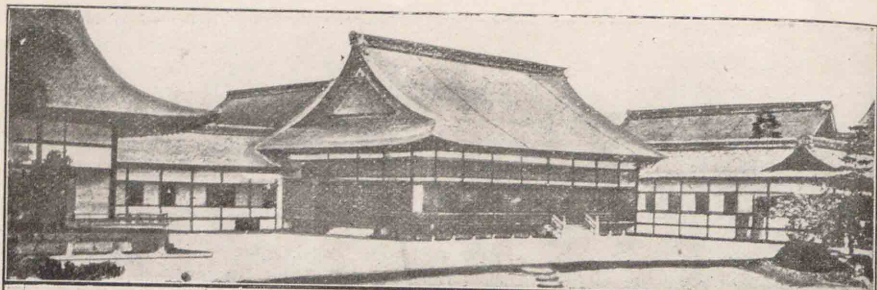
深草に稻荷神社
八幡に男山八幡
宮あり

桃山御陵(明治天皇)

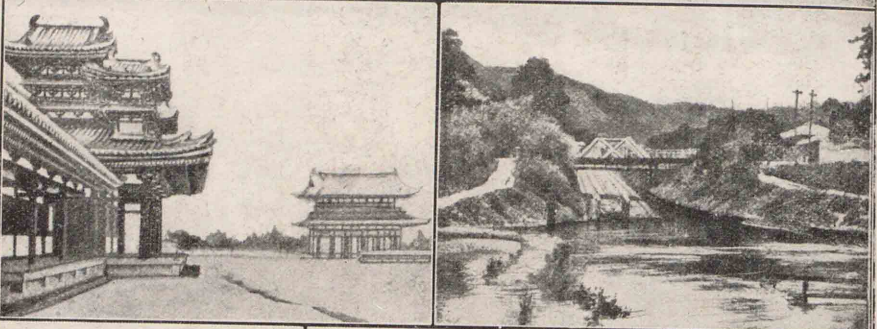


(京都府) 京都市は賀茂川に跨りて、山紫水明の地に位し、
街路整然、桓武天皇五八以來一千餘年間の帝都たりし所に於て、
御所あり、二條離宮あり、天皇の即位式は今後此處にて行は
せらるることとなれり、又帝國大學、第三高等學校、高等工藝
學校、帝室博物館等ありて、學術の淵藪たるのみならず、佛敎各派、
本山の多くは此の地にありて、宗教上の大中心をなし、西
陣織、刺繡、友禪染、陶磁器、漆器等の美術工藝品を産し、産業上の
要地に當り、人口五十一萬、帝國第三の都會たり、市の内外は
名所舊蹟に富み、遊覽の客絡繹として絶ゆることなし。京都の南
なる堀内に、明治天皇及び昭憲皇太后の御陵、深草に第

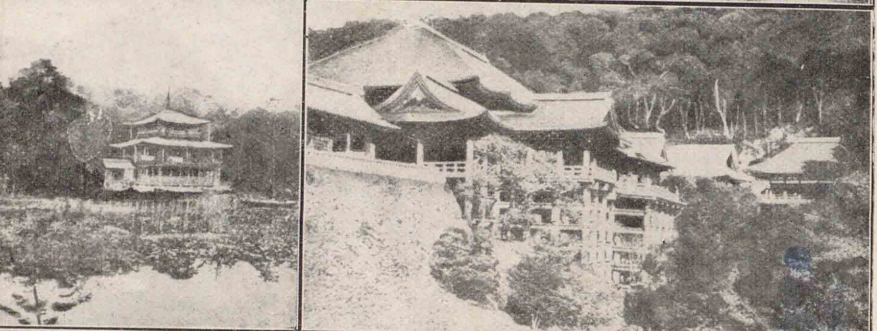
京都御所



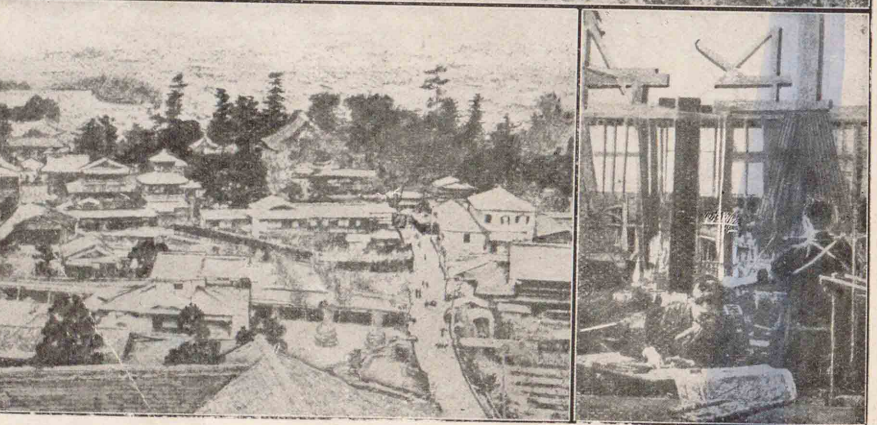
疏水インクライン



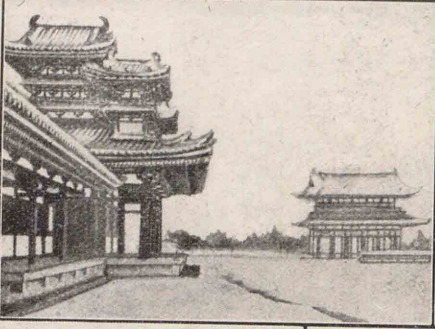
清水寺



西陣織物工場



平安神宮 應天門と白虎樓

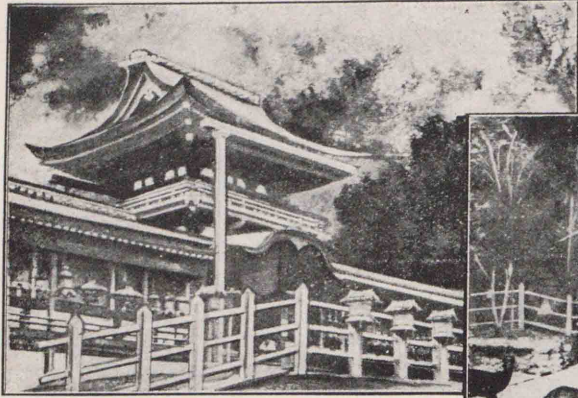


金閣寺



京都市街の一部





春日神社



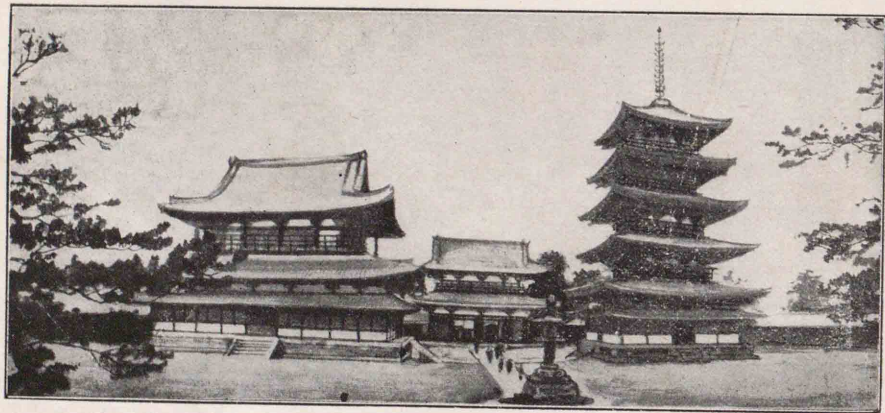
春日神社二ノ鳥居



大佛



大佛殿

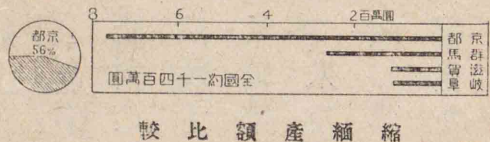


法隆寺

郡山には金魚の飼養盛なり
丹波市は天理教本部の所在地にして近年繁盛に赴けり

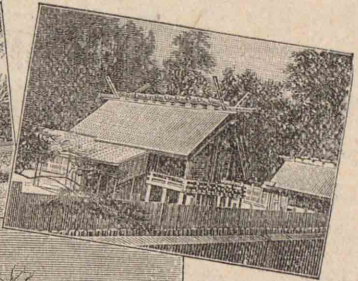
十六師團司令部あり。伏見は淀川に沿ひて、水運の便を有し、宇治は有名なる茶の産地にして、藤原時代の建築の好標本たる鳳凰堂あり。木津川沿岸の笠置山は其の名史上に高し。由良川沿岸の福知山は交通の要地なり。舞鶴灣は軍港にして、其の附近に要塞司令部あり。宮津灣の宮津は開港場、與謝半島の峯山地方は多く縮緬を産す。

(奈良縣) 奈良平野の奈良市は元明天皇以來、七十餘年間帝都たりし地にして、春日神社、東大寺、正倉院、興福寺を始め、近郊と共に、名所舊蹟頗る多く、又女子高等師範學校、帝室博物館あり、綿布、根來塗、筆墨等を製造す。法隆寺村に我が國最古の建築と稱せらるゝ巨刹あり。平野の南なる畝傍山の麓には、神武天皇の御陵及び橿原神宮、

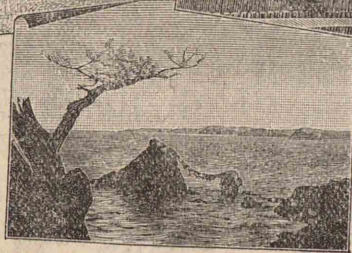
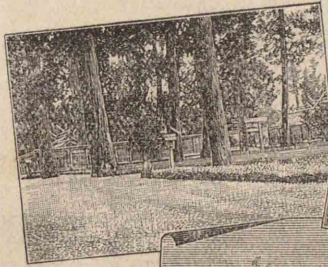


上野は伊賀の主邑なり

宮内勢伊



宮外勢伊

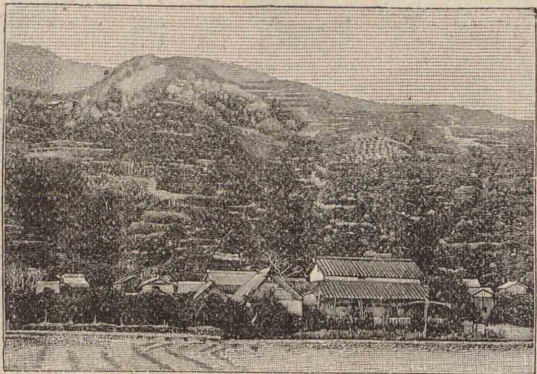


二見ヶ浦

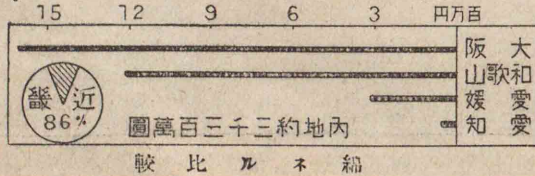
多武峯には談山神社あり。紀川の上流なる吉野川の南に吉野あり、櫻の名所、吉野朝の都たりし處なり。縣の東北部なる月瀬は梅花に名高し。(三重縣) 伊勢平野の龜山は鐵道の分岐する處なり。四日市市は開港場にして、米肥料の取引行はれ、綿絲綿布種油萬古燒等の製造ありて商工業繁榮なり。桑名は揖斐川の河口に位して、米及び木材を集散す。津市は伊勢海に瀕し、藤堂氏の舊城下にして、綿絲綿布の産あり、縣下第一の都會なり。松坂も亦綿布を産す。宇治山田市は宮川に臨み、神宮

熊野灘に面せる尾鷲は漁業地にして木材を集散す
志摩の英虞灣、伊勢の五箇所灣及び迫間灣に眞珠の養殖場あり

有田新堂町附近の柑畑



のある處にして、山田に外宮、宇治に内宮鎮座し、參拜の客四時絶ゆることなく、東方に二見浦の勝地あり。志摩半島の鳥羽は自然の良港なり。(和歌山縣) 熊野川の河口なる新宮は木材の集散地にして、西方の那智山には、名高き那智瀧懸れり。有田川の流域は蜜柑の栽培大いに行はれ、湯淺、箕島より多く之を積み出だし、黒江は本邦有数の漆器産地なり。紀川の口に沿へる和歌山市は徳川氏の親藩紀州侯の舊城下にして、綿ネル製造の大中心に當り、木材を集散し、

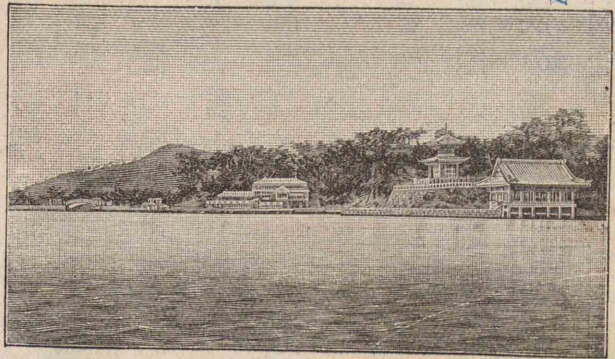


堺附近に住吉・
齋寺の二公園あり

大阪・東京間約
三百六十哩

近く風光明媚なる和歌浦あり。東方の高野山は眞言宗の本山金剛峯寺のある處にして、又良材に富めり。

(大阪府) 大和川の南なる堺市は綿絲刃物煉瓦等を産する工業地にして、往古貿易港たりし處なり。淀川の三角洲に大阪市あり、大阪灣に臨み、運河縦横に通じ、東海道關西南海等の諸線此處に集まり、築港工事亦漸く成らんとし、水陸共に交通の便を極め、人口凡そ百四十萬、我が國第二の都會にして、綿絲綿布・精銅鐵製品・莫大小等の製産夥しく、商工業の盛大なること我が國第一と稱せらる。市の繁榮は豊臣秀吉が大阪城を築きしに基

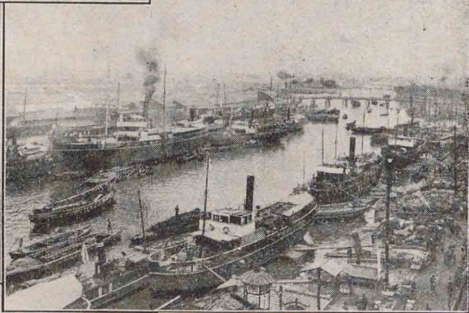


和歌の浦

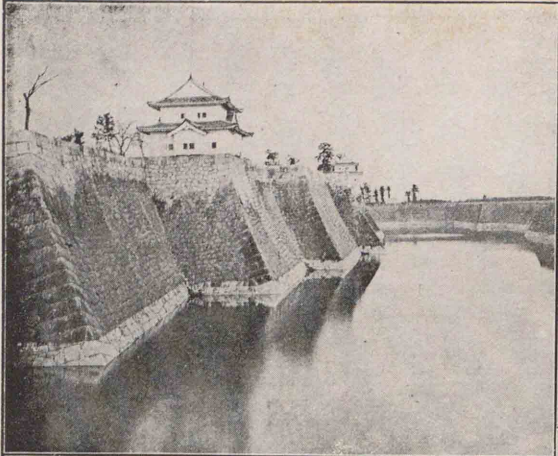
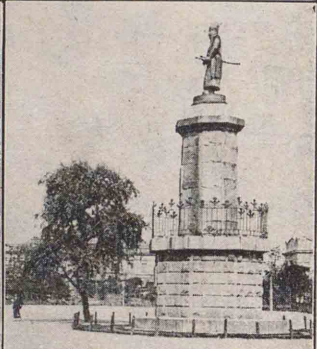
天満橋



安治川口



中ノ島公園



大阪城



四天王寺



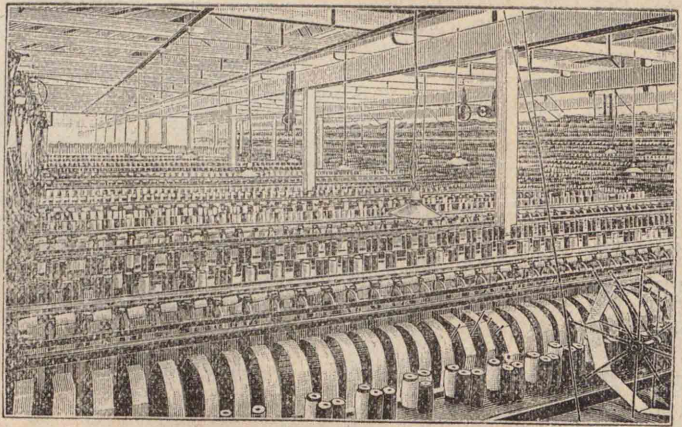
築港全景



大阪市街の一部

府立醫科大學あり

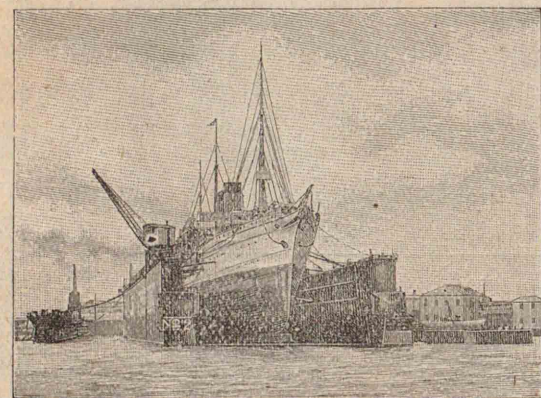
綿 絲 紡 績 工 場



は清酒を以て知らる。

(兵庫縣) 東境の尼崎市は近時工業

づくこと多く、今は其の城址に第
四師團司令部あり。此の外市に
砲兵工廠・造幣局・控訴院・高等工業
學校・四天王寺等あり。東境の金
剛山・四條
畷は楠木
氏の遺跡
なり。府
の北部な
る吹田は
麥酒池田

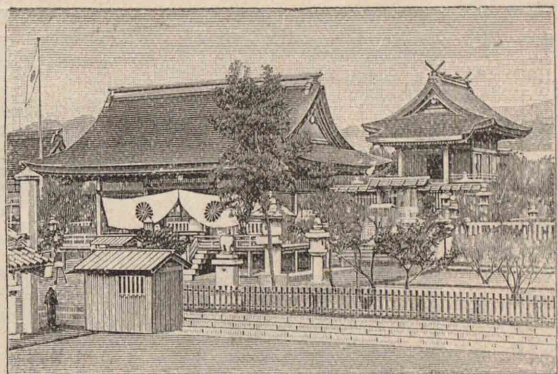


三菱造船所浮船渠

池田の東北なる箕面公園は瀑布と紅葉とに名あり

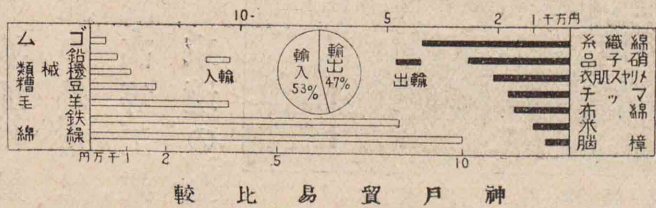
神戸・東京間約三百八十哩神戸に樟腦の製造行はる

淡川神社



りしより急速に發達して、横濱と其の隆盛を争ひ、特に輸入貿易盛なり、工業も亦次第に繁榮に赴き、船舶機械、綿絲、精糖、マツチ、麥粉等の製造大に行はれ、市況甚だ活潑にして、人口約四十四萬に

隆盛に赴きて、綿絲、硝子の製造行はれ、之より西方、西宮、御影の地方を灘と云ひ、伊丹と共に、清酒の醸造最も多し。西宮の西北なる有馬は著名の温泉地にして、浴客常に絶ゆることなし。神戸市はもと一寒村に過ぎざりしが、開港場とな

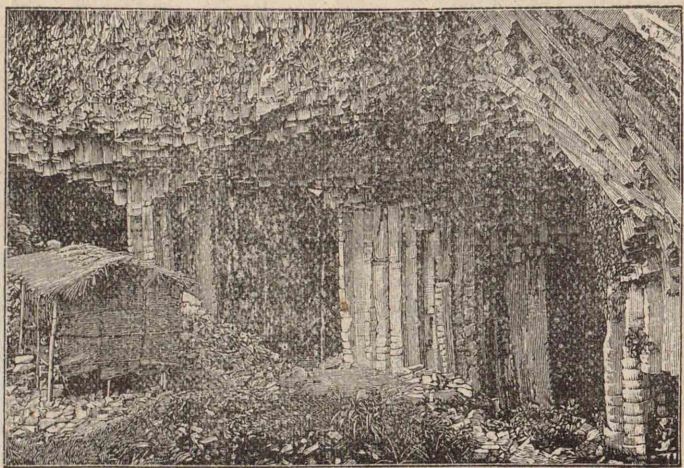


高砂に洋紙を産す

網干にセルロイドを産す
錫の産額本邦第一なり

朝來川流域の出生は出石焼の産地なり
城崎の西方に於て山陰線に我が國の一大工事たりし餘部の鐵橋あり

及び本邦第五の都會たり。市に高等商業學校、湊川神社、諏訪山公園等あり。市の西方、白砂、青松、遠く連れる處に、須磨、舞子、明石等の勝地あり、須磨の一谷は古戰場なり。市川に沿へる姫路市は第十師團司令部を置かれ、龍野は醬油を、赤穂は食鹽を産す。中國山脈の生野は銅、金、銀、錫を産す。朝來川沿岸の豊岡は柳行李の産地にして、城崎は温泉を以て知られ、附近に玄武洞あり。淡路島を産し、由良には要塞司令部あり。



玄武洞

淡路島の洲本

第五章 中國地方

中國地方の十二國
(山陽道)
美作 備前 備中
備後 安藝 周防
長門
(山陰道)
因幡 伯耆 出雲
石見 隱岐

竹島も亦島根縣
に屬す

位置區劃 中國地方は近畿地方の西に連りて、北は日本海、南は瀬戸内海に臨み、地形東西に長く、南北に短く、本州の西部に於ける半島の大部を占め、面積略關東地方に等し。行政上、五縣に分たれ、何れも海に沿はざるはなし。

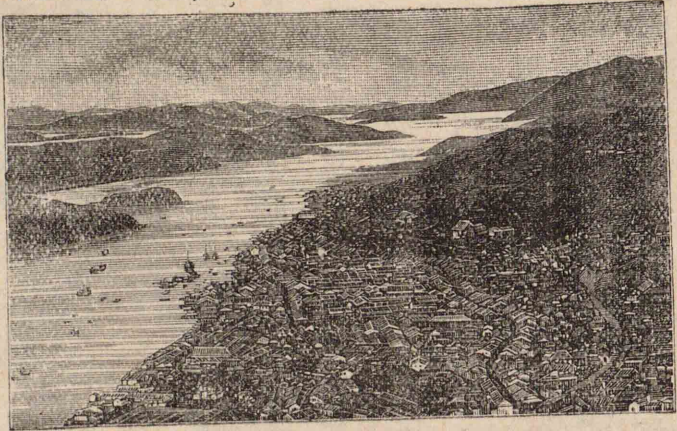
縣	管	轄	縣所在地	縣	管	轄	縣所在地
岡山縣	美作	備前 備中	岡山市	島根縣	出雲	石見 隱岐	松江市
廣島縣	備後	安藝	廣島市	鳥取縣	因幡	伯耆	鳥取市
山口縣	周防	長門	山口町				

地勢 (山野) 高臺性の中國山脈中部を東西に走りて、此の地方を山陰、山陽即ち南北の二部に分ち、白山火山脈と相俟ちて分水嶺をなす。白山火山脈は中國山脈に並行して、

大山は出雲富士
又は伯耆富士と
いふ

山陰に通じ、大山三瓶山等を噴出せるが、是等も亦海拔の大きなものなし。平野は沿海河岸の處々に開け、廣袤著しきものなし、中に就きて第一とすべきは山陽の東部なる岡山平野なり。

(河湖) 河川は瀬戸内海斜面に吉井川、旭川、高梁川、大田川等ありて、吉井川、旭川は岡山平野を流れ、大田川は廣島灣に注ぐ。日本海斜面に江川、斐伊川、日野川、千代川等あり。是等は地形の關係より、一般に流程長からずして、江川を最長とす。湖沼は斐伊川を容る、穴道湖及び之に連る中海著し。



尾道水道

兒島灣は近年盛りに開墾せられた
瀬戸内海には水島灘・備後灘・周防灘と稱する所あり
長門の西海を響灘と云ふ

(海岸) 瀬戸内海の沿岸は廣島灣を始め、兒島半島・兒島灣等大小の屈曲頗る多く、其の海上には無數の島嶼蒼布して、幾多の瀬戸(水道)を造り、風光の明媚内外人をして嘆賞せしむ。日本海岸は概して出入に乏しく、中部に島根半島出でて、宍道湖・中海の北を限り、其の沖合に隱岐諸島を見るに過ぎず。
氣候 山陽地方は一般に温暖寡雨にして、晴天の日多く、海上静穏なり。之に反し山陰地方は

較比量雨

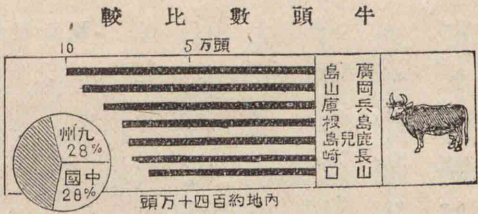


く、天氣概ね陰鬱、海上風浪烈し。

生業 生業發達の度は山陽に高く、山陰に低し。

(農業) 農産中、米・麥は岡山・廣島・山口の三縣に多く、大麻は廣島・島根の二縣を主とし、藷は岡山・廣島の兩縣を主要栽培地とす。岡山縣の桃、山口縣の夏橙等果物の産出亦著はる。

牧畜は處々に廣大なる牧場あるを以て、牛の飼養盛に行はれて、其の頭數内地の約三割に及び、廣島・岡山の二縣は頭數特に多し。



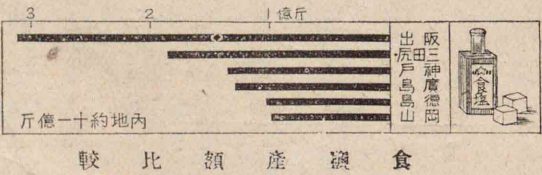
(鑛業) 鑛業品は岡山・島根二縣の

銅稍著しく、山口縣の石炭之に次ぎ、鳥取・島根の二縣より砂鐵を産すれども、其の量甚だ少なし。

(水産業) 水産業は山口・廣島の二

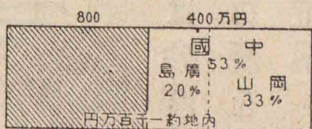
縣特に盛にして、鯛・鱚等漁獲せられ、島根縣の柔魚亦少なからず。製鹽業は砂濱にして寡雨なる瀬戸内海沿岸に榮え、山口縣を最も盛なりとす。

(工業) 主要工産物は岡山・廣島兩縣の綿絲織物・疊・表・花筵



下關は朝鮮との取引甚だ盛なり

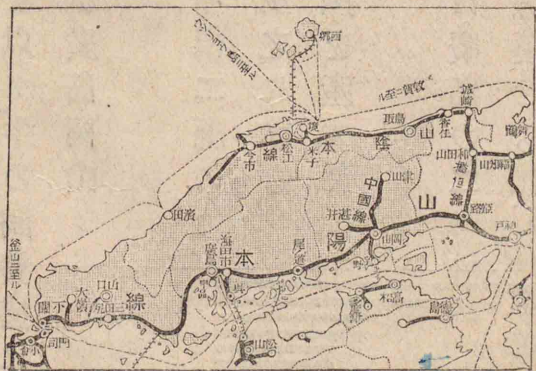
疊表花筵類産額比較



及び眞田類等の纖維品にして、岡山縣島根縣の陶磁器の如きも其の名世に知らる。
 (商業) 商業の大中心と稱すべきものなく、南岸の絲崎下關北岸の境等は開港場なれども、貿易額何れも多からず。

交通 鐵道は南部に

山陽線北部に山陰線あり、各東西に走りて小支線を有し、未だ互に連絡するに至らず。河川は航運の便少なく、中海宍道湖には汽船の往來あり。海路は靜穩なる瀬戸内海に發達し、内海の咽喉たる下關は九州朝鮮との關係甚だ深し。



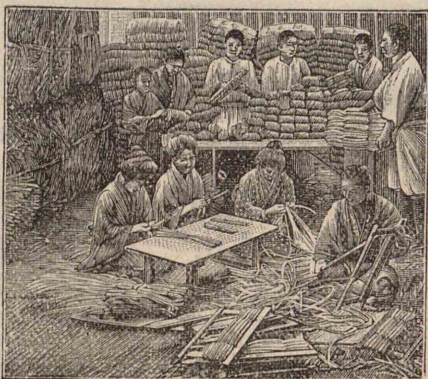
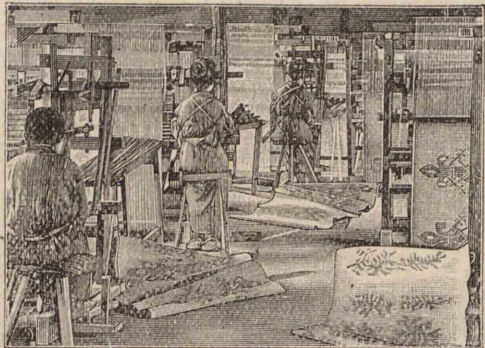
中國地方交通圖

岡山 市 人口一五五
 廣島 市 人口一七五
 山口 市 人口一七五
 島根 市 人口一七五
 鳥取 市 人口一七五

縣の東部なる三石に煉瓦・磁石、伊部に備前燒の産あり

中國線の終點に津山あり地方の名色なり其の西方に院庄あり

花筵製造



多科眞田製造

住民 人口は關東地方の約半にして、密度は彼に比すれば頗る小なり。而して山陽は山陰より人煙稠密にして、大なる都會を有すること多し。

處誌 (岡山縣) 旭川の^{ス六}下流に沿へる岡山市は池田氏の舊城下にして、第

六高等學校醫學專門學校後樂園あり、綿絲綿布花筵の製造行はれ、商業活潑、山陽中國宇野等の諸線集まり、交通の要地たり、附近に第十七師團司令部を置かる。兒島半島南岸

味野の南方なる
下津井に無線電
信局あり
高粱の西北に吉
岡嶺山あり

笠岡の對岸なる
神島に亞鉛製錬
行はる

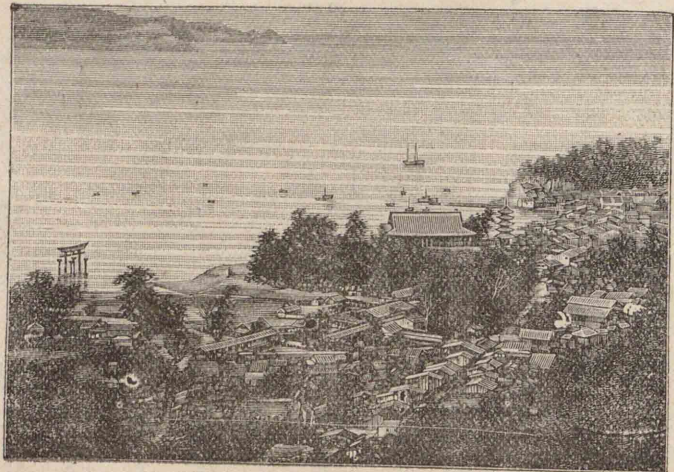
絲崎は開港場な
り
廣島に罐詰の産
あり

の宇野は四國に渡る要津、味野は製鹽地にして、半島の頸部なる帶江、鑛山より銅を産す。高粱川の河口なる玉島は西方の笠岡と共に綿絲を産し、笠岡は又高粱川中流の高梁と共に、麥稈眞田の製造に名あり。

(廣島縣) 蘆田川の下流なる福山市は疊表類を集散し、綿絲綿布を産す。其の西方なる松永は製鹽業の中心をなし、尾道市も亦疊表類の盛なる集散地にして、其の南方海上の因島には造船業行はる。忠海は藝豫要塞司令部のある處なり。廣島市は大田川の三角洲に位し、もと淺野氏の城下たりし處にして、控訴院第五師團司令部、廣島灣要塞司令部、高等師範學校等を置かれ、中國第一の大都會なり、市の南端なる宇品は廣島灣の良港にして、日清戰役以來、屢我が軍隊の出發地となりしを以て著名なり。吳市も亦廣島灣に沿

江川流域の三次
は地方の中心市
場にして附近に
麻を産す
東方の山内東村
に畜産試験場中
國支場あり

部 一 の 島 嚴



ふ、昔は一漁村に過ぎざりしが、鎮守府軍港を置かれしより、

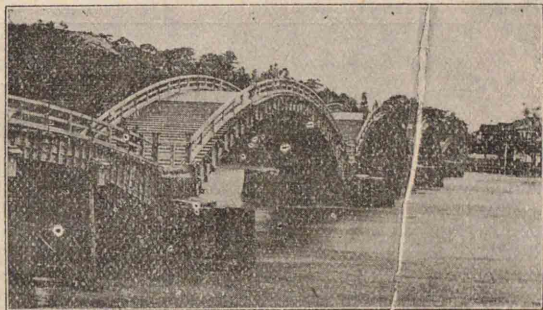
急激なる發達をなし、今や本邦大都會の一たるに至れり、鎮守府の工廠は規模甚だ大きく、製鋼製艦に従事す。前面の江田島に海軍兵學校あり。江田島の西方なる嚴島は嚴島神社のある處にして、其の山色水光夙に世に著はる。

(山口縣) 岩國は同名の川に沿ひ、錦帶橋、木綿縮に依りて聞ゆ。海岸の徳山は海軍煉炭製造所のある處、防府は三田尻鹽田ありて製鹽業の中心なり。

小野田の北方なる大嶺は無煙炭を産す
 下関・神戸間三百二十九哩
 下関はトロール船の定繋地
 下関海峡は關門海峡と呼ぶことあり
 彦島に三菱造船所あり

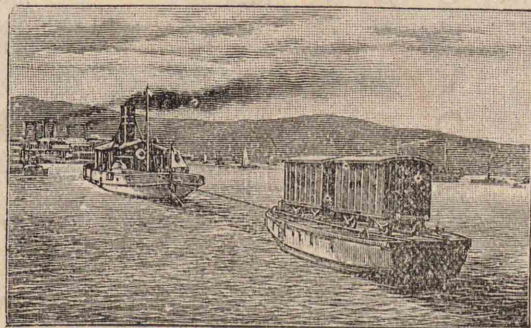
響灘の角島に無線電信局あり

錦帯橋



て、米穀の取引繁昌し、外國貿易行はれ、商業・交通の要處たるのみならず、軍事上の重鎮にして、要塞司令部あり、市の東端なる壇浦は歴史上有名なり。日

内部の山口は嘗て大内・毛利兩氏の據りし地にして、高等商業學校の所在地なり。南岸の西部に小野田、下関あり、小野田はセメント・薬品の産地、下関市は瀬戸内海の一門たる下関海峡を隔てて、九州の門司と對し、同地及び釜山に對する連絡船の發着地にして、米穀の取引繁昌し、外國貿易行はれ、商業・交通の要處たるのみならず、軍事上の重鎮にして、要塞司令部あり、市の東端なる壇浦は歴史上有名なり。日



關門海峡鐵道貨車の運送

三瓶山の西方なる大森鑛山より銅・銀を産す

西郷に近く後醍醐天皇行在所の舊蹟あり
 島前の中ノ島に後鳥羽上皇御火葬所の地あり

松江市と宍道湖

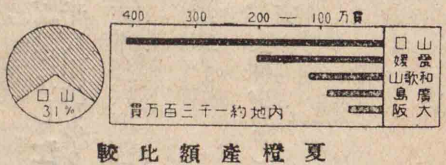


本海岸の萩は毛利氏の舊城地にして、萩焼を産し、附近に夏橙の栽培盛なり。

(島根縣) 日本海岸の濱田は開港場にして、近傍より和紙を産し、杵築は出雲大社を以て著名はる。宍道湖に沿へる松江市は風色優麗、八雲塗、瑠璃細工を名産とし、出雲焼を集散す。隠岐は火山島にして、島前・島後の二部に分かれ、鰯を産すること多く、島後の西郷は良港なり。

通の便を有する商業地なり。夜見濱半島の北端に境あり、

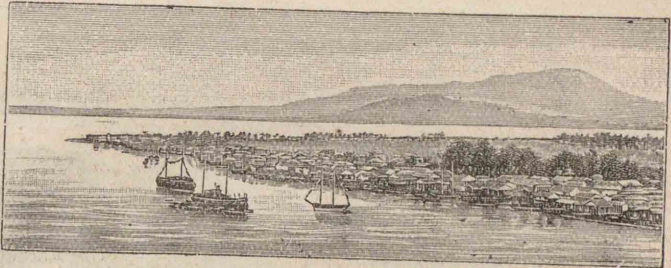
(鳥取縣) 中海に沿へる米子は水陸交



千代川の口に賀露港あり

四國地方は南海道の四國に當る
阿波 讃岐 伊豫 土佐

港境を隔て、大なる山を望む



日本海の要津にして、開港場の一なり。大山の東北なる船上山は史上に名高く、東方の倉吉には生絲木綿緋の産あり。千代川下流の鳥取市は池田氏の舊城下なり。

山陽方面

面積 山陰に比し、面積略二倍、人口三倍餘
地勢 海岸の出入及島嶼多し
氣候 吉井川・旭川・高梁川・大田川等あり
生業 年中温暖にして雨少なし
交通 農・牧・工・水産の諸業發達す
貫通鐵道の外に支線多し
航通發達せり

山陰方面

面積 山陽に比し、面積凡そ半、人口三分の一
地勢 海岸の出入、島嶼少なし。江ノ川・斐伊川・千代川等あり
氣候 夏は温暖なれども冬は風強く雨雪多し
生業 農・牧業稍發達す
交通 鐵道貫通せず、支線少なし
航通十分ならず

第六章 四國地方

位置區劃 四國地方は四國島及び附近の島嶼より成り、

瀬戸内海を隔てて、中國地方と相對し、面積略關東地方の二分の一に當る。行政上、四縣に分たれ、皆海に沿へり。

縣	管	轄	縣	管	轄
德島縣	阿波	所在 地廳	德島市	愛媛縣	伊豫
香川縣	讃岐	所在 地廳	高松市	高知縣	土佐
					所在 地廳
					松山市
					高知市

地勢 (山野) 四國山脈四國島の中央を東西に走りて、石

槌山・劍山等を戴き、讃岐山脈其の東北に横たはり、兩山脈の北に阿蘇火山脈通ず。かくて四國島は一般に山岳多くして、大なる平野なく、其の稍著しきは、四國・讃岐二山脈の間なる阿波平野、讃岐山脈の北なる讃岐平野等に過ぎず。

(河湖) 河川は一般に短く、東流するものに吉野川あり、南流するものに仁淀川・渡川等あり、吉野川最も長くして、阿波平野を流る。湖沼も本州に於けるが如き、大なるものなし。

香川縣には人工に成れる灌漑用の池頗る多し

高繩半島は嵯峨と硫黄灘とを分つ

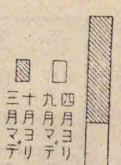
鳴門海峡圖八十
三頁にあり

(海岸) 北には讃岐・高繩の二大半島ありて豫讃灣を抱き、近海には小豆島を始め、大小の島嶼散布せり。西には佐田岬長く突出し、豊豫海峡を挟みて九州島に逼り、海峡以南の海岸は鋸齒状をなし、島嶼亦少なからず。南には蹊陀室戸の兩岬出でて、廣き土佐灣を限れり。東北淡路島との間は潮流最も急なる鳴門海峡にして、瀬戸内海の一門たり。

氣候

氣温は中國地方に比すれば更に高く、南部は殊に

雨量比較



高知一七六〇程
松山一三〇〇程

高温にして、榕樹の生育する處あり。雨量は南北其の狀況を一にせず、南部は背後に山岳連互し、前面より

濕風を受くるを以て、甚だ豊富なれども、北部は山陽地方の如く、一般に寡雨なり。

生業

四國地方の産業には、他の地方と多少異なるる産

物を與ふるものあり。

(農業)

農産物中、甘蔗は香川縣を始として、廣く栽培せられ、高知・愛媛の二縣は楮三椶を産すること多く、徳島縣の藍煙草も産額少なからず。但藍は外國製染料の壓迫を受けて、近年著しく衰微せり。

(林業)

森林は高知縣によく茂り、杉・檜・樟等の發育盛なり。

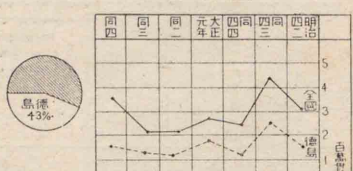
(鑛業)

鑛業は愛媛縣に盛にして、別子鑛山は我が國四大銅山の二に數へらる。

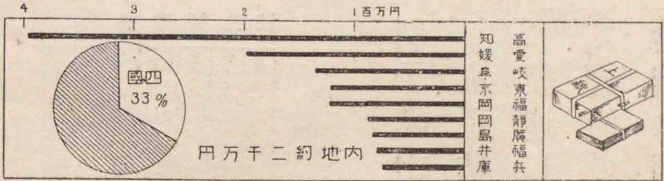
(水産業)

近海は魚族豊富なるを以て、四縣共に發達し、就中高知縣は本邦屈指の漁業地にして、鯉節の製造に名高く、鯨及び珊瑚をも産す。食鹽は瀬戸内海に面する徳島・香川・愛媛の三縣

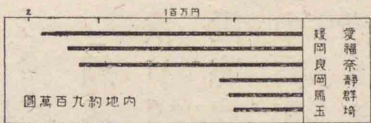
藍産額比較



和紙産額比較



絹産額比較



より出で、香川縣は第一の産地なり。

(工業) 製紙は高知愛媛の二縣に榮えて、和紙の産出に富み、機織は愛媛縣首位に立ち、綿ネル伊豫絹を供給し、徳島縣は縮木綿を産し、尚愛媛縣の綿絲香川縣の砂糖麥稈眞田醬油等亦見るに足る。

(商業) 内地商業

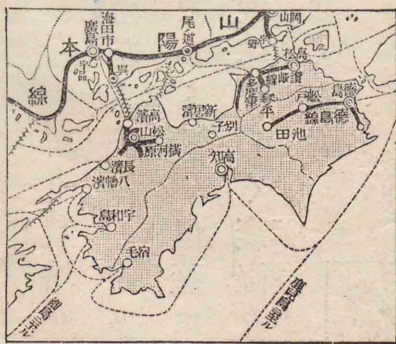
の大中中心なく、又他地方と異なりて、一も開港場なし。

交通 河川は水運の利少

なく、鐵道の發達幼稚にして、

徳島線・讚岐線・伊豫線あれども、何れも

短くして連絡を缺くが故に、陸上交通



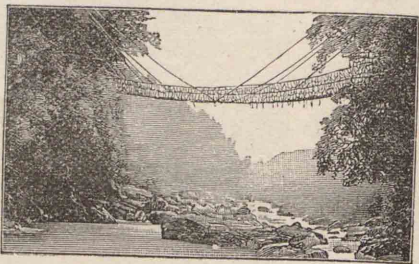
四國地方交通圖

人口一萬以上の都邑僅に十四、其の中市は五

香川縣は人口密度最も大なり、四國地方には人口十萬に達する都會なし

祖谷には葛橋處に懸れり

祖谷葛橋



處誌

(徳島縣)

吉野川下流の徳島市は蜂須賀氏の舊城下、四國第一の都會にして、密度は凡そ二分の一に當り、北部は南部より人煙稠密なり。

の便十分ならず。沿岸航路は南北兩岸共に、定期船の航行あり、特に瀬戸内海方面は海上の往來頗る容易なり。

住民 人口は關東地方の約三分の一にして、密度は凡そ二分の一に當り、北部は南部より人煙稠密なり。

は蜂須賀氏の舊城下、四國第一の都會にして、緞織を産し、藍の集散行はれ、南方の小松島は有望の港市なり。中流の脇町は藍の市場にして、池田は煙草の集散地なり。南方の山間に祖谷の別天地あり。

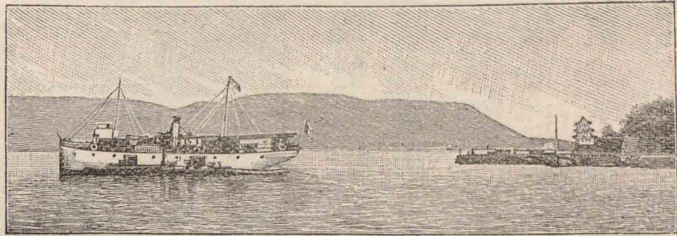


鳴門海峡

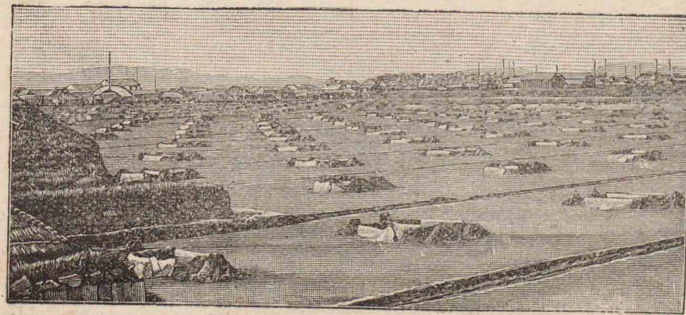
高松の南に栗林公園あり

坂出の東北なる白峰に崇徳天皇の陵あり

高松より島を望む



鳴門海峡に近き撫養は齋田鹽の産地なり。
 (香川縣) 北岸に高松坂出丸龜多度津等あり。高松市は瀬戸内海屈指の要津にして、東方には眺望と史上とに名高き屋島を望む。坂出は製鹽業の中心にて、又麥稈眞田を出だし、丸龜市は縣下屈指の商業地にして、團扇及び花筵等を産し、多度津は内海多度津の東南なる善通寺は第十一師團司令部を置かれ、琴平は



坂出鹽田

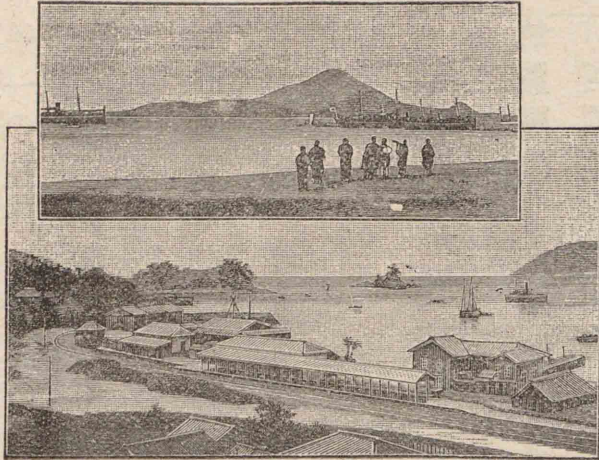
金刀比羅宮を以て著はれ、賽客常に絶えず。本縣の最大島たる小豆島には、醬油の醸造行はれ、寒霞溪の奇勝あり。

(愛媛縣) 東部の別子は帝國

屈指の鑛業地にて、新居濱は之が門戸と成り、沖合の四坂島に銅の製鍊所あり。高繩半島東岸の今治には近年綿ネルの製造興り、附近に食鹽を産す。半島の西岸に高濱三津濱あり、松山市は高濱を門戸とし、伊豫絋を以て著はれ、名高き道後温泉に近し。西南部の大洲は和紙

松山の南方なる砥部は砥部燒の産地なり

高濱と興居富士

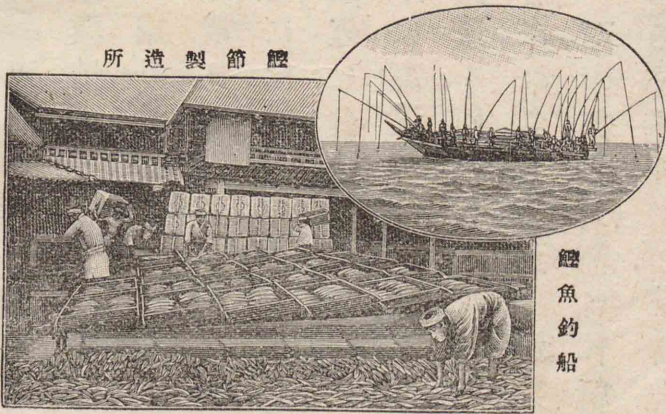


蠟を集散し、宇和島は豊後水道に臨める小港なり。

(高知縣) 須崎は土佐灣に沿ひ、縣下第一の良港なり、其の西南の沿海地は鯉節の製造盛なり。仁淀川流域の伊野は和紙製造の中心たり。
 *高知市は風光絶佳の吸江灣に沿ひ、山内氏の舊城下にして、浦戸を外港とす。

第七章 九州地方

位置區劃 九州地方は中國地方及び四國地方の西南にありて、九州島を主部とし、壹岐對馬種子島屋久島琉球列島等を含み、面積關東地方の一倍半に近し。行政上、八縣に分たれ、何れも



海に沿ひ、殊に沖繩縣の地は全部島嶼なり。

九州地方は西海道十二國なり
 豊前 豊後 筑前 筑後 肥前 肥後 日向 大隅 薩摩 壹岐 對馬 琉球

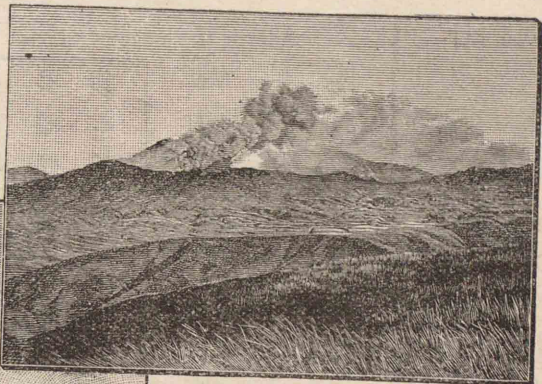
筑紫山脈は中國山脈に、九州山脈は四國山脈に續く

火山脈分布圖は附圖第三圖にあり

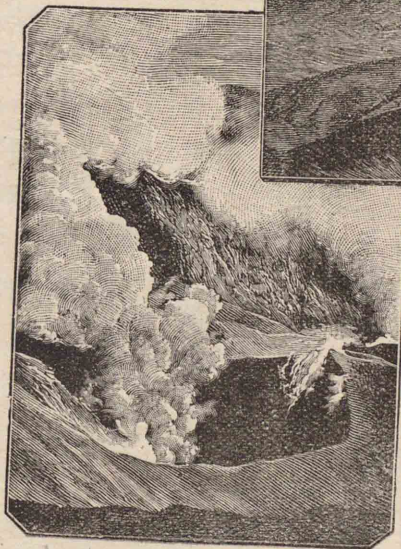
縣	管	轄	縣所在地	縣	管	轄	縣所在地
福岡縣	筑前 筑後 豊前一部	福岡市	大分縣	豊前一部 豊後	大分市		
佐賀縣	肥前一部	佐賀市	宮崎縣	日向	宮崎町		
長崎縣	肥前一部 壹岐 對馬	長崎市	鹿兒島縣	大隅 薩摩	鹿兒島市		
熊本縣	肥後	熊本市	沖繩縣	琉球	那覇區		

地勢 (山野) 九州島の西北部には低き筑紫山脈あり、中部には稍、高き九州山脈ありて、祖母山市房山等其の中に聳え、兩山脈は略、西南より東北に走る。二山脈の間には阿蘇火山脈通じて、温泉岳阿蘇山九重山鶴見岳等を噴起し、阿蘇山の舊噴火口は、大さ世界第一と稱せられ、鶴見岳の麓なる別府温泉は最も世に著はる。又九州山脈の南には霧島火

櫻島は鹿兒島灣内の一島なりしが大正三年大活動をなして半島と成れり



阿蘇山の遠景とその噴火口



山脈あり、霧島山より櫻島開聞岳を経て、南方の諸島に達せり。かくて平野は主として西北部に開け、其の重要なものは筑紫平野、肥後平野等なり。
(河川) 長流は概ね東或は西に流れ、東に向ふものに、五箇瀬川、大淀川等あり、西に赴くものに、川内川、球磨川、白川、筑後川等ありて、白川は肥後平野を過ぎ、筑後川は九州地方の最長流にして、筑紫平野を潤す。

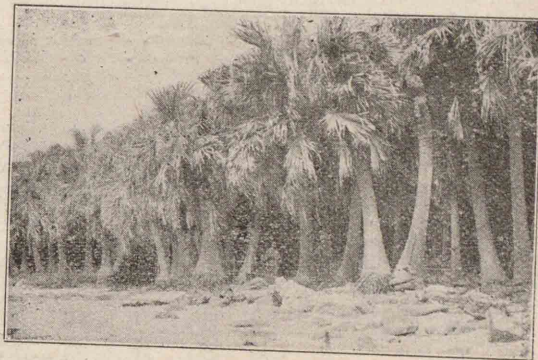
有明海は遠浅にして潮汐干満の差は日本列島中最も大なり
唐津灣・博多灣の沖を玄海灘といふ
八代海に不知火の奇觀あり

東方の海に日向灘と稱する所あり

北流する諸川は概ね短く、遠賀川、山國川等其の名を知らる。
(海岸) 海岸の屈曲に富めるは九州島の特色なり。西北部に、肥前半島ありて、更に島原、西彼、杵東及北松浦の四半島を分ち、有明海、千岩灣、大村灣、伊萬里灣、唐津灣と交錯し、唐津灣の東には、博多灣、海中道出入せり。此の方面の海上には、朝鮮に渡る飛石の如き壹岐對馬の外、平戸島、五島、天草島等大小の島嶼頗る多く、天草島は八代海と天草灘とを分つ。南部には薩摩、大隅の二半島出でて、鹿兒島灣を抱き、其の南方に、種子島、屋久島、大島等より成れる薩南諸島羅列し、琉球列島之に連なりて、九州、臺灣二大島の連鎖をなせり。東岸は一般に屈曲に乏しけれども、其の南部には有明灣あり、北部豊後水道に面する處は鋸齒の如く、東北部の瀬戸内海方面には、別府灣、國東半島の出入せるあり。

弘安の役には暴風の爲め敵艦概ね沈没せり

(島青縣崎宮) 葵 蒲



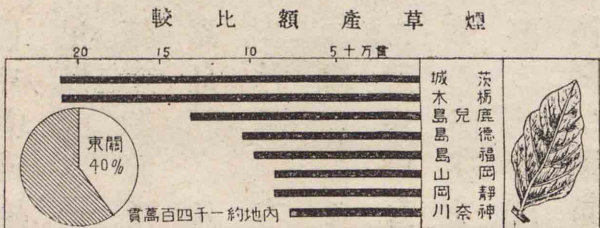
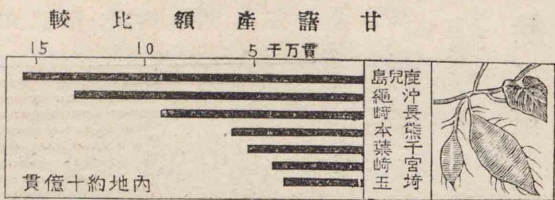
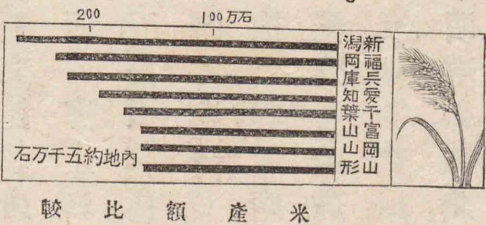
くし周圍に高さ石垣を設く。

生業 當地方は産業頗る發達せり。

(農業) 農業は一般によく行はれて、米産に富

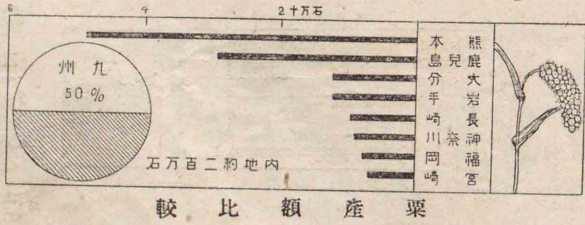
み、筑紫平野を有する福岡・佐賀の二縣、肥後平野を有する熊

氣候 氣温は北より南に進むに隨ひて昇り、四國地方に比して一層高く、琉球列島の如きは霜雪を知らず、榕樹、蒲葵、阿旦、芭蕉等の熱帶植物年中繁茂す。雨量亦南部に多く、殊に大島は本邦屈指の多雨地なり。暴風は屢起るを以て、琉球列島にては、家屋を低



の栽植も廣く諸縣に行はる。牧畜は馬・牛・豚等を多く飼養す。馬は奥羽地

分縣の七島蘭等も産額著しく、檀の粟、鹿兒島縣の煙草、大も亦此の二縣に盛なり。其の他、熊本、鹿兒島、兩縣の粟、鹿兒島縣の煙草、大沖繩の二縣は收穫特に豊富なり。甘蔗の栽培る處多く、中にも鹿兒島割を占め、之を常食とす額の産出ありて、内地總産額の約五分を占め、之を常食とする處多く、中にも鹿兒島沖繩の二縣は收穫特に豊富なり。甘蔗の栽培る處多く、中にも鹿兒島割を占め、之を常食とす額の産出ありて、内地總産額の約五分を占め、之を常食とする處多く、中にも鹿兒島



方と共に、本邦の重要産地をなして、内地頭数の約三割を占

め、鹿兒島・熊本・宮崎の三縣最も著はる。牛も亦内地頭数の約三割に達

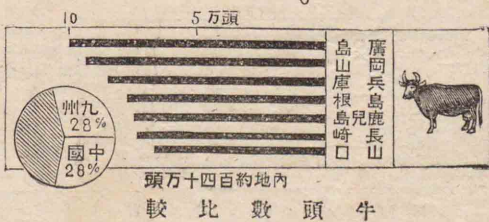
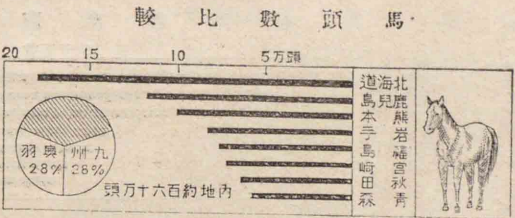
して、中國地方と伯仲の間にあり、鹿兒島・熊本・長崎・大分の諸縣特に多し。

豚の飼養は沖繩縣最も盛にして、鹿兒島縣之に次げり。

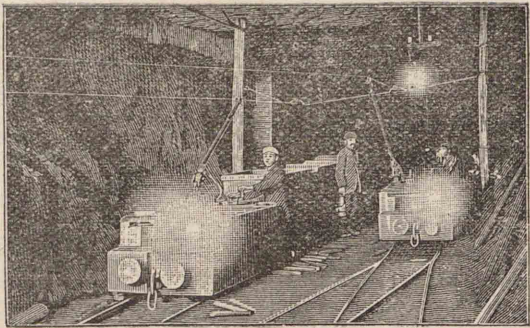
(林業) 本業の盛なるは宮崎・大分二縣にして、松・杉・檜・樟等の木材並に薪炭・椎茸等を産す。

(鑛業) 斯業の隆盛なるは九州地方産業の一大特色なり。

鑛産物中、最要の地位は石炭之を占めて、内地總産額の七割餘に當り、福岡縣は遠賀川流域の筑豊炭田及び南部なる三

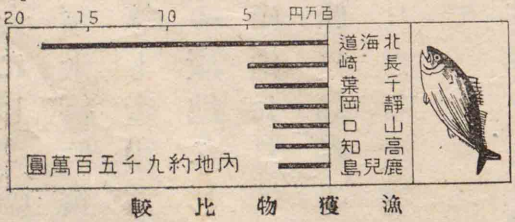


三池炭坑石炭搬出の景



池炭田より、九州炭の大部を出だし、帝國無比の産炭地にして、佐賀縣・長崎縣順次之に次ぎ、熊本縣にも少許の産あり。金も亦本邦主産地の一にして、内地産額の二割餘に達し、鹿兒島縣首位にあり。銅は宮崎縣に多く、鹿兒島縣の錫は産額多からざるも有名なり。

(水産業) 漁獲物には鰹・鱒・鰯・烏賊・珊瑚等あり、製造物には鰹節・鰯等ありて、鹿兒島・長崎の兩縣は我が國の重要水産地に數へらる。
(工業) 工業は石炭の豊富なる地方に發達し、

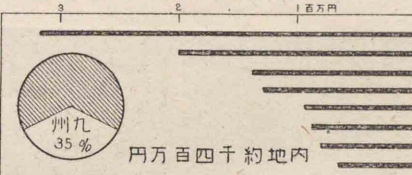


福岡縣の製鐵及び長崎縣の造船は、規模甚だ宏大にして、福



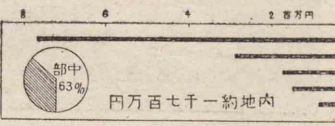
福東山大佐愛共熊
岡京口販賣知庫本

較比額産トシメセ



愛岐奈任石
知事都賀川

較比額産器磁陶



岡縣の清酒麥粉紙綿絲久留米緋佐賀縣の陶磁器大分縣の疊表等も産額多く、セメントは本邦中屈指の産地にして、福岡佐賀の二縣其の主産地たり。鹿兒島沖繩二縣の黒砂糖鹿兒島縣の薩摩燒薩摩緋も世に知られたる産物なり。

(商業) 商業は門司長崎等主として、産業の發達せる西北部に活氣を呈し、

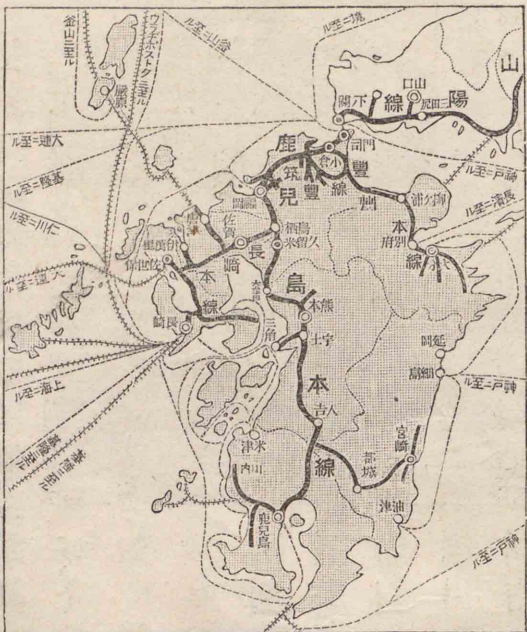
開港場は門司長崎若松三池等合はせて、總數十

三の多きに及び、石炭を以て重要輸出品とす、

交通 鐵道鹿兒島線は門司より鹿兒島に達して、九州島

を縦貫し、豊州線長崎線等之より分かれ、其の他短線多く、筑豊炭田地方は鐵道甚だ密なり。河川は舟運の便一般に大

九州地方交通圖

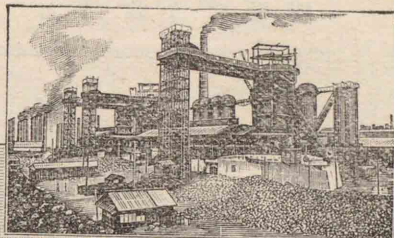


ならず。海上の交通は西北部に盛にして、門司長崎の兩港は船舶の出入繁し。海底電線は西比利亞朝鮮支那臺灣等に通ず。

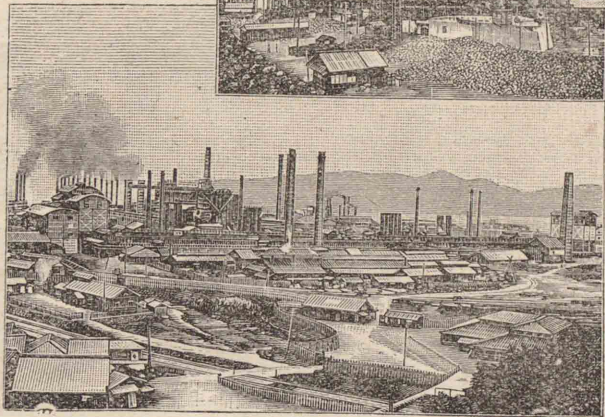
東近畿の兩地方に次げる密度を有す。而して生業交通の發達せる西北部の三縣、就中福岡縣は人口甚だ稠密にして、

人口一萬以上の市町四十其の内市十三區二あり
人口一萬以上の村鹿兒島縣に四十七沖繩縣に十九あり

繁華なる都會に富み、東南部なる宮崎縣の如きは、皇基發祥の地なれども、住民頗る稀薄にして、今は人文の發達後れたり。又沖繩縣は住民の風俗言語從來他府縣と稍異なりしが、今日に於ては殆ど差異なきに至れり。



八幡製鐵所
上圖熔鐵爐
下圖工場遠望

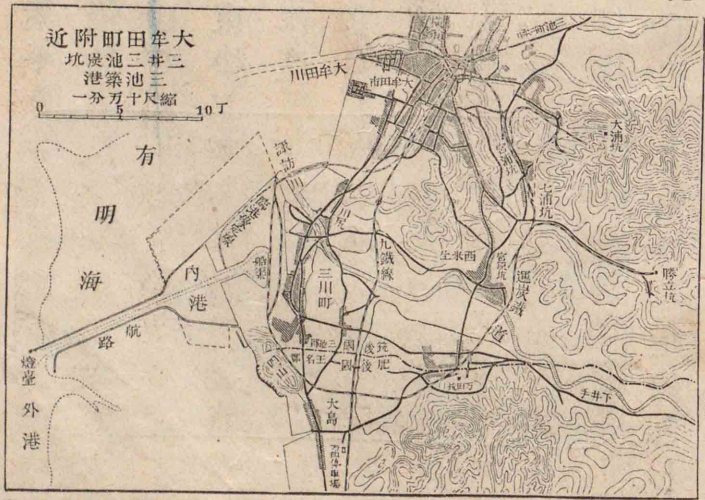


處誌 (福岡縣) 門司市は下關海峽に臨み、鹿兒島線の基點、九州の咽喉に當り、内外船舶の出入繁く、盛に石炭を輸出し、市街の發達速なり。西南の小倉市は交通の要地にして、第十二師團司令部あり。洞海に臨める八幡市は

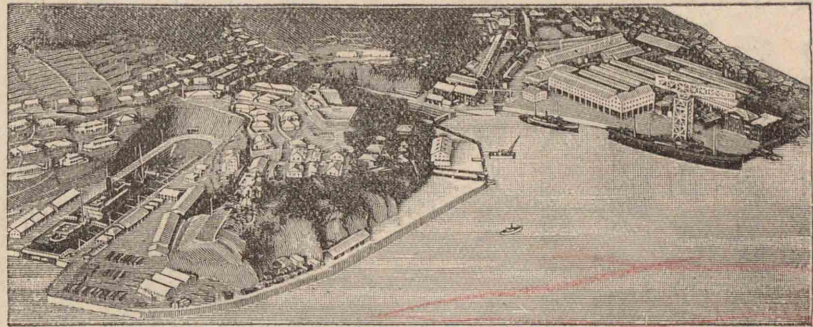
福岡の東北に宮崎宮・香椎宮あり
東南なる太宰府神社と共に名高し
縣の西北部の海岸に芥屋大門の奇景あり
福岡の附近に元寇の古蹟多し

大牟田には近年染料・工業藥品の製造行はる

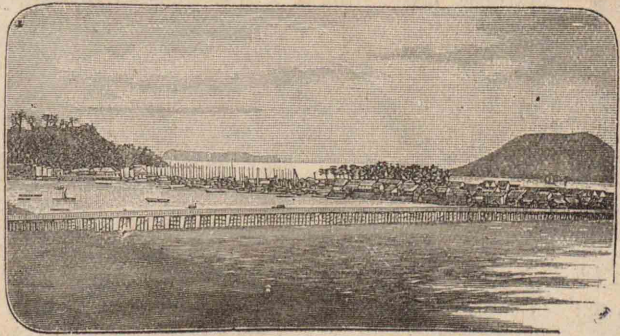
官設の製鐵所を置かれしより、俄に發達せし處若松市は開港場にして、亦多く石炭を輸出す。博多灣に沿へる福岡市はもと黒田氏の城下たりし處にて、福岡博多の二部より成り、博多織を産し、開港場の一たり。市に近く九州帝國大學あり。筑後川に沿へる久留米市は有馬氏の舊城下、久留米緋の本場にして、近郊に第十八師團司令部あり。有明海に沿へる大牟田市は帝國第一の三池炭山を控へ、近年其の南部に三池港築成せられしより、驚くべき進歩をなし、石炭の輸出夥し。



三 菱 造



(佐賀縣) 筑紫平野の佐賀市は鍋島氏の舊城下にして、鑄物を産す。東松浦半島の唐津は産炭地の咽喉に當り、多く石炭を輸出し、其の東方に虹松原の勝地あり。武雄は有名なる温泉場にして、山間の有田は有田燒の産地として著はる。

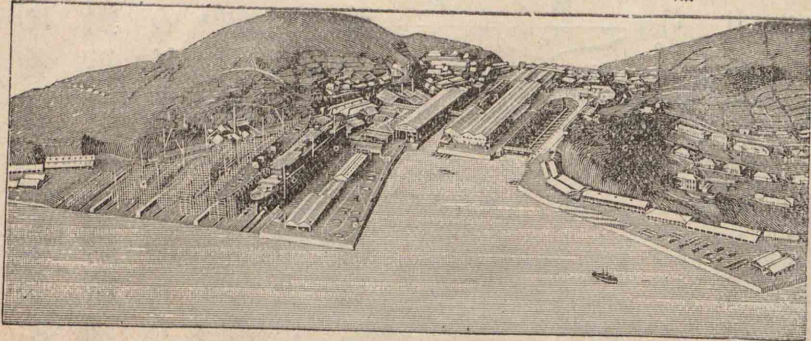


唐津港の景

(長崎縣) 北松浦半島の佐世保市は鎮

高島の西北海上なる松島・崎戸島も亦石炭を産す

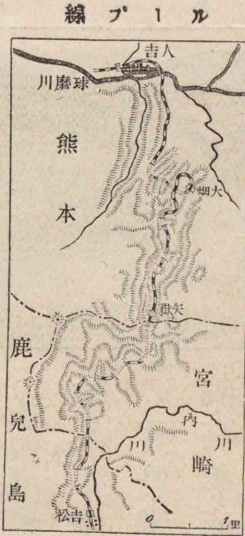
船 所 (機 型)



守府軍港の設置以來、急速の發達をなし、西海の要鎮たり、此地又要塞司令部を有す。西彼杵半島の長崎市は三百年來の開港場にして、鎖國時代には西洋文明輸入の唯一の門戸をなし、今尙本邦屈指の貿易港たるを失はず、市の内外に、控訴院高等商業學校、醫學專門學校、要塞司令部あり、又東洋第一と稱せらるる三菱造船所ありて、盛に船艦機械類を製造す。西南海上の高島は石炭の産地として、其の名著はる。島原半島の口津は開港場なるが、三池港の開けしより、漸次衰運に向へり。五島は漁業盛にして、錫珊瑚等

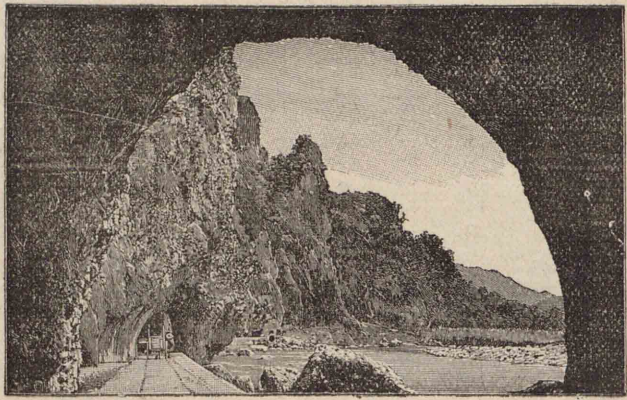
に名高く、福江の漁港あり。對馬は上下の二島より成りて、對馬海峽と朝鮮海峽とを分ち、古來朝鮮との關係深く、上島の竹敷は要港をなし、嚴原は警備隊の衛戍地にして、下島の鹿見佐須奈と共に開港場たり。

(熊本縣) 宇土半島の西端なる三角は開港場なり。西南海上の天草島には無煙炭の産あり。球磨川の口に沿へる



八代は木材を集散し、セメントを産す。中流の人吉は南部山間の名邑にして、其の南なる山間に、鐵道ループ線の奇工事あり。白川に跨れる熊本市は細川氏の城下たりし處にして、其の舊城は加藤清正の築く所と、明治十年の役とを以て著はる。市の内外に第六師團司令部、第五高等學校、高等工業學

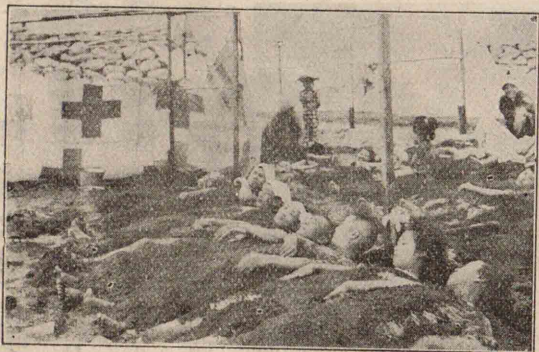
耶馬溪隨田之洞門



あり、宇佐神宮鎮座の地なり。別府灣に沿へる日出は疊表製造の中心、別府は著名の溫泉地にして、又大分市と共に

校等あり。菊池川沿岸の山鹿は溫泉地として知らる。

(大分縣) 山國川の上流、英彦山の東麓なる耶馬溪は奇景を以て著はれ、河口に近き中津は縣下屈指の商工業地なり。中津の東に宇佐



別府海岸砂湯

霧島山の噴火

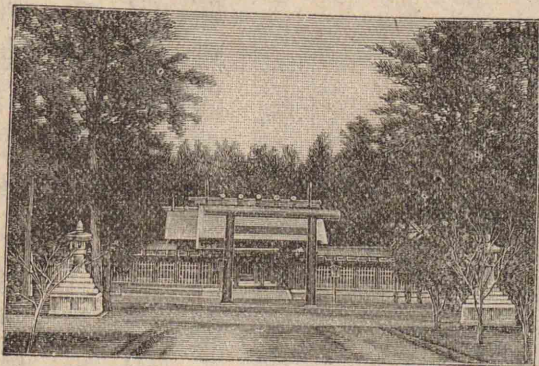


に港市たり。豊後水道に面する白杵は漁業の中心なり。(宮崎縣) 五箇瀬川流域の日平嶺より銅を産し、河口の南なる細島

神宮

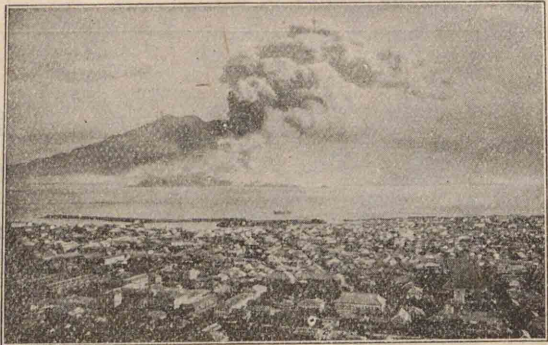
は縣下第一の良港と稱せらる。大淀川の下流に宮崎あり、其の北方の大宮に宮崎神宮あり、上流の都城は縣内の最大都會にして、宮崎鹿兒島間の要路に當り、其の西北の霧島山は有名なる活火山なり。

(鹿兒島縣) 鹿兒島灣の北岸なる國



宮崎神宮

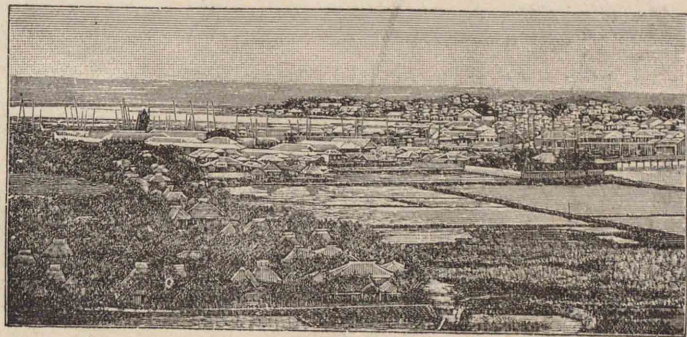
鹿兒島市街と櫻島の噴火



分は、煙草を以て名高く、縣の北部の山間なる山野大口は、西部の芹野串木野と共に、名高き金山なり。灣の西岸なる鹿兒島市は、櫻島に對して眺望よく、もと島津氏の城下たりし處にして、明治十年西郷隆盛戦死の地なり、第七高等學校、高等農林學校等を置かれ、薩摩燒、薩摩緋、錫器等を産す。市の西方なる下伊集院よりも、薩摩燒を出だす。西南海岸の加世田附近は砂丘の多きに依りて知らる。薩南諸島中の種子島は鐵砲の傳來に依りて著はれ、屋久島は地勢高峻にして、屋久杉繁茂し、大島には黒砂糖、大島紬を産し、名瀬港あり。

沖繩島の東方なる沖大東島即ちラサ島は鐵嶺に富む、近時無線電信局を置かれたり

那 覇 港



(沖繩縣) 沖繩島の那覇區は那覇灣に臨める開港場にして、鹿兒島より三百七十哩を隔つ、琉球絳芭蕉布夏帽子等の産あり。東方の首里區は嘗て尙氏の居城たりし處にして、泡盛及び織物を名産とす。本島の中城灣及び運天は、共に縣下の良泊地なり。



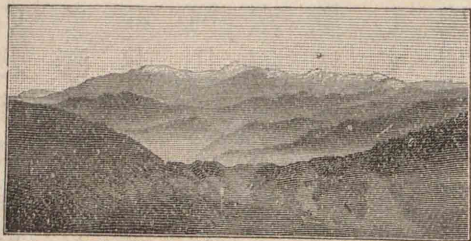
沖繩風俗

第八章 臺灣地方

臺灣海峡を通ずる東經百二十度の地方時を西部標準時とす

新高山は高さ一萬三千七十五尺あり

新 高 山



位置 臺灣地方は帝國の西南端にありて、臺灣島澎湖群島等より成り、東は太平洋、北は東支那海に沿ひ、西は臺灣海峡を隔てて支那と、南はバシ海峡を挟んで、米領フィリピン群島と對し、面積關東地方より稍廣し。此の地方は明治二十七八年戰役の結果、支那より我が國に割讓せられたり。

地勢 (山野) 臺灣島は南北に狹長にして、其の中央より東に偏して、臺灣山脈南北に走り、我が國第一の高峰新高山を始め、シルピヤ山等一萬尺以上の峻峰十餘を有し、山勢の雄大なること飛驒山脈を凌ぐ。臺灣山脈の東側は、海岸に近く臺東山脈あるが故に、平野殆ど無けれども、西側は土地次第に低下して、廣大なる臺灣平野開く。又

臺灣は著大なる湖沼を缺く

島の北端には、霧島火山脈通じて、大屯火山を起し、其の脈延いて澎湖群島に及ぶ、此の群島は海拔小にして、二百尺に達する處なし。

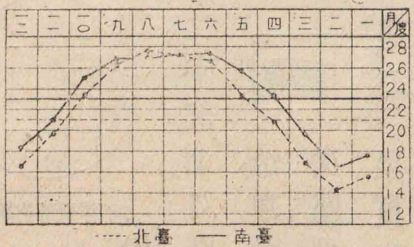
(河川) 河川は概ね臺灣山脈より發して、臺灣海峡に注ぎ、淡水河濁水溪下淡水溪等あれども、淡水河の外、一般に平時水量に乏しく、雨季に際して、一時に暴漲し、濁水溪は最長流にして、氾濫區域廣し。

(海岸) 臺灣島の海岸は我が諸大島中、出入最も少なくして、良港稀に、東岸は山岳深海に逼りて、絶壁多く、高さ數千尺に及ぶ處あるも、西岸は平直の砂濱にして、遠淺をなし、沙洲砂丘及び潟に富めり。島嶼は良灣を抱ける澎湖島を除けば、其の數僅少なり。

氣候 臺灣島の南部は熱帯に位せるを以て、各地共に暑

澎湖群島は年中雨少なく、風力大なるを以て、樹木發育せず

各月溫度比較



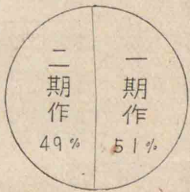
季長くして、嚴寒を知らず、高山の頂には降雪あれども、平地にありては、北部と雖も、霜を見ること稀なり。降雨は風向に伴ひて、南北其の狀況を異にし、南部は夏季に多く、北部は冬季に特に豪雨ありて、本邦最多雨の地なり。夏秋の交には、毎年颱風の襲來ありて、損害多し。

臺灣はかく高温多濕なるを以て、熱帯性及び温帯性の植物よく生育して、密林少なからず。平地には紅樹林、投樹、竹、榕樹、檳榔樹、山地には杪欏、籐、樟、杉、檜等あり。甘蔗、稻茶の如き栽培植物の發育も旺盛にして、米は一年に二回の收穫あり。

生業 臺灣の生業交通は、我が領有以來、著しく發達せり。

(農業) 農業は生業中最も重要なものにして、農産の首位を占むる米は、甘藷と共に、廣く各

較比別節季獲收米



石萬百五約額産年

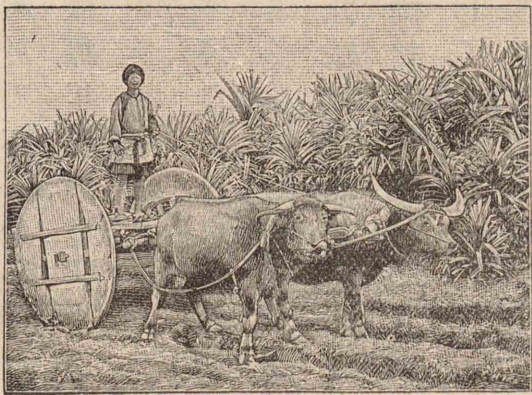
地より産し、茶樹は殆ど北部に限られ、甘蔗は臺灣の産物中、最も増加せるものにして、

主に南部より産す。其の他、落花生

煙草・黄麻等も栽培せられ、

又鳳梨・香蕉・龍眼・柑橘等の

果實に富めり。



車牛水と投林

較比數頭豚

200	100万頭		
内地	鮮朝	灣	臺
13%	32%	55%	
頭萬十四百二約國全			

家畜の飼養は近年益々盛大に赴き、中にも豚は最も多く、水牛・黄牛は特産にして、各種の勞役に供せられ、山羊も亦少なからず。鶏は各戸之を有せざるはなし。

煙草・樟腦・食鹽
阿片は總督府の
專賣なり

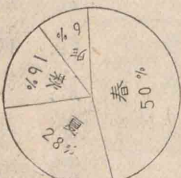
(林業) 阿里山・巒大山等に廣大なる森林あれども、伐木の業は行はれざりしが、近時阿里山に於て、大規模を以て營まれ、檜の良材を市場に出だすに至れり。又臺灣には竹材の供給多し。

(鑛業) 鑛業は主に北部に行はれて、金銅・石炭等を産し、中にも、産額の大なるは金にして、臺灣は九州・朝鮮と並び、本邦重要金産地の一たり。

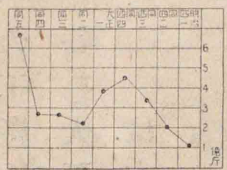
(水産業) 他の諸業に比すれば、未だ盛ならざれども、養殖は割合に發達し、西岸には天日製鹽法によりて、多量の食鹽を産するに至れり。

(工業) 茶・砂糖・樟腦等は工業品の重要なものにして、茶は北部を主産地とし、烏龍茶最も名高く、

別節季茶製



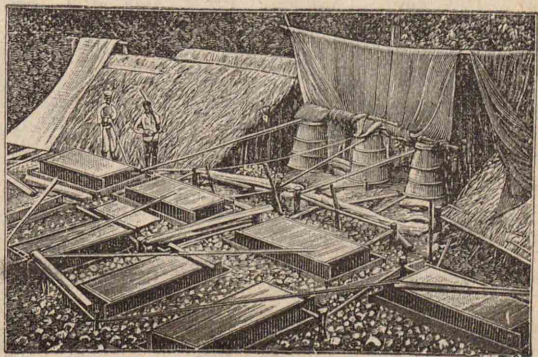
斤万百三千二約産臺
較比額産糖砂



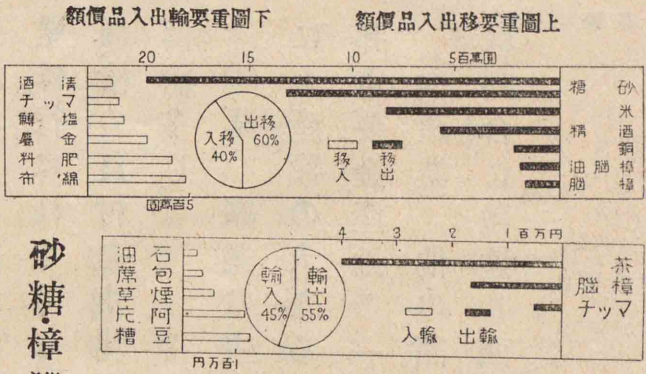
砂糖は臺灣第一の工産物にして、南部には之が製造を營む大工場多く、樟腦

は山地にて製せられ、樟腦油と共に、産額世界第一たり。其の他、酒、精煉瓦、林投帽等の産あれども著しからず。

(商業) 内地との取引は、外國貿易よりも、近年一層盛大に赴き、内地へは米、砂糖、樟腦、油、銅等を移出し、外國へは樟腦、烏龍茶、包種茶等を輸出す。主要なる商港は基隆、淡水、



樟腦の製造

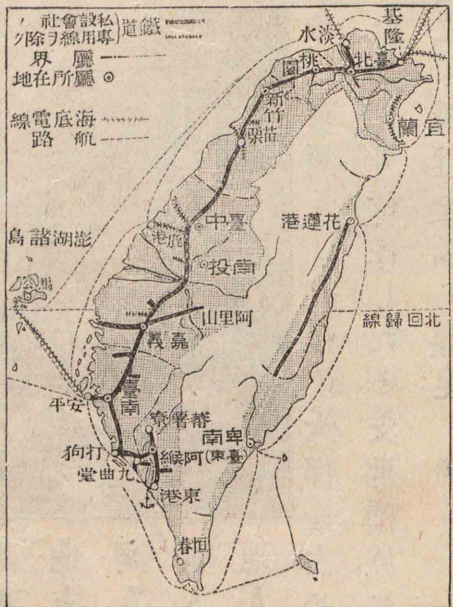


特別開港場
舊港 後壠 梧棲
鹿港 東石 東港
媽宮

臺灣線の長さ二
百四十七哩

北端の富基角に
無線電信局あり

臺灣の區劃と交通



安平、打狗の四開港場にて、就中基隆の商況最も活潑なり。別に支那形船の爲に開ける特別の開港場七港あり。

交通 道路は臺灣山脈を横ざるものなく、一般に極めて

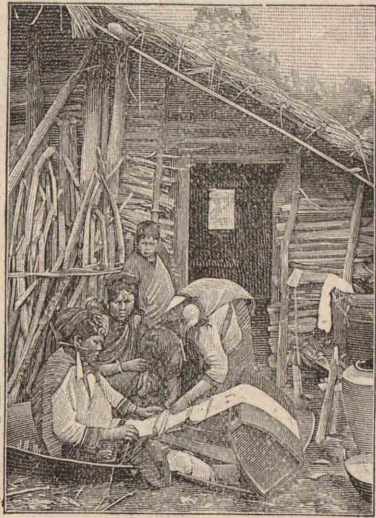
とする東部の臺東線も次第に延長せらる。汽船は内地並に支那との間に定期の往復をなし、沿岸諸港の間には戎克

竹筏利用せらる。海底電線も亦内地支那に通せり。

住民 人口は約三百五十

萬あり、密度は小にして奥羽地方と相似たり。種族は臺

織機の人蕃



灣人生蕃人内地人等

あり。臺灣人は人口の大部を占め、概ね支那より移住したる支那種族にして、近年辮髪を斷ち、纏足を解き、又阿片を喫するを廢する風起れり。生蕃人は馬來人種に屬し、

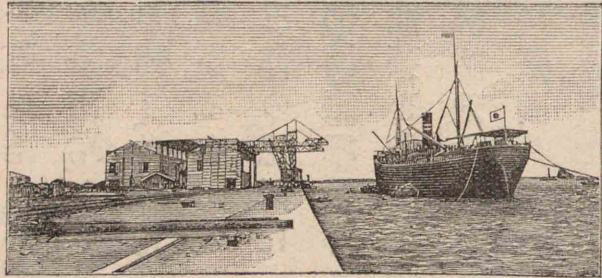


筏竹と克戎

生蕃人と同種族にして文化稍進み土著して農業を營むものあり之を熟蕃といふ

生蕃人は九種族に分れ北部に住するタイヤル最も兇暴にして駭面首狩等の風を有す
總督府は理蕃策として威壓と撫育との二法を取り威壓を隘勇線前進と蕃社討伐の二種とせり

岸船駁隆基



早くより臺灣に住み、支那種族の爲に、東部に驅逐せられたるものにて、人口約十三萬、一般に未開兇暴の蕃族なるが、近年其の大部分歸順するに至れり。

内地人は未だ十三萬餘に過ぎざれども、移住者年々多からんとす。

政治 臺灣には總督府を設け、總督を

して、軍務及び諸般の政務を統べしめ、守備隊、要塞、要港を置き、地方は十二廳に區分せり。

處誌 臺灣島の東北なる基隆は本島



蕃生

十二廳
臺北 宜蘭 桃園
新竹 臺中 南投
嘉義 臺南 阿緜
臺東 花蓮 港 澎湖

臺北の北方劍潭山に臺灣神社其の西北に北投温泉あり

北緯二十三度半の線は嘉義の南二里の處を過ぐ

臺南に故北白川宮殿の御遺跡あり

第一の良港にして内地よりの門戸、縦貫鐵道の基點に當り、近年築港殆ど成り、内外諸港との取引頗る多く、米樟腦等を積み出す、此の地に要塞司令部あり。東方の瑞芳、金瓜石は重要な金山なり。淡水河に臨める臺北は城内大稻埕、滬脚三部の總稱にして、總督府を始め、覆審法院、第一守備隊司令部、國語學校等あり、水道排水電燈等の設備よく整ひ、盛に烏龍茶を製す。下流の淡水は茶を輸出す。

桃園地方は茶の栽培盛にして、新竹は柑橘類を産す。臺中は臺灣最大の公園を有し、彰化に商業榮え、鹿港は特別開港場の一にして、富豪多し。嘉義は阿里山線の分岐點にして、阿里山製材所を置かる。

臺南は嘗て臺灣の首府たりし所にして、繁華臺北に次ぎ、第二守備隊司令部を置かれ、外港たる安平は臺灣最古の開

恆春は帝國最南の都會なり
卑南・花蓮港は東岸の小港市なり

マキニツ
クマ
イカリ

北海道十一國
渡島 後志 石狩
天鹽 北見 釧路
日高 十勝
根室 千島

港場に於て、米の移出港なり。打狗は鐵道縦貫線と鳳山線との連絡點に當り、南部最要の開港場にして、砂糖及び米の移出盛に行はれ、築港事業頗る進捗せり。東港は鐵道阿緞線の終點にして、砂糖を移出す。宜蘭は東部臺灣第一の都會なり。

媽宮(馬公)は澎湖群島中の最大島なる澎湖島にあり、位置地形の良好なるに因りて、要港と成り、要塞司令部を置かれ、又特別開港場たり。

第九章 北海道地方

位置 北海道地方は本州の北なる北海道本島、其の東北なる千島列島等より成りて、面積關東地方の三倍に近く、北海道本島は北の方宗谷海峽を以て、樺太と隔たり、東北はオ

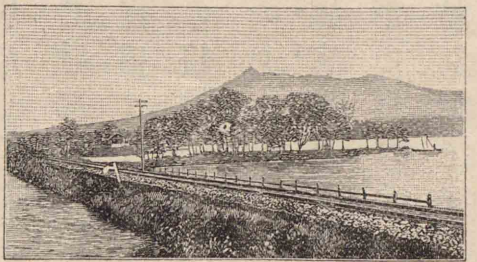
ホーツク海に沿ひ、南は太平洋津軽海峡に臨み、西は日本海に洗はれ、千島列島はオホーツク海と太平洋とを分ちて、露領カムチャツカ半島に接近せり。

地勢

(山野)

北海道本島の中部には、日高北見兩山脈南に走り、千島火山脈千島列島より來りて之と交り、脈中に雄阿寒岳、雌阿寒岳、旭岳、石狩岳、十勝岳等を起せり。日高北見二山脈の西方には、夕張山脈、天鹽山脈の並走するあり。西部には那須火山脈通じて、恵山駒岳、有珠岳、マツカリ岳等の火山聳ゆ。平野は西部に石狩、天鹽等、東部に十勝、釧路、根室等あり、就中石狩平野は廣大にして、地味肥沃なること當地方第一と稱せらる。

大沼公園より駒ヶ岳を望む



旭岳は一にヌタクカムウシユベ岳と呼び本道第一の高山なり。大沼公園は風景の秀麗なるによりて著はる。マツカリ岳は蝦夷富士ともいふ。

石狩川の上川盆地を出づる處に神居古潭の勝あり。石狩川は長さ九十三里。

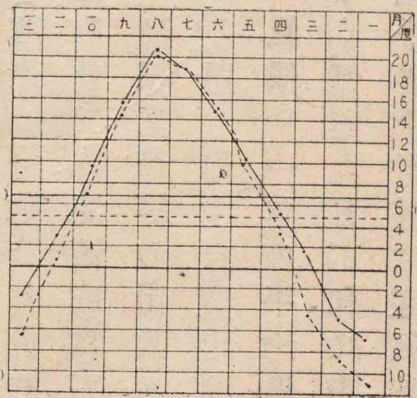
上川盆地の旭川にては氷點下四十一度に降りしことあり。

(河湖) 河川の長さものは概ね中部の諸山脈より發し、主流は上川盆地及び石狩平野を連ぬる石狩川、天鹽平野を過ぐる天鹽川、オホーツク海に入る常呂川、釧路平野を潤す釧路川、十勝平野の十勝川等にして、石狩川最も長し。湖沼は東部の猿澗湖、釧路湖、西部の支笏湖、洞爺湖等ありて、猿澗湖最も大なり。

(海岸) 一般に屈曲に乏しきが、西部には渡島、積丹の二半島ありて、内浦灣或は石狩灣を限り、東部には花咲、知床の二半島、根室灣等の出入あり。北部には宗谷岬、南部には襟裳岬の遠く海中に突出せるあり。

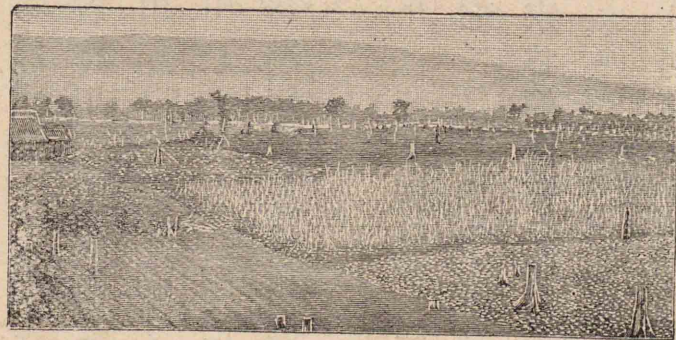
氣候 一年の平均温度は奥羽地方より低く、雨量も亦少なく、例年九月下旬に霜を見、十一月末より雪を積み、上川盆地、十勝平野等は寒氣甚だしく、殊に上川盆地は内地の寒極

各月氣溫比較



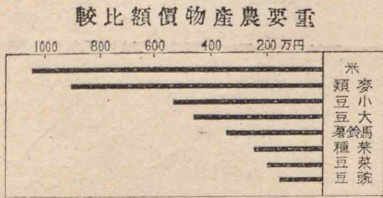
なり。されど四月に至れば、氣溫急に昇りて、夏季は本州北部と大差なきを以て、樹木は蒼鬱として茂り、上川盆地には、稻の栽培は、

培行はる。東部の近海には、夏季濃霧起り、冬季流水漂ひ、大いに航海を妨ぐ。
生業 明治維新以來、各種の生業は交通と共に、其の面目を改めたり。
(農業) 農業は北海道第一の生業にして、石狩平野最もよく開墾せられ、規

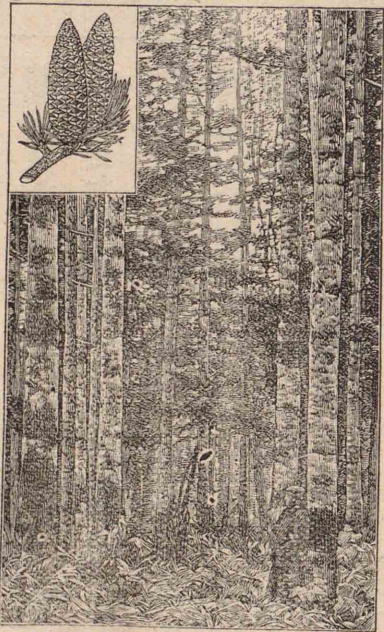


倶知安野原 (勝振國カマリ岳の麓開墾年後)

模宏大にして、家畜機械の使用盛なり。重要農産物は穀類に米・麥・大豆・豌豆・菜種・玉蜀黍等、蔬菜に馬鈴薯・甘藍・玉葱等、果實に苹果・櫻桃等あり、



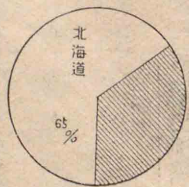
其の他に薄荷・亞麻等あり。畜産は馬・牛を主とし、特に馬の飼養盛なり。



松 杉 林

要なる樹木に蝦夷松・椴松・榿・榿・刺楸等ありて、建築材・マッチ軸木・製紙原料等を與ふ。

(鑛業) 鑛産物は石炭・硫黄・黄金等あり、就中石

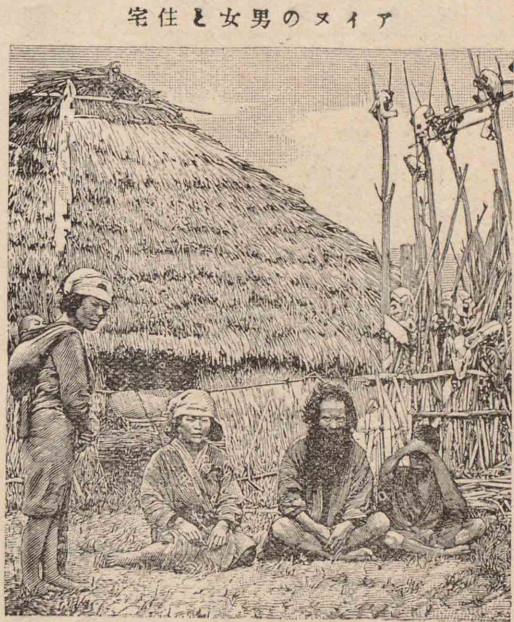


基礎産額比較

中心として、内外の諸港に通じ、函館・青森間には鐵道の連絡船あり。海底電線は本州及び樺太に達せり。

住民

人口は年を逐うて増加すれども、未だ二百萬に及ばず、密度甚だ小にて、人口十萬に達する都會を缺く。



住民の大多數は大和種族之を占め、舊土人即ちアイヌ人は近年著しき増減なく、一萬八千内外にして、日高を始め、主に太平洋沿岸地方に住す。アイヌ人は體格大、性質蒙昧魯鈍なる半開の民にして、男子は鬚髯多く、既婚の女子は口邊に黥する風あり、概ね漁獵農業に従ふ。

アイヌの男女と住宅

四區
函館 小樽 札幌
旭川

十四支廳
函館 檜山 後志
札幌 室蘭 浦河
空知 上川 河西
釧路 根室 網走
宗谷 留萌
函館 青森間 六十里

大島
留川
榎本
武場

政治 北海道地方は四區・十四支廳に分たれ、北海道廳長官之を統轄して、拓地植民に意を注ぐ。

處誌

函館區は渡島半島の南岸に位し、本州より北海道に入る門戸にして、控訴院・要塞司令部を設けられ、昆布・鰯・硫黄等を輸出す。郊外の五稜廓は明治戊辰役の戰場にして、其の外濠は今も製氷を以て名高し。日本海に臨める江差・壽都・岩内等は鯨の漁場なり。



五稜廓氷切り

石狩灣に瀕せる小樽區は位置の良好なるに依り、其の發達速にして、今や函館を凌ぎて北海道第一の商業地となり、木材・肥料・農産物等の集散活潑に行はれ、又交通の要地にして、高等商業

札幌の近郊豊平に種畜牧場あり

學校あり。石狩平野の札幌區は道廳農科大學等の所在地にして、麥酒の醸造製麻製粉等行はれ、街衢端正廣潤附近に苹果の産多し。東方の岩見澤は鐵道の交叉地に位し、夕張山脈地方の夕張幌内幾春別等は、石炭の産地として知らる。上川盆地の旭川區は交通上重要な位置を占め、其の發達著しく、第七師團司令部を置かれ、酒精を産す。留萌は日本海に沿ひ、稚内は宗谷海峽に臨み、各漁業行はる。

内浦灣頭の室蘭は開港場にして、石炭を積出し、日本製鋼所及び輪西製鐵所あり、苫小牧には洋紙製造盛なり。日高山脈の西面なる平取はアイヌ人の巢窟にして、新冠御料牧場には馬の飼養多し。十勝平野の帶廣地方は開拓頗る進み、釧路川の河口なる釧路は釧路十勝兩平野の門戸に當れる開港場なり。東方の厚岸は昆布牡蠣の産に名あり。花

花咲の西南なる落石岬に無線電信局あり

咲半島の根室は開港場にして、冬季港内凍結の時は、背後の花咲港に依る。

千島列島は國後擇捉等三十餘の火山島より成りて、面積略四國に等しく、得撫以北の諸島は明治八年我が國の手に歸せり。近海は水産物多けれども、住民極めて少なく、國後島の泊、擇捉島の紗那及び占守島は其の名稱著はる。

第十章 樺太地方

位置 樺太島は東北の二面オホーツク海に沿ひ、南は宗谷海峽に依りて、北海道本島と隔たり、西は日本海、間宮海峽等を挟みて、西比利亞に對し、土地東西に短く、南北に長く、北緯五十度以南の地は、明治三十七八年戰役の結果、本邦領となり、其の面積殆ど臺灣に等し。

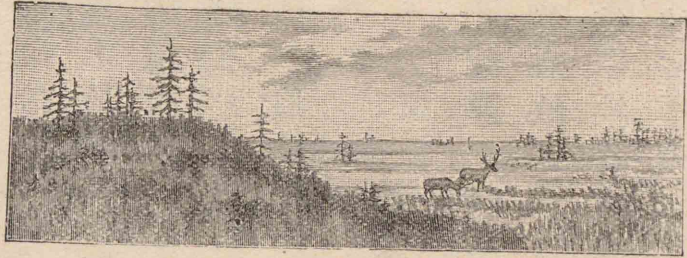
間宮海峽の名は其の發見者間宮倫宗に因り

地勢 (山野)

樺太の西部には樺太山脈縦貫し、東部には南北二條の小山脈ありて、南なるを鈴谷山脈、北なるを東北山脈といひ、山勢一般に低し。樺太山脈の東側には、南部北部の二平野あり、南部は農業上有望と稱せらるるも、北部は卑濕なるツンドラを成せり。

(河湖) 河川は北部平野の幌内川、南部平野の内淵川、鈴谷川を主なるものとす。湖沼は海岸に近く多來加湖、富内湖等あり。

(海岸) 南部に能登呂、中知床の兩半島突出して、亞庭灣を抱き、東北部に北知床半島ありて、多來加灣を限れる外、大なる出入なく、屬島亦極めて稀にして、海岸線發達の度、諸地方中、最も小



く、屬島亦極めて稀にして、海岸線發達の度、諸地方中、最も小

なり。多來加灣口の海豹島は小なれども、膾炙獸の保護地として名高し。

氣候 夏季は割合に高温なれども、其の期間極めて短く、冬季は長くして、寒威北海道より更に厳しく、一年を通ずれば、氣温は對馬海流に洗はるゝ西南部より、東北部に進むに隨ひて漸く減じ、樺太は我國の最寒地にして、近海概ね凍結し、海霧多し。雨量も亦本邦中、最も寡少なり。此の如くなれども、樹木の生育を妨げずして、蝦夷松、椴松、落葉松類の森林廣く、種々の毛皮獸此處に棲息せり。



集群の獸膾炙に島豹海

南部平野の落合にては最低氷點下四十五度に降り、北部平野の敷香にては最高三十三度に昇りしことあり

生業 農林鑛の諸業は漸く其の緒に就けるのみにして、

水産業は最要の位置を占め、漁期即ち夏季には内地人の渡來するもの多し。水産物は略北海道に類し、鯨、搾粕、鹽、鱒、蟹

罐詰、棒鱈等ありて、内地へ移出せられ、外國貿易は未だ見るに足らず。

交通 交通尙不便なれども、漸次面目を改め、道路の改修行はれ、夏季は馬車、冬季は橇使用せ

られ、鐵道は南部に通じ、航路は沿岸諸港と内地との間に開け、海底電線は内地に通せり。

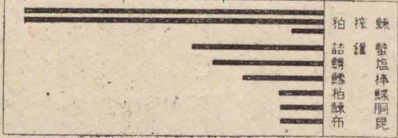


馴鹿

住民 人口は漸く増加すれども、夏季も尙七萬餘にして、冬季は四萬餘に止まり、密度の小なること帝國中、其の比を見ず、富源の開発少なきも故ありと云ふべし。住民の大部は内地人にして、土人は約二千人のみ。土

樺太にては馴鹿、犬等を使用して橇を曳かしむ

主要水産物價額比較表



約格價

人の多くはアイヌ人にして、主に南部に住し、北部にはオロチン・ギリヤーク等あり。

上圖 五支廳
下圖 大泊、豐原、久春、眞



政治 樺太は樺太廳長官の管治する所にして、其の下に五支廳を置かる。

處誌 大泊は亞庭

灣に沿ひて、水陸交通の便を有し、樺太の咽喉に當り、唯一の開港場なり。豐原は鈴谷川流域の沃野に位し、樺太廳の所在地、西岸の眞岡は不凍港にして、鯨漁業の中心たり。

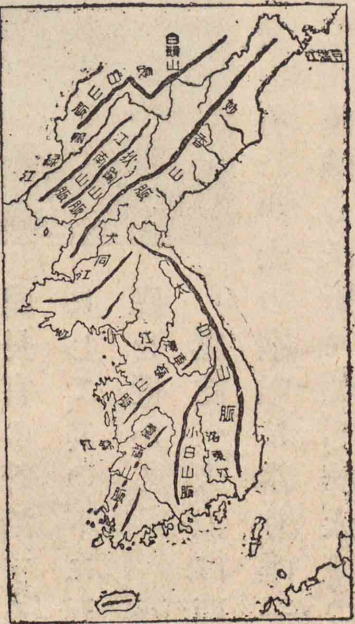
第十一章 朝鮮地方

位置 朝鮮は我が國の大陸部に於て、面積關東地方の凡

そ七倍に及び、本州より稍小なり。東は日本海、西は黄海、南は朝鮮海峡に沿ひ、北は鴨綠江、白頭山及び豆滿江を以て限られ、主に支那の滿洲に連なり、露領西比利亞に接する處は極めて少なし。

地勢 (山野) 北部

は地勢最も高峻にして、長白山脈北境に觸れ、脈中の白頭山は朝鮮第一の高峯たり。之より南は廣き蓋馬高臺にして、其の南界を成せる妙香山脈は略東西に走れり。中部以南の山脈中、最も著しきは金剛山を主峯とせる大白山脈にして、日本海岸に逼りて略南北に走り、小白山脈を分



朝鮮地勢圖

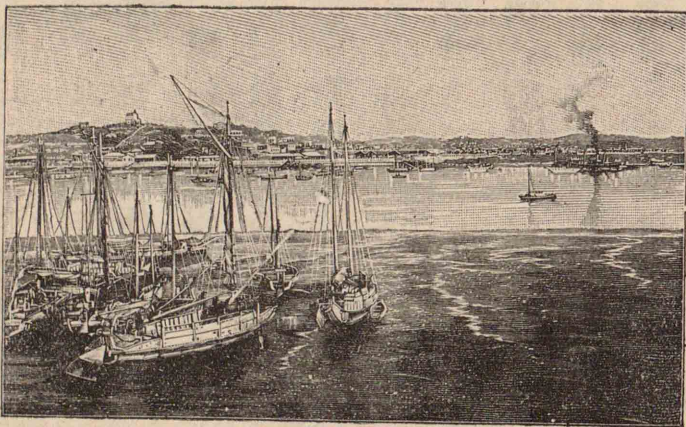
金剛山は朝鮮第一の勝地にして古刹あり

朝鮮には大湖なく、白頭山上の火口湖龍王潭世に知らる

岐せり。かくて平野は主に黄海斜面に開け、日本海斜面には甚だ少なし。

(河川) 東面には豆滿江の巨流あるのみなれども、南面には洛東江、鴨綠江あり、西面には錦江、漢江、大同江、清川江、鴨綠江等大小の河川多く、鴨綠江は長さ百四十里ありて、帝國の最長流なり。是等諸川は概ね流緩にして、灌溉舟楫の便に乏しからず。

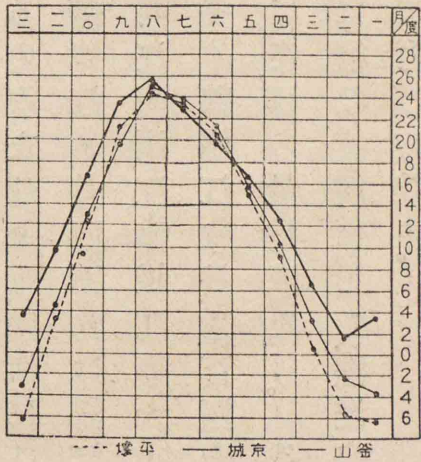
(海岸) 海岸の屈曲も東岸に少なくして、東朝鮮灣、迎日灣の外、大なる灣入を缺けるも、南岸には鎮



仁川港の景

東岸の元山にては三十九度六分に達し我が國最高の氣温を示せることあり

各月氣温比較



も、北進するに従ひて、寒暑厳しく、冬は中部以北の河川凍結して、氷上車馬を通ずるに至る。されば住民は寒氣を凌ぐ爲に、家屋の床下に温突を設くるなり。雨量は東岸の一部

なり。潮汐の干満も不同にして、東岸に最も少なく、西岸に最も著しく、京畿灣中には干満の差三丈に餘る處ありて、帝國第一と稱せらる。

氣候

南部は之に近き中國九州の地方に似て、温暖なれど

日本米
六年高
朝鮮は

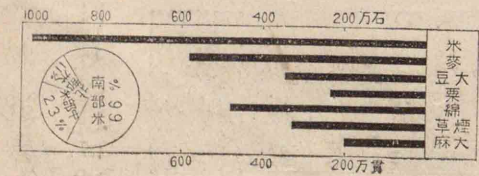
東洋拓殖會社は朝鮮の殖産興業に少なからざる利益を興ふ



大豆等の穀類、煙草、綿、大麻、人蔘等の特用産物を出だし、首位にある米は中部以南を主産地として、年額凡そ一千万石に及び、大豆は重に北部より出づ。家畜は

に稍多けれども、西部及び北部に少なく、夏季には降雨多けれども、冬季には乾燥するを常とす。かくて南部には竹林を見れども、北部の鴨綠江・豆滿江流域には、唐檜、蝦夷松、樅等を生ず。又獸類は概ね内地に類すれども、虎、豹、獐等の棲息せるあり。生業 生業は從來一般に幼稚不振なりしが、近年次第に面目を改むるに至れり。

(農業)



主要農産物比較

朝鮮の地は火山多きを以て近年盛に植樹を行ひつゝあり

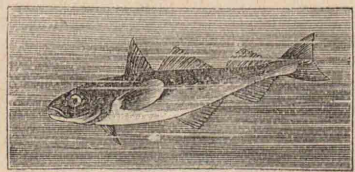
朝鮮産物の約四分の三は外國人の産出する所なり

明太魚は朝鮮にて冠婚葬祭に缺くべからざるものなり

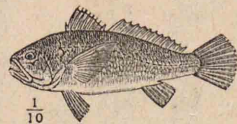
牛の飼養廣く行はれ、豚、鶏も亦各地に養はる。
(林業) 朝鮮は森林に乏しけれども、獨り鴨綠江・豆滿江流域には、面積廣大なるものありて、良材を供給し、毎年鴨綠江を流下する木材夥し。

(鑛業) 鑛業は未だ盛ならざれども、北部・中部等より出づる金は産額甚だ多く、北部の雲山は帝國の金山中、産額最も多し。其の他には、石炭、鐵、黒鉛等あれども、産額多からず。

(水産業) 沿海各地に行はれ、日本海に明太魚、鯨、朝鮮海峽附近に鯛、鱈及び鱈、黄海に石首魚を漁獲し、内地人の出漁するもの少なからず。食鹽は主として西海岸より産し、天日製鹽法次第に採用せらる。



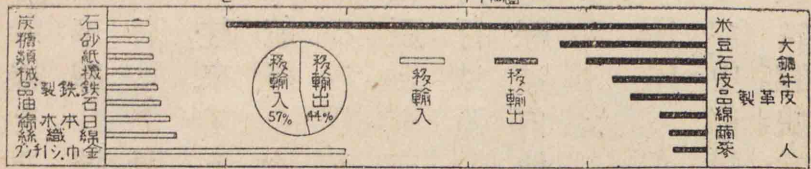
魚太明



魚首石

京釜・京義兩線合はせて五百八十五哩

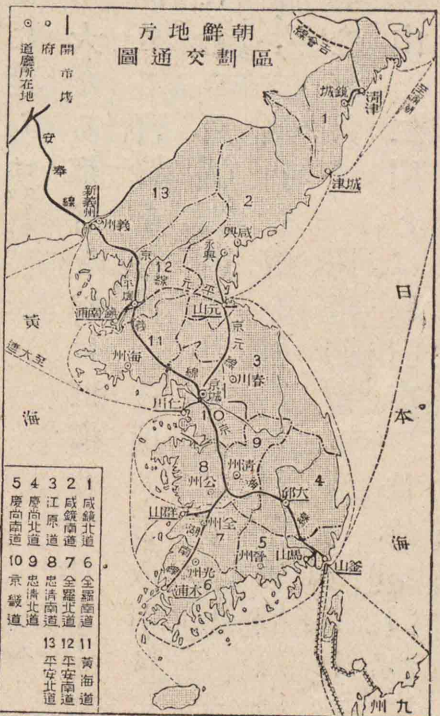
主要輸移出入品價額比較



(工業) 朝鮮人の手に依りて製せらるる工業品には、織物・陶磁器・紙・金屬品・華筵・簾等あるも、何れも微々として振はず。内地人の工業も未だ盛大なるに至らず。
(商業) 大なる都會を除けば、概ね市日を定め、露店を開きて賣買を行ふ。内地との取引は年々盛大に赴き、外國貿易よりも頗る多くして、米、大豆、綿、牛皮、鑛石、金等移出し、綿布、綿織、絲、精糖、木材等移入す。開港開市は合はせて十三を算し、釜山と仁川とは取引高の首位を競ひ、京城、群山、鎮南浦、元山亦主要なるものなり。
交通 交通の機關亦年を逐うて發達し、鐵道は京釜、京義の二線相連なりて、半島を縦貫し、以

開閉橋の圖は百四十一頁にあり

て幹線をなし、鴨綠江に架せる開閉橋に依りて、更に滿洲の京奉線に連絡せり。幹線より分岐するものに、馬山、湖南、京仁、京元、平南の諸線あり。海路は釜山下關間に、鐵道連絡船の往來するあり、沿岸航路の次第に開くるあり、支那、西比利亞とも亦定期航海行はる。又海底電線は内地に通せり。



日本人
三十萬人

住民 人口凡そ一千五百萬に過ぎずして、密度頗る小なるが、中部以南には稍大なり。住民の大部を占むる朝鮮種族は容貌骨格内地人に酷似すれども、迷信強く、遊惰にして、

朝鮮の風俗



安逸を貪るの風を有し、生活の程度甚だ低く、言語は朝鮮語行はれ、中等以上のもものは漢字、漢文を使用すれども、普通には固有の諺文を用 父音トトイオトナニ一、ふ。近年内 母音 フレヒ己ロ日ノスオ 諺地人の移住 綴字 五冠朝鮮 付金京城 文 するもの次 金冠立小學校

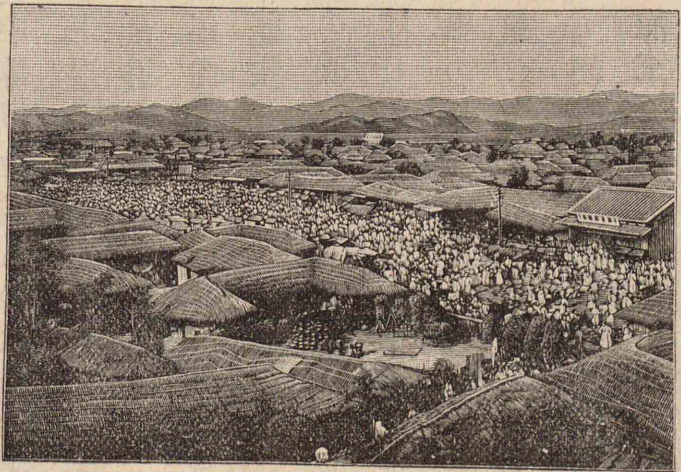
第に加はりて、其の數三十萬に近く、内地風の都邑處々に勃興し、日本語も廣く行はるゝに至れり。政治 朝鮮には朝鮮總督府を設け、陸海軍大將より任命せらるる總督をして、軍務及び諸般の政務を統べしむ。兵備は近

近年龍山に第十
九師團司令部を
置く

年二箇師團を置くこととなり又要塞軍港及び要港を置く。地方は十三道に分ちて、更に之を府郡等に細分す。

處誌 釜山は半島の東南端、洛東江口の東にありて、對馬に近く、海陸交通の要地に當り、商業の盛なること朝鮮諸港の第一に位し、内地人の居住するもの頗る多し。鎮海灣は軍港にして、灣に臨める鎮海は要塞司令部のある處、統營は朝鮮人漁業の中心なり。洛東江流域の晋州は綿布を産し、大邱は春秋二季の大市殊に盛況を呈し、

大邱に旅團司令部を置く



大邱に於ける市場の景

開市場の一なり。錦江流域の大田は湖南線の分岐點に位置し、内地人の重要なる集團地にして、流域の門戸たる群山と南方の木浦とは、共に開港場に列し、木浦には近年綿の移出多し。京釜線に沿へる稷山は金の產地にして、水原は勸業模範場、農林學校の所在地なり。

京城は漢江の北にありて、一に漢陽或は漢城と云ひ、南山北漢山等の山岳を繞らせり、もと韓國の首府たりし處にして、總

京城の人口は接續地を合はすれば二十八萬七千あり

木浦に於ける綿の積集



督府を始め、朝鮮軍司令部、高等法院、李王の宮殿等あり、交通

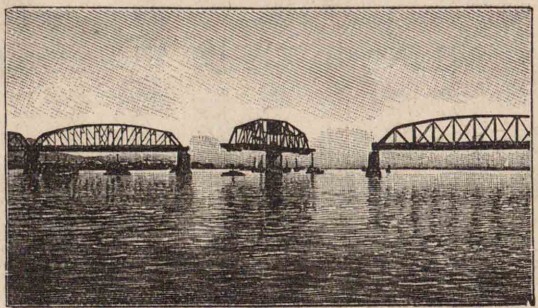
の要地に當り、開市場たり。京畿灣に沿へる仁川は濟物浦とも呼ばれ、朝鮮の二大開港場の一にして、輸移入の多きと釜山を凌ぐ、此の地潮汐干満の差甚だ大なり。京義線上の開城は高麗の國都たりし處にして、人蔘の産を以て著はれ、北方の遂安は金を産し、西北方の載寧、殷栗は八幡の製鐵所に鐵鑛を供給す。

大同江沿岸の平壤は要害の地に位し、文祿日清兩役の戰場として其の名著はれ、今は旅團司令部を置かれ、農産物の集散多く、開市場の一にして、北部の最大都會なり、附近に石炭を産す。下流の鎮南浦は流域の門戸をなし、屈指の開港場にして、北方の順安は砂金の産に名あり。清川江流域に有名なる雲山あり、本邦第一の金山なり。新義州は鐵道の開通後、新に起れる市街にして、鴨綠江を隔て、滿洲の安東

新義州の下流に龍巖浦あり亦開港場なり

と相對し、京義線の終點にして、又開港場の一たり。

京元線上の鐵原は生牛の大市場なり。東朝鮮灣の一支たる永興灣は要港にて、此の灣に臨める元山は東岸の最大都會、半島有數の開港場たるのみならず、要塞司令部のある處なり。永興灣以北の海岸に、城津、清津の二開港場あり、就中清津は滿洲の間島地方に對する咽喉に當り、住民は附近の羅南と共に、内地人多し。羅南は日露戰役後に興れる新市街にして、旅團司令部を置かる。



鴨綠江開閉橋

第二篇 總括

甲 地文地理(自然地理)

第一章 地勢

山岳 我が國は到る處山岳に富み、臺灣中部の二地方には、帝國の最高峰たる新高山を始として、海拔一萬尺を越ゆるもの少なからず。日本列島の山岳は概ね南彎北彎の二

南彎		北彎		山	脈	火山脈
筑紫	臺灣	關東	樺太	北見	北	那須
中國	九州	奥羽	日高	出羽	上	鳥海
飛騨	四國	越後等	阿武隈	紀伊		
木曾等	赤石					
白山	霧島	千島				
乘鞍	阿蘇					

山系と數多の火山脈とに屬す。南彎山系は臺灣より、北彎山系は樺太より起り、各

火山の頂上には概ね神社あり

我が國には夙に登山の風盛なり

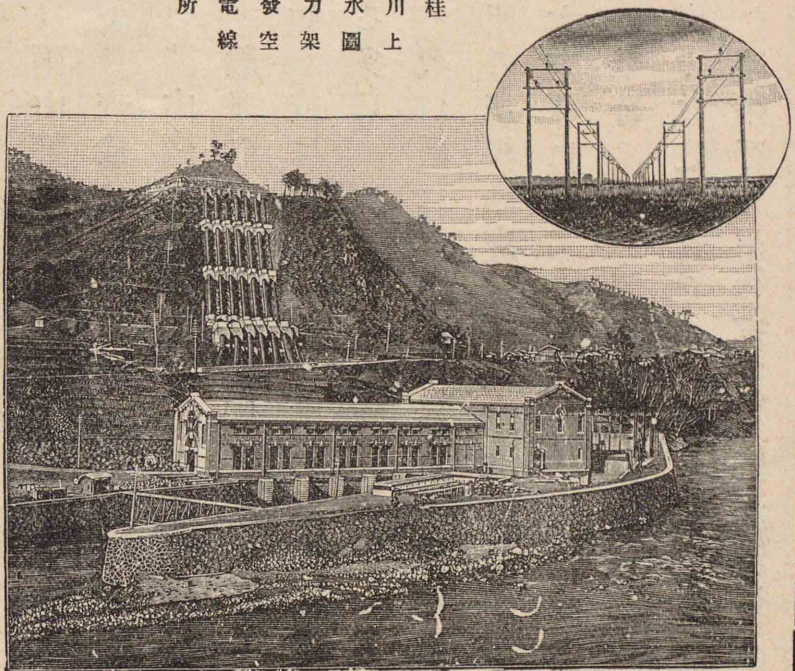
我が國は有名な地震國にして關東・中部・近畿等の地方には大地震屢々起れり

幅廣き本州の中部に達して、數多の山脈を含み、富士火山脈は兩山系の境と成りて、本州を横斷し、其の他の火山脈は之より南或は北にあり。朝鮮の山岳は、長白妙香大白小白等の諸山脈に屬するもの多く、火山は僅に一部に存するのみ。數多の山岳中、火山脈に屬するものには、山容秀麗富士の如く、或は奇岩攢立妙義の如く、國土に風致を添ふるもの頗る多し。

我が國は火山に富めるのみならず、温泉も豊富にして、本州の箱根・熱海・伊香保・草津・有馬・四國の道後・九州の別府等は古來殊に著名なり。

平野 我が國は山岳多きが故に、平野は廣大ならざるも、處々に之を見ざるにあらず。本州の關東・濃尾・越後・畿内等の諸平野、九州の筑紫平野、北海道本島の石狩平野、朝鮮及び

桂川水力発電所
上空架線



山梨縣北都留郡廣里村にあり、落差三百四十尺、馬力二萬二千五百、山野二十餘里の間架空線を以て、電氣を東京に導く。

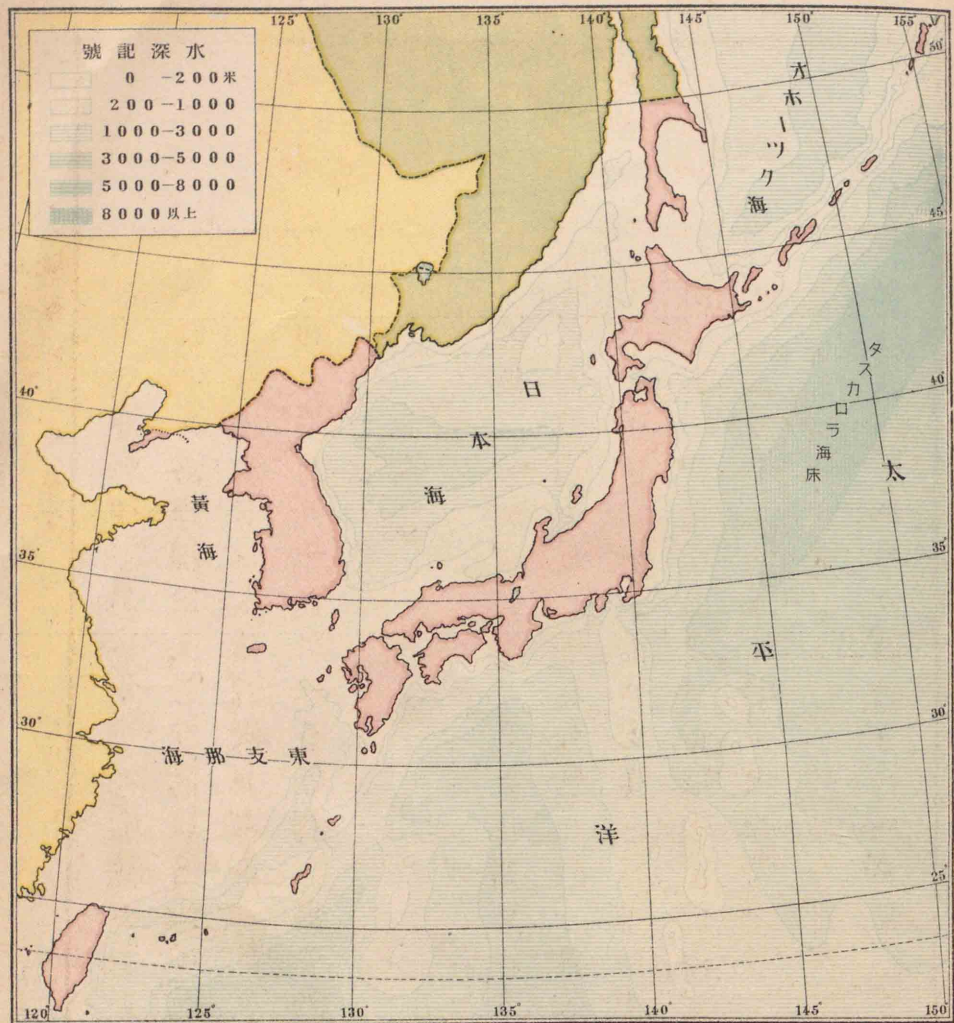
臺灣の西部に於ける諸平野は廣袤著しく、地味概ね肥沃にして、多くは人口稠密なり。河川 河川は數多くして、主に太平洋及び日本海に注ぎ、其の他はオホーツク海朝鮮海峡・黄海・東支那海・臺灣海峡・瀬戸内海に入る。地勢の關係上、流程概ね短く、且つ一般に水量の増減著し

くして、雨季には水勢烈しく、屢氾濫して害を興ふれども、亦灌漑の利少なからず。近時發電に利用せらるゝもの次第に増加せり。諸川の中、航通の便に富めるは、本州の利根川・木曾川・淀川・信濃川・北上川・北海道本島の石狩川・朝鮮の洛東江・漢江・大同江・鴨綠江等なりとす。湖沼 湖沼は山間より海岸に至るまで、廣く分布して、其の數多く、或は風色に富み、或は交通養魚發電等に利便を與へ、面積の大なるものは本州の琵琶湖を始とし、北海道本島及び樺太にあり。海岸 我が國は無數の島嶼と大半島とより成るが故に、海岸線は割合に長く

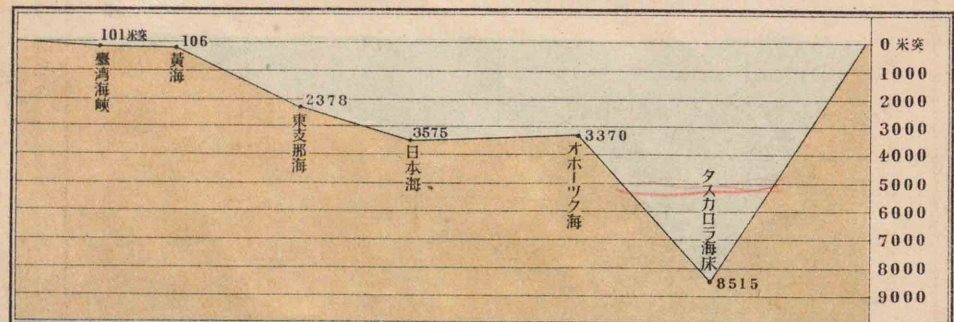


箱根山中の蘆湖

日本近海深海圖



日本近海最大水深比較圖



日本海淵は一に
タスカローラ海床
といふ

第二章 近海

して、交通の便を與へ、文化を發達せしむるに與りて力あり。然れども海岸線出入の状態は各地同じからずして、九州島最も出入に富み、本州・四國・北海道・本島・朝鮮等之に次ぎ、島嶼は瀬戸内海、九州島の西北、朝鮮半島の西南等に多し。

深度 我が國の南より東に擴がれる太平洋は頗る深くして、奥羽地方及び千島列島に近き日本海淵にては、二萬八千尺を超ゆ。オホーツク海と日本海とは深さ略伯仲し、最深一萬二千尺に達せず、黄海・東支那海は甚だ淺くして、七百尺に及ぶ處殆どなく、瀬戸内海に至りては、二百尺に及ぶ處なし。今日の水面をして、若し七百尺低からしめば、日本列島は其の大部互に陸続きと成るのみならず、朝鮮半島とも

連接するに至らん。

潮汐 海岸の位置形状は各地相異なるを以て、**潮汐干満**の差も亦各地異同あり。全國中、朝鮮の西岸は此の現象最も著しく、内地にては有明海を最大とし、日本海岸には甚だ小なり。潮汐干満の際、海峡にありては、**潮流**を起すを常とし、瀬戸内海の門戸たる、下關及び鳴門の二海峡に生ずるもの殊に有名なり。

海流 我が國の近海には、寒暖二種の海流ありて、氣候・水産等に影響す。暖流には、日本海流及び其の分流**對馬海流**あり。日本海流は濃藍色を呈するによりて、**黒潮**とも呼ばれ、南方より來りて、**臺灣・琉球**列島の沿岸を經、九州・四國本州の南岸を洗ひ、終に東北に向ひて走る。對馬海流は沖繩島の西方にて、日本海流より分かれ、九州島の西北を過ぎ、日本

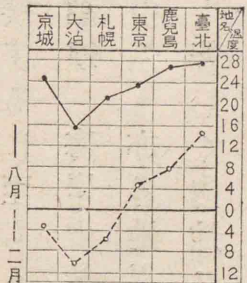
海に入りて、樺太の附近に及ぶ。寒流には、千島・樺太・リマンの三派あり。千島海流一名親潮は千島・北海道本島・奥羽地方の太平洋岸に沿うて流れ、樺太海流は樺太島の東岸を流れて、宗谷海峡に入り、リマン海流は樺太の西岸、朝鮮の東岸を経て、朝鮮海峡に及ぶ。

第三章 氣候及び天産物

一 氣候

温度 我が國土は殆ど全部温帯に位置し、地形狭長にして、海洋の影響を受くるが故に、氣候概ね温和なり。然れども樺太及び北海道本島の中部は寒氣烈しく、臺灣は暑季長く、朝鮮には本邦中、最高温

各地温度比較

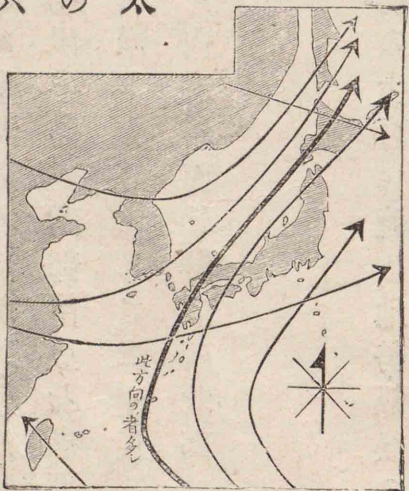


本邦等温線圖は附圖第五圖にあり

度に達せる處あり。年平均温度は臺灣に最も高くして、二十五度に達し、之より北進するに従ひて、次第に低下し、樺太に於ては最も低く、五度に達する處なし。

風雨 冬季は亞細亞大陸の内部より、夏季には太平洋上より、各季節風吹き、其の交代期特に八九月の頃は、颱風屢豪雨を伴ひて襲來し、大害を及ぼすことあり。

夏の季節風は、日本列島の太平洋に面せる地方、並に朝鮮の東南部に多量の雨を降らし、六月の交には梅雨ありて、細雨霏々として霽れざる地方多し。冬の季節風は日本海斜面に深雪を呈すれども、其の他



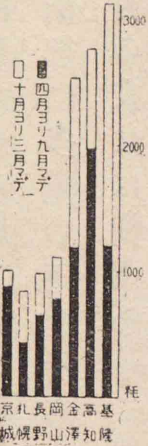
風進路圖

冬の季節風は概ね西北風にして夏の季節風は概して東南風なり

我が國は温帶中
稀に見る多雨地
にして臺灣の基
隆及び大島の各
瀬にては三千二
百耗以上なり

の地方にありては、快晴の天氣多し。

各地雨量比較



一年を通じて雨量の最も多

きは臺灣の北部、琉球、九州、四國

紀伊半島の南部、伊豆七島、飛驒

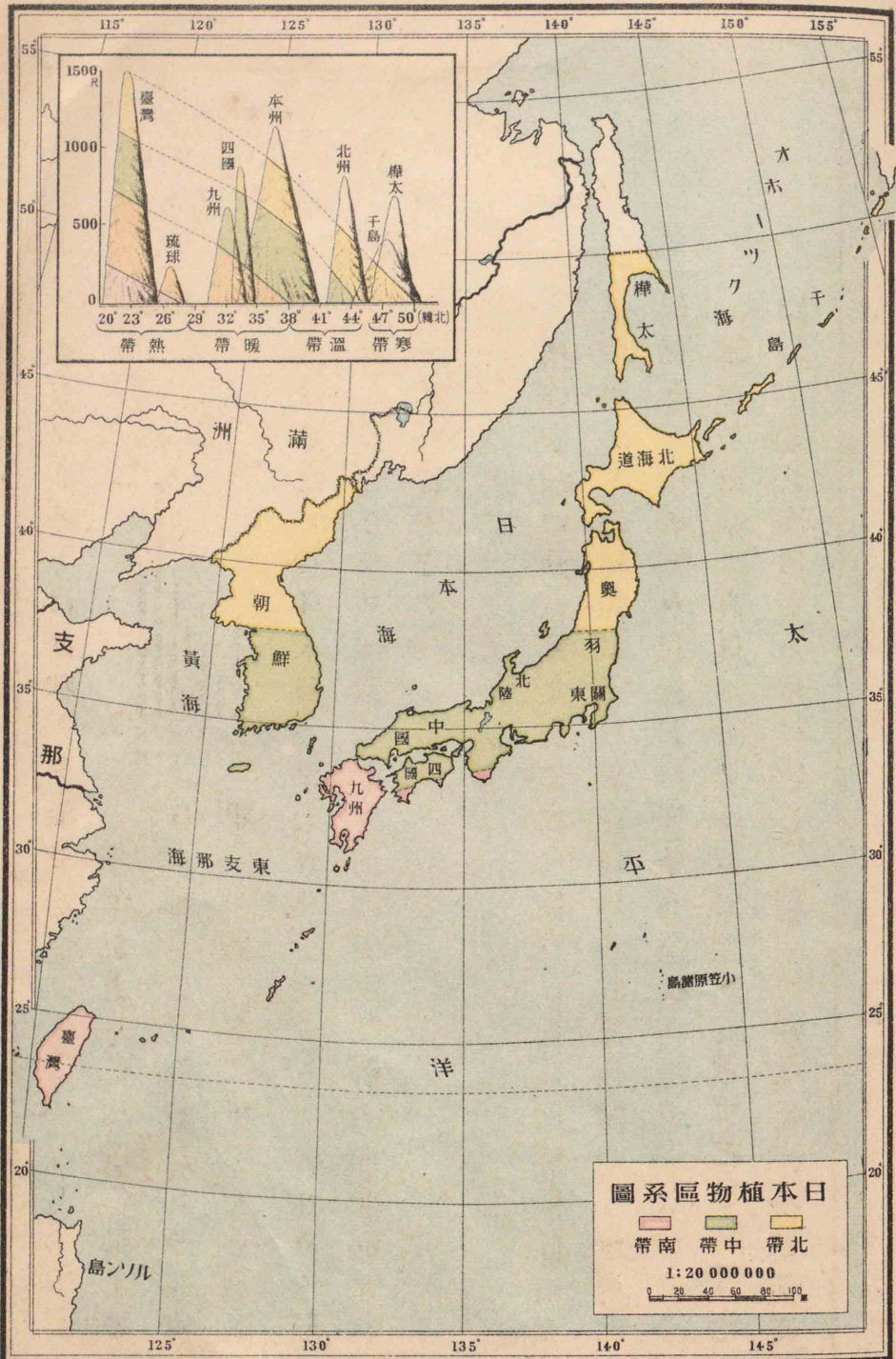
高地及び之に接する日本海沿岸地方等にして、二千耗を超

え、其の少なきは奥羽以北、瀬戸内海斜面、朝鮮の西北部にし

て、一千耗内外なり。

二 天産物

植物 我が國は到る處植物の生育に適し、地勢氣候の關係に因り、其の種類多し。臺灣、琉球、小笠原島等の平地には、榕樹、椰子、檳榔、樹林、投樹、竹、紗羅、香蕉、鳳梨等の熱帶性植物よく繁茂し、臺灣の高地より九州、四國、本州には、樟、杉、檜、松、檜、榿、櫟、栲等を見、北海道、樺太は植物景一變して、蝦夷松、椴松、落葉松



本邦植物の分布區域を區分するに、三帶説四帶説等あり、本圖は、此の兩説を併せ示せるものにして、地圖は三帶説、挿入圖は四帶説とす、而して三帶説は四帶説を綜合簡約せるものと見る可きべし。

の類あり。朝鮮の植物は畧、北海道に同じ。

動物 動物の分布も各地同様ならずして、臺灣の穿山甲、琉球の飯匙倩、九州・四國・本州の猿熊、本州の鯢魚、北海道の赤熊、樺太の山猫、麝香鹿、朝鮮の虎豹、千島近海の鰓轔獸、臘虎、海豹等は各、其の地の特産たり。又本邦の近海は寒暖二種の海流あるを以て、魚類の豊富なること世界稀に見る所なり。

礦物 礦物は其の種類少なからざれども、多量に蓄藏せらるゝは石炭及び銅に止まり、鐵の如きは甚だ少量なり。

乙 人文地理

第一章 生業及び産物

農業

我が國土はよく農業に適し、國民の大部は古來之

東京の近郊に農事試験場あり

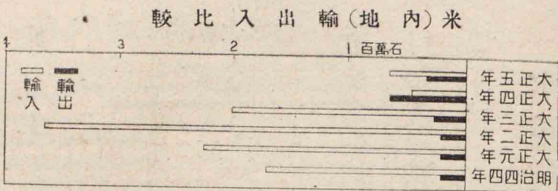
に従事したれば、本業は生業中の首位にあり。近年耕種法の改良、耕地の増加と共に、生産力次第に増加して、農産年額は二十億圓と稱せらる。



農産物中、最も重要なものは米にして、樺太を除く外、之を産せざる地方なく、本州・九州・朝鮮・臺灣の諸地方を主産地として、平均年額凡そ六千六百萬石に達す。麥は米に次ぎて須要なるものにして、年産額二千七百萬石に及び、各地方に産すれども、關東・九州・朝鮮の三地方特に多し。甘藷は年額十二億貫を出だし、殆ど關東以南の温暖なる地方に限られ、特に九州・臺灣に産するもの凡そ六割を占む。大豆・小豆・粟・馬鈴薯・菜種・茶・煙草・甘蔗・蔬菜等も亦主なる農産物なり。

東京の近郊に實業試験場あり

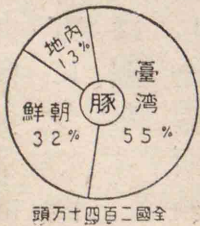
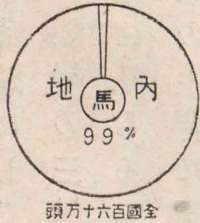
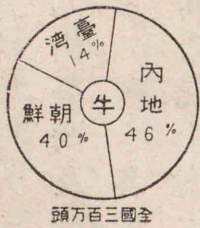
官設の家畜改良事業には農商務省の畜産試験場及び同支場、馬政局の種馬育成所、種馬牧場、種馬所あり



かくの如く我が農産物は其の種類と産額とに富めども、消費額の多きが爲に、米・小麥・大豆・豆糟の如き食料・肥料等を外國に仰がざるを得ず。本邦は世界有数の養蠶國にして、繭の産額頗る多く、就中中部・關東の兩地方は本邦總産額の約六割を出だし、實に斯業の中心たり。

牧畜の改良は近年一般に行はれ、家畜の役用並に畜産物の需要を増し、従つて其の數亦年々増加すれども、未だ諸外國に及ばざること遠し。家畜

の中、頭數の最も多きは牛にして、總數殆ど三百萬頭あり、中國・九州・臺灣及び



内地の國有林は
大林區署之を分
轄す

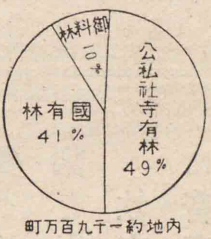
一、所有林
二、國有林
三、公有林
四、私有林
五、社寺所有林
六、利用上より区分
七、保安林
八、供用

朝鮮を主産地とし、馬は約百六十萬頭にして、九州・奥羽・北海道の三地方に、豚は九州・臺灣及び朝鮮の三地方に多く飼養せらる。又家禽にして廣く各地に見らるゝは鶏なり。

林業

我が國は其の風土樹木の生育に適し、全國面積の凡そ半を蔽ひ、世界有数の森林國にして、秋田・青森・木曾・吉野等の人工林及び臺灣・朝鮮・北部・北海道・樺太等の天然林は其の名高し。森林はまた其の所有者に依りて、御料林・國有林・公私社寺有林に、利用上より保安林・供用林に分たれり。近年之が經營に大いなる注意を拂ふに至れり。林産物は、杉・松・檜等の用材・薪炭・製紙原料等ありて、其の額年々増加せり。

森林所有別比較



内地約一千九百町

水産業

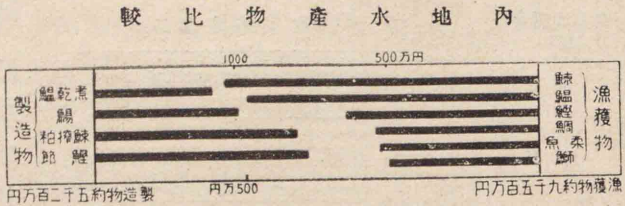
我が國は四面殆ど海を繞らし、海岸の出入並に

島嶼に富み、近海には寒暖二種の海流を有し、且つ近年漁區

の擴大、漁船・漁具・漁法の改良等行はるゝに因り、水産物の種類・産額を増加せり。内地の漁獲物は年額約一億圓にして、鯧・鰹・鯛・柔魚・鰯等を主要なるものとし、北海道・千葉・静岡・高知・鹿児島・長崎・山口等を主産地とす。製造物は其の額漁獲物の約半に當りて、鯨節・鯨搾粕・鰯煮・乾鰹等産額多く、北海道・千葉・静岡・高知・長崎等は産地中の重要なるものなり。樺太・朝鮮の水産物も亦漸く多からんとす。

食鹽の年産額は十五億斤に近く、其の大部は内地殊に瀬戸内海沿岸地方より産す。

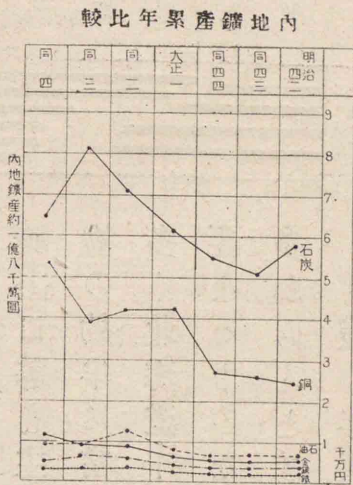
明治維新以來、學理を應用し、新式の機械を利用す



東京に水産講習所あり

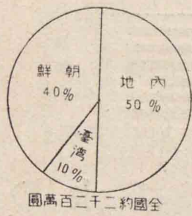
礦務署處々にあり

るに至りし爲め、鑛産物は年々に増加して、産額一億八千萬圓に及び、其の中七割は石炭銅の占むる所、別して、石炭は年



産額二千萬噸、價額約七千萬圓にして、鑛産總價額の四割に近く、九州は之が最要産地にして、其の八割弱を占め、其の他は北海道及び常磐地方の炭田等より出づ。

別方地額産金



圖萬百二十二約國全

工業

我が國人は手藝に長じ、小工業は古來行はるゝが、

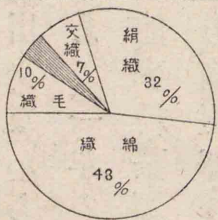
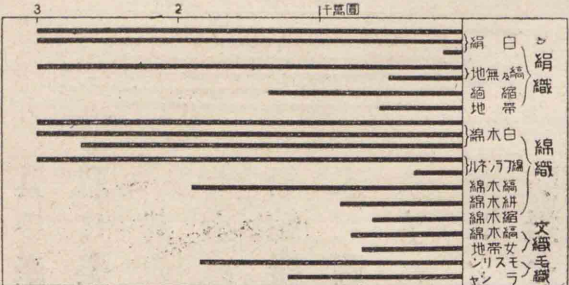
石炭銅の外、金は朝鮮・臺灣・九州等より、石油は殆ど全部新潟縣より産し、銀は奥羽に、鐵は奥羽・朝鮮に出で、製鐵は主に福岡岩手の兩縣に行はれ、硫黄は北海道に多し。

東京に工業試験所あり

機械動力を利用する大工業も漸次勃興し、之に加ふるに、交通運輸の發達、製品販路の擴張等に因りて、工業は十數年來、著しく其の種類と産額とを増進せり。

工業品中其の産額の最も大なるは織物にして、年額三億

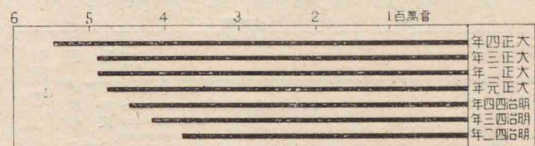
較比種品要主物織地内



八千萬圓に達し、絹織にては羽二重・縮緬・絲織・太織の類、綿織にては白木綿・縞木綿・綿フネル・絋木綿の類、絹綿交織にありては縞木綿・毛織にありてはモスリン・羅紗の類を主とし、近畿中部・關東の三大機業地より盛に製出せらる。織物と關係深き綿絲は年産額一億數千萬圓に及びて、近畿地方は其の過半を出だし、中部・關東の諸地方亦

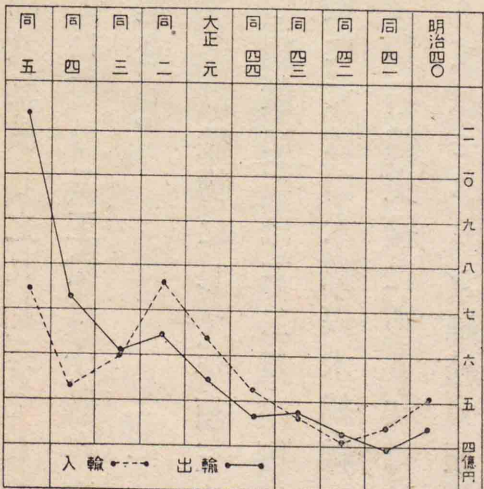
東京の近郊に醸造試験所あり

蠶絲年産額比較



大正四年蠶絲年産額十二萬圓

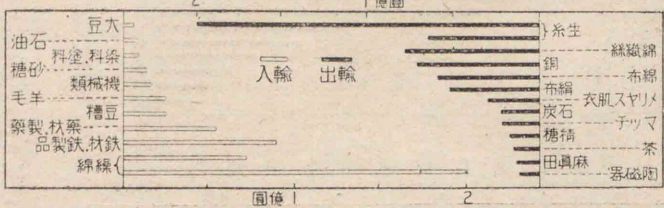
其の産出少なからず。蠶絲の製造は中部關東奥羽に榮えて、一年の産額二億圓を超ゆ。其の他、麥粉、茶、煙草、清酒、醬油、砂糖あり、紙、真田、莫大小あり、陶磁器、煉瓦、セメント、漆器、マッチあり、肥料、船舶機械類、藥品等あり。我が加工品は其の産額未だ國內の需要を充たすに足らざるものあれども、或は輸入を防遏せるもの、或は羽二重、綿布、蠶絲、綿絲、茶、マッチ、真田、莫大小等の如く、輸出品中重要な位置を占むるものありて、帝國の工業は前途頗る有望なり。



内地貿易高年比較

東京に商品陳列館あり
 品出先 輸出先
 生絲 米、佛、伊
 綿絲 支那、香
 羽二重 印度、英、佛、獨
 銅 支那、香、米、英、佛、獨
 石炭 支那、香、港、英、獨
 品種 輸入先
 綿 支那、米、英、獨
 鐵 支那、米、英、獨
 米 支那、米、英、獨
 豆糟 支那、米、英、獨
 羊毛 支那、米、英、獨
 砂糖 支那、米、英、獨

内地重要貿易品價額



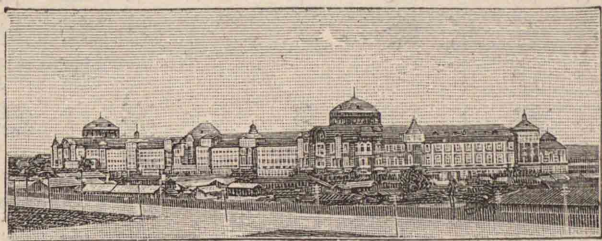
商業 産業及び交通の發達は、内地商業の隆盛、外國貿易の増進を來たし、商業の重要機關たる銀行、取引所、商業會議所、商業會社等も、亦隨ひて増加進歩せり。内地商業は大阪、東京の二市、其の大中心をなし、各地の都會亦各、其の小中心たり。内地の外國貿易高は大正五年に十九億圓にして、之を歐米諸國に比する時は、遙に及ばざる憾あれども、最近十年間に凡そ二倍の増加をなし、發達の速なること比類稀なり。重要輸出品は生絲を第一とし、綿絲、絹布、綿布、銅、石炭、砂糖、マッチ、茶、真田等にして、加工品多く、原料品少なく、主要輸入品は綿を始め、鐵及び鐵製品、砂糖、機械類、豆糟、大豆

幹線中最も重要なもの長さ最急行列車の要する時間左の如し

東北線	一八時
東海道線	一五時
山陽線	一二時
計	一一六一 四五

此の外、租借地及び滿洲にあるもの凡そ七百哩に及び

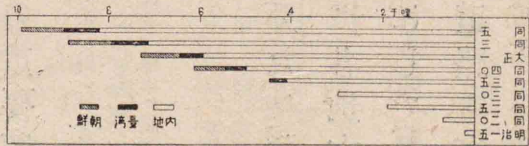
大島朝鮮半島共に概ね幹線を通じ、全國の鐵道線路は約一



東 京 停 車 場

大ならず、隨ひて運輸力充分なる能はず。

哩に近く、大部は國有にして私設に係るものは僅に一割に過ぎず。土地の面積に比して鐵道の最も發達せるは、關東近畿の二地方及び九州の北部等なり。然れども、我が國鐵道發達の度は歐洲諸國に及ばざるのみならず、我が鐵道は朝鮮・滿洲に於けるものを除き、何れも狹軌にして、速度



鐵 道 發 達 比 較

汽車鐵道の外に、電車、馬車、人車等の鐵道も次第に發達し、是等は重要な都會及び其の附近に敷設せられ、亦交通上の便益大なり。

航 路

河湖は交通の便を與ふるもの少なきも、海岸には

良港多くして、近海航路は勿論遠く北米・南米・濠洲・印度・歐洲等へも航路開け、内外の船舶盛に往來し、横濱・神戸・下關・門司・多度津の如きは、出入船舶一千万噸以上なり。我が國の西洋型船舶は年々増加して一萬一千餘隻、二百萬噸を超え、一萬噸級のものも約十隻に及び、今や我が國は世界有數の商船國に入れり。

我が大汽船會社は、日本郵船・大阪商船及び東洋汽船の三會社にして、日本郵船會社は内國諸



横濱に航路標識管理所あり

港、亞細亞、歐羅巴、濠洲、北米等に、大阪商船會社は主に大阪以西の内國諸港、支那、北米等に、東洋汽船會社は香港、布哇及び南北兩米の諸港と本邦との間に、航海業を營めり。又南洋郵船會社は馬來群島へ航路を開き、日清汽船會社は、支那の揚子江に航業を營める各國汽船會社中、最も優勢なり。

郵便・電信・電話 郵便・電信は全國到る處に普及し、又萬國聯合に加盟せるを以て、内外の通信其の便を極め、海底電線は支那の福州、上海、西比利亞の浦潮斯德へ通じ、尙小笠原島にて外國線に連なり、米國桑港に通ずるあり、無線電信は陸上局と船舶局との間に通信せしむ。電話亦全國大小の都會に於て、殆ど之が架設を見ざるなく、長距離間にも盛に利用せらるゝに至れり。

支那の各地に我が郵便局あり

第三章 住民

種族 我が國住民の凡そ七割五分は廣く各地に住する大和種族、畧二割は朝鮮に住する朝鮮種族にして、殘餘は臺灣にある支那種族及び蕃人、北海道樺太に住するアイヌ・ギリヤーク・オロチン等なり。大和種族は忠君愛國の思想に富むこと世界に比なく、學術技藝に長じ、著しく其の國勢を發達せしめて、世界に雄視し、他種族を同化融合せしむること速かなり。然れども往々感情に馳せ、自重を缺き、或は勤儉の念未だ歐米人に及ばざる所なきに非ず。

人口 我が國の人口は毎年數十萬を増加して、現今約七千四百萬に上り、世界諸國中、頗る優勢なり。人口の密度は一方里約一千七百人なれども、地方に依りて大差あり、最も

一方里の人口	五〇〇〇
關東	一三〇〇〇
奧羽	二五〇〇〇
中部	四三〇〇〇
近畿	二六〇〇〇
中國	二八〇〇〇
四國	一五〇〇〇
九州	三〇〇〇〇
臺灣	一五〇〇〇
北海道	三〇〇〇
樺太	二〇〇〇
朝鮮	一七〇〇〇
平均	一七〇〇〇

大なるは關東地方にして、近畿地方之に次ぎ、九州・四國・中國・中部の四地方も亦平均以上なれども、奧羽・臺灣・朝鮮・北海道及び樺太の五地方は平均以下に位し、就中樺太は最も稀薄なり。邦人の外國に在留せるものは、關東州及び滿洲、布哇、米國等を主として、現今三十萬を超ゆれども、歐洲諸國に比すれば、未だ甚だ少なし。外國人の帝國に在留するものも亦少數なり。

都會 我が國は古來農を主生業とし、住民の多くは今も之に従事するを以て、人口の凡そ七割は村落に住し、小都會は極めて多けれども、大都會は英獨等より少なし。されど近年商工業の發達と共に、住民次第に都會に集中し、人口五萬以上の都會は約四十に及べり。

地方	百萬以上	五十萬以上	三十萬以上	二十萬以上	十萬以上	五萬以上	計
----	------	-------	-------	-------	------	------	---

第四章 教育 神社 宗教

關東	東京	横濱	宇都宮	横須賀	一	五
奧羽		名古屋	仙臺		一	九
中部		京都	甲府	靜岡	九	五
近畿	大阪	神戸	岐阜	新瀉	五	四
中國			和歌山	堺	四	一
四國			廣島	岡山	一	七
九州			長崎	福岡	二	四
臺灣			臺北	臺南	二	二
北海道			旭川	函館	四	二
樺太				札幌		
朝鮮		京城	釜山			
合計	二	一	三	一	六	二七
						四〇

本頁以下に示せる所在地は大體の位置を掲げたるなり

教育 我が國は教育の制度完備して、富國強兵の基をなし、東洋文明の中心となり、外國より留學するもの次第に増

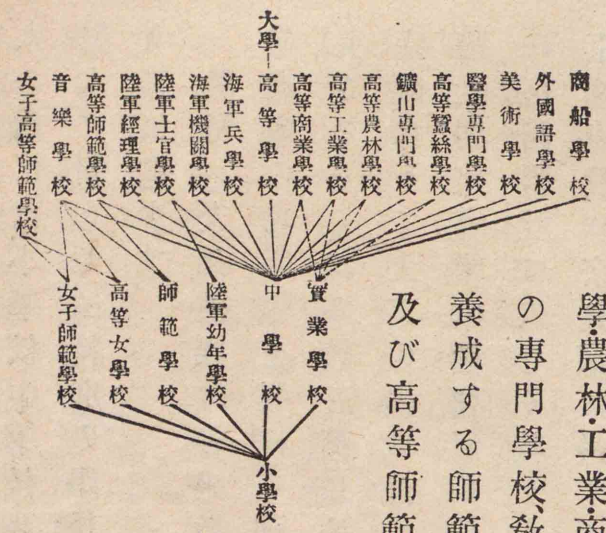
大	東京(東京帝國大學)	京都(京都帝國大學)
高等學校	仙臺(東北帝國大學)	福岡(九州帝國大學)
醫學專門學校	東京(第一)	京都(第三)
高等農林學校	千葉	金澤(第四)
高等工業學校	盛岡	鹿兒島(第七)
高等商業學校	東京(工業)	名古屋(第八)
高等蠶絲學校	東京	神戸
礦山專門學校	秋田	山口
高等師範學校	東京	長崎
	東京	小樽
	東京	東京(女子)
	東京	奈良(女子)

高等女學校も亦要地に設けられ、農工商水産等の實業學校

加す。學校には官立、公立及び私立の三種あり。

小學校の設立は内地に遍くして、如何なる山間僻地にも之を見ざるなく、就學兒童の歩合は殆ど百分の九十九に達せり。中學校

並に實業補習學校は其の數頗る多し。高等學校は八箇所に、帝國大學は四箇所に置かれ、此の外、醫學、農林、工業、商業等の專門學校、教員を養成する師範學校及び高等師範學校



東京外國語學校	東京美術學校	東京
東京音樂學校	東京商船學校	東京
陸軍大學校	陸軍砲工學校	東京
陸軍戶山學校	陸軍士官學校	東京
陸軍騎兵學校	陸軍經理學校	東京
陸軍軍醫學校	陸軍獸醫學校	東京
海軍大學校	海軍經理學校	東京
陸軍步兵學校	陸軍野戰砲兵射擊學校	東京
陸軍重砲兵射擊學校		東京
海軍兵學校		東京
海軍砲術學校		東京
海軍水雷學校		東京
海軍機關學校		東京
		千葉
		浦賀
		江田島
		横須賀

軍人を養成する學校等あり。圖書、新聞雜誌の發行、圖書館の設立等頗る多く、知識の普及を助くること少なからず。臺灣、樺太、朝鮮に於ける内地

關東州にも中學校・高等女學校あり

官幣社及び國幣社に大中小の三種あり

佛教十二宗
天台宗 真言宗
淨土宗 臨濟宗
曹洞宗 黃檗宗
眞宗 日蓮宗
時宗 融通念
法相宗 華嚴宗

人の爲には、小學校、中學校、高等女學校を設け、臺灣人及び朝鮮人に對しては、特別の學校設置せられ、植民地の教育も亦次第に進歩す。

神社 大和種族は古來敬神の風盛にして、皇族諸氏の祖先、國家の功臣等を祀れる神社は、内地植民地到る處に之を見ざるなく、其の數五萬に達し、中にも伊勢の神宮は皇室の宗廟にして、上下の崇敬最も厚し。神宮以外の神社には、官幣社、別格官幣社、國幣社、府縣社、郷社、村社等の社格を定められ、官國幣社は久しく我が文化の中心たりし近畿地方、就中京都府及び奈良縣に最も多し。

宗教 我が國には信教の自由あり。現今世に行はるゝ宗教は固有の神道、外來の佛教、基督教等なり。佛教は最も盛にして、十三宗に分かれ、寺院の數は七萬に餘り、佛教に次

神道十三派
神道 黑住教
修成派 大社教
扶桑教 實行教
大成教 神習教
御嶽教 神理教
禊教 金光教
天理教

貴族院議員は約四百人
衆議院議員は三百八十一人

ぐは神道にして十三派に、基督教は新舊兩教二十餘派に分かる。

第五章 政治

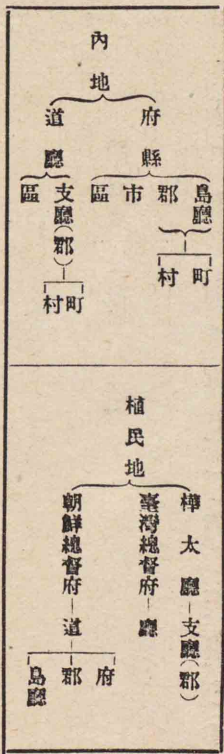
我が大日本帝國は萬世一系の天皇の統治し給ふ君主國にして、國體の美世界に其の比を見ず。政體は明治二十二年帝國憲法の發布ありて、政治機關を立法、行政、司法の三部に分たれしより、立憲政體となれり。

立法 立法部たる帝國議會は、貴族院と衆議院とより成る。貴族院は皇族、華族及び勅任議員を以て組織し、衆議院は選舉法の定むる所により、公選せられたる議員を以て組織す。兩院は法律案及び歳出入の豫算案を議定す。

行政 行政部は中央地方の二種あり。中央政廳は内閣

の外、外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、逓信の九省あり。内閣は政府の首脳にして、國務大臣を以て組織し、内閣總理大臣其の首班となり、各省大臣は各所管の政務を執る。此の外、天皇の諮詢機關たる樞密院、帝國の會計を監督する會計検査院等あり。

地方政廳は三府、四十三縣、北海道廳、樺太廳、朝鮮、臺灣の二總督府あり。府縣に知事、北海道廳及び樺太廳に長官、總督府に總督を置く。總督は武人より任命せられて、權限甚だ



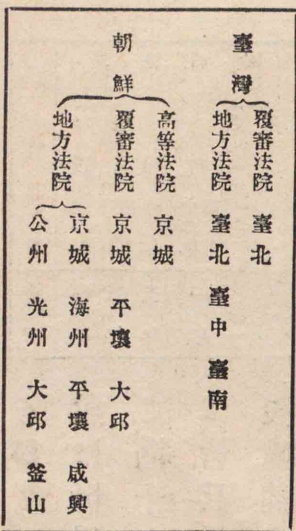
に、各自治機關を備ふ。租借地たる關東州には、關東都督府

大なり。府縣道廳は其の細別たる郡、市區及び町、村と共

關東州は旅順・大連の二民政署に分かる

を置き、武人より任命せられて、權限大なる都督をして、其の政務を掌らしむ。

司法 司法部は裁判所にして、大審院、控訴院、地方裁判所、區裁判所の四階級に分かれ、大審院は一箇所、控訴院は東京、名古屋、大阪、廣島、長崎、仙臺、函館の七箇所、地方裁判所は五十箇所、區裁判所は處々に設けられ、地方裁判所は、概ね府縣廳、北海道廳及び樺太廳の治所と、其の所在地を同じうせり。



法院あり。關東州には高等地方の二法院を置く。

陸軍の現役兵に
は二年にして歸
休せしめらるゝ
ものあり

軍備區劃圖は附
圖第九圖にあり
一師團は歩兵二
旅團・騎兵・野砲
兵各一聯隊、工
兵・輜重兵各一
大隊を有するを
普通とす

騎兵旅團司令部
所在地

- 第一 習志野
- 第二 盛岡
- 第三 豊橋
- 第四 豊橋

野砲兵旅團司令
部所在地
第一 東京
第二 國府臺
第三 下志津
交通兵團司令部
は東京にあり

兵備

兵備は陸軍と海軍とに分かれ、日清・日露の兩戰役

兵	陸軍	海軍
後備	現役	
補充	預備役	
國民	國民	
第一	第一	
第二	第二	
	十二月	一年
	四月	五月
	三年	三年
	四年	四年

を経て、著しく擴張せられ、我が軍の精銳は世界に名高し。帝國の男子にして、滿十七歳より滿四十歳までのものは、皆兵役の義務を有し、兵役には常備後備補充國民等の別あり。

陸軍には歩兵・騎兵・野砲兵・山砲兵・重砲兵・工兵・輜重兵・交通兵等の別あり。

内地を十八師管に分ち、各師管に一師團を別に東京に近衛師團を置く。又對

師	番號	司令部所在地	步兵旅團	番號	司令部所在地	步兵旅團	番號	司令部所在地
近衛	第一	東京	第一	第一	東京	第十	第十	姫路
第一	第二	東京	第二	第二	東京	第十一	第十一	善通寺
第二	第三	仙臺	第三	第三	仙臺	第十二	第十二	小倉
第三	第四	名古屋	第四	第四	名古屋	第十三	第十三	高田
第四	第五	大阪	第五	第五	大阪	第十四	第十四	宇都宮
			第六	第六	山形	第十五	第十五	龍山
			第十七	第十七	京都	第十六	第十六	久留米
			第十八	第十八	京都	第十七	第十七	岡山
			第十九	第十九	京都	第十八	第十八	大分
			第二十	第二十	京都	第十九	第十九	大分
			第二十一	第二十一	京都	第二十	第二十	大分
			第二十二	第二十二	京都	第二十一	第二十一	大分
			第二十三	第二十三	京都	第二十二	第二十二	大分
			第二十四	第二十四	京都	第二十三	第二十三	大分
			第二十五	第二十五	京都	第二十四	第二十四	大分
			第二十六	第二十六	京都	第二十五	第二十五	大分
			第二十七	第二十七	京都	第二十六	第二十六	大分
			第二十八	第二十八	京都	第二十七	第二十七	大分
			第二十九	第二十九	京都	第二十八	第二十八	大分
			第三十	第三十	京都	第二十九	第二十九	大分
			第三十一	第三十一	京都	第三十	第三十	大分
			第三十二	第三十二	京都	第三十一	第三十一	大分
			第三十三	第三十三	京都	第三十二	第三十二	大分
			第三十四	第三十四	京都	第三十三	第三十三	大分
			第三十五	第三十五	京都	第三十四	第三十四	大分
			第三十六	第三十六	京都	第三十五	第三十五	大分
			第三十七	第三十七	京都	第三十六	第三十六	大分
			第三十八	第三十八	京都	第三十七	第三十七	大分
			第三十九	第三十九	京都	第三十八	第三十八	大分
			第四十	第四十	京都	第三十九	第三十九	大分

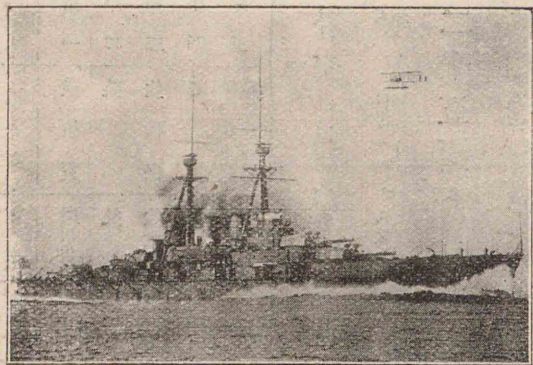
馬に警備隊、臺灣・朝鮮・關東州・滿洲等には、各守備の兵あり。全國の

第五	廣島	第九	山口	第十五	豐橋	第十七	靜岡
第六	熊本	第十	鹿兒島	第十六	京都	第十八	京都
第七	旭川	第十一	鹿児島	第十七	岡山	第十九	京都
第八	弘前	第十二	熊本	第十八	久留米	第二十	大分
第九	金澤	第十三	山形	第十九	龍山	第二十一	大分
		第十四	秋田	第二十	久留米	第二十二	大分
		第十五	富山	第二十一	龍山	第二十三	大分
		第十六	石川	第二十二	久留米	第二十四	大分
		第十七	福井	第二十三	龍山	第二十五	大分
		第十八	滋賀	第二十四	久留米	第二十六	大分
		第十九	岐阜	第二十五	龍山	第二十七	大分
		第二十	愛知	第二十六	久留米	第二十八	大分
		第二十一	三重	第二十七	龍山	第二十九	大分
		第二十二	奈良	第二十八	久留米	第三十	大分
		第二十三	和歌山	第二十九	龍山	第三十一	大分
		第二十四	徳島	第三十	久留米	第三十二	大分
		第二十五	香川	第三十一	龍山	第三十三	大分
		第二十六	高松	第三十二	久留米	第三十四	大分
		第二十七	愛媛	第三十三	龍山	第三十五	大分
		第二十八	高知	第三十四	久留米	第三十六	大分
		第二十九	福岡	第三十五	龍山	第三十七	大分
		第三十	佐賀	第三十六	久留米	第三十八	大分
		第三十一	熊本	第三十七	龍山	第三十九	大分
		第三十二	鹿兒島	第三十八	久留米	第四十	大分
		第三十三	鹿児島	第三十九	龍山		
		第三十四	宮崎	第四十	久留米		

海岸に於ける要地には、要塞を設けらる。

海軍には戰艦・巡洋戰艦・巡洋艦・海防艦・砲艦・驅逐艦・水雷艇・潛航艇等ありて、總噸數六十萬噸に達せり。

全國の海岸海面を五海軍區に分ち、各區に軍港を各軍港に鎮守府を設くるが、又鎮守府に附屬せる要港處々にあり。



巡洋戰艦金剛

航空大隊は埼玉縣所澤にあり
重砲兵旅團司令部所在地
第一 横須賀
第二 下關
要塞司令部所在地
横須賀 由良
忠海 廣島
下關 舞鶴
函館 佐世保
長崎 基隆
馬公 鎮海
元山 旅順

要港
大湊 馬公
竹敷 永興

關東州の海岸海面を關東州海軍區とし當分佐世保鎮守府之を兼管す
旅順は關東州の要港なり

海軍區	鎮守府	軍港
第一	橫須賀	橫須賀
第二	吳	吳
第三	佐世保	佐世保
第四	舞鶴	舞鶴
第五	當分佐世保鎮守府兼管	鎮海灣

軍事上の重要機關には、陸軍に參謀本部、海軍に軍令部ありて、共に國防用兵を掌り、此の外、尙軍事上の最高顧問たる元帥府、重要軍務の諮詢機關たる軍事參議院等あり。

外交

我が國は明治維新以來開國の方針定まり、通商航海等に關して、條約を締結せしもの二十五國あり、就中英國とは攻守同盟を結びて、最も親善と稱せられ、露佛二國とも協約を行ひ、是等の諸國及び獨逸、伊、米の四國とは互に大使を交換し、他の諸國とは概ね公使を交換せり。又各國

の生業、交通等の要地には、領事を置けり。
財政 帝國の財政は日清、日露の兩戰役を経て、大いに膨脹し、大正五年度の豫算に於ては、歳出歳入共に、各六億圓に近からんとす。重なる歳出は陸海軍兩省及び大藏省の所管にして、總歳出の約七割に當れり。又重なる歳入は租稅、官業及び官有財産收入、印紙收入等にして、租稅は酒稅、地租、關稅、所得稅、營業稅等に分かる。國債も日露戰役後著しく膨脹して、凡そ二十五億圓に達し、其の中、外國債は十五億圓を占む。

條約		
加 利 米 亞	巴 羅 歐	亞細亞
亞爾然丁 哥倫比亞 秘露 伯刺西爾 ハリピア	北亞米利加合衆國 墨西哥 伊太利 希臘	支那 暹羅 露西亞 瑞典 獨逸 瑞西 和蘭 英吉利 西吉利 西班牙 白耳義 奧地利 洪牙利 諸國

二十五國中獨・
塊二國とは國交
斷絶中なり

各國の要地中名
譽領事を置く所
あり

結論

我が大日本帝國は、亞細亞洲の東部、形勝の位置を占め、國土の大部分溫帶中に位し、氣候概ね良好にして、各種の生物よく發育し、鑛産亦乏しからず、加ふるに近海は頗る水産に

富岡 小田原 一頁 流山 十六 十四 舒園
天子(會)亦(唐島神社) 石 鶴岡 水學(居先)
七(六) (黑澤氏(居先) 大垣(守) 忍津 一(一) 四

112

黑河充

魏川



広島大学図書
2000054763


okaru